

伊能忠敬

研究

史料と伊能図

二〇二〇年 第九十二号 追悼 渡辺一郎さん

伊能忠敬研究会

史料と伊能図「伊能忠敬研究」

二〇二〇年 第九十二号

伊能忠敬研究会

THE INOH TADATAKA JOURNAL
STUDIES OF INOH'S MAP AND WRITINGS

No.92 2020

アメリカ議会図書館蔵
伊能大図196号(島原)・202号(長崎)部分

表紙は雲仙普賢岳が聳える島原半島である。

忠敬一行が測量のためにこの地を訪れたのは、文化9年11月(1812年12月)である。測量は半島の北西の付け根から海岸線を東に向かい、11月4日に半島の北、西郷村に宿泊し、11月6日に島原城下に着した。

島原城下では、寛政4年(1792年)の眉山崩壊により変化した海岸線や海に出現した島を測量した。眉山崩壊による土砂は、町を土砂で埋め尽くし、海まで達して海岸線を海側に移動させ、多くの島を出現させた。島原城下には11月10日まで逗留し、眉山崩壊前後の海岸線と海上に出現した島を一つひとつ測量しており、測量日記には40以上の島の大きさや島間の距離が記録されている。現在では浸蝕によって消えた島も多く、崩壊から20年後の災害の実態を記録した貴重な資料となっている。

島原城下からは、二手に分かれ、忠敬等の本隊は半島の東側の海岸線沿いに南下を続け、坂部等の支隊は半島を横切り千々石街道を西に向かい、千々石村から西側の海岸線沿いに南下して、11月17日に半島西南の南串山村で本隊と合流した。

途中本隊は11月14日に島原の乱の拠点となった原城を訪れ、この時戦死した板倉内膳正重昌の碑を見ている。支隊は11月14日に小浜村から普賢岳の南にある温泉岳に登る街道を測量している。温泉岳には11月18日に本隊も登り、山頂の寺院や諸堂宇を訪れている。

測量を終えた一行は11月19日に島原を離れた。測量の詳細については、本号25〜30ページの「新たに島原藩領の伊能図写本確認―長崎歴史文化博物館の「旧島原図」について―」を参照されたい。

(表紙題字は伊能忠敬の筆跡)

菱山 剛秀

目次 92号

表紙解説

アメリカ議会図書館蔵

伊能大図196号(島原)・202号(長崎)部分 菱山 剛秀

追悼

追悼 渡辺一郎さん

菱山 剛秀

1

伊能図探究三〇年―ともに歩いた世界の街

夫・渡辺一郎と私の旅路

渡辺貞子談

2

第2の人生は伊能図探究

―惜別 渡辺一郎さん―

鈴木 純子

4

悼 渡辺一郎さん

伊能 洋

5

渡辺さんの人生は忠敬そのものでした

高安 克己

5

渡辺一郎氏の功績

星埜 由尚

6

面白い人

伊能 三代

6

渡辺さん、ありがとう

河崎 倫代

7

追悼

哀悼 渡辺一郎先生

宮内 敏

8

渡辺一郎さんとの思い出

堀野 正勝

9

渡辺一郎先生安らかに

馬場 良平

10

渡辺一郎先生を偲んで

奥永 渚

10

渡辺一郎先生に感謝をこめて

田野 圭子

11

「平成の伊能忠敬」を偲んで

高宮 勲・リヨ子

11

新潟県とのつながりが

新沢 義博

13

門前の小僧

山浦 佐智代

14

渡辺さんの後半生は忠敬そのもの

戸村 茂昭

14

いま始めないと間に合わないんです

柏木 隆雄

15

渡辺先生の指導力と実行力

平田 稔

16

渡辺一郎先生のこと

酒井 道久

17

カネホンのとうさん

中村 泰子

17

● 渡辺一郎先生を偲んで

松宮 輝明

19

● 新聞記者が見た「渡辺一郎」

橋田 欣典

20

● 「平成」の伊能忠敬

清水 弟

21

元朝日新聞パリ支局長

● 渡辺一郎氏追悼新聞記事

渡辺 一郎氏年譜

22

研究と話題

● 新たに島原藩領の伊能図写本確認

―長崎歴史文化博物館の「旧島原図」について―

24

● 渡辺一郎氏との出会いと別れ

鈴木 純子

25

● コラム「名」地名について

入江 正利

31

● 土佐の伊能測量3 四十十町―四十十市編

菱山 剛秀

33

● 江戸府内第一次測量の記録(二)

福田 仁

34

● 「文化十二年二月五日の『日記』―

玉造 功

39

● 天草の御用測量と痼病騒ぎ

平田 稔

47

資料

● 「伊能忠敬測量隊の足跡をたどる」連載第二十六回

渡辺 一郎・井上 辰男

51

忠敬談話室

● 地図のまち・佐原のまちづくり

石嶋 博行

68

● ニュース・会員便り・お知らせ

石川 支部ニュース

73

● 伊能図完成二百年・地方展

金沢 海みらい図書館で開催決まる

73

● 伊能忠敬銅像建立20周年記念式典

二〇二〇(令和二)年度 総会報告

74

● 伊能図完成200年記念の集い

伊能図完成200年記念の集い

80

追悼 渡辺一郎さん

代表理事 菱山 剛秀

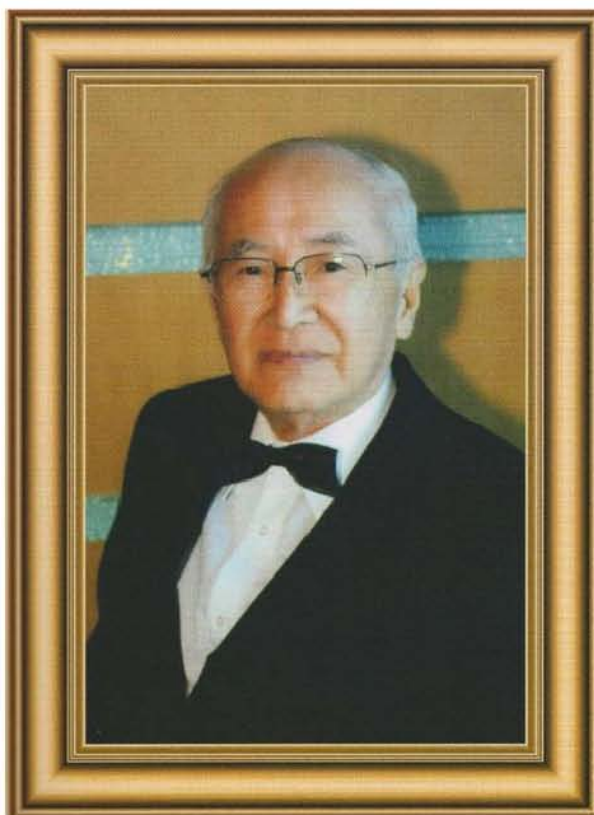
25 年前に渡辺さんが中心になって立ち上げた「伊能忠敬研究会」の多くの会員から追悼の辞が寄せられた。そこには、一人ひとりの渡辺さんとの思い出も綴られており、故人が幅広い交流をされていたことがよく分かる。今号で紹介のあった島原の図もその一例である。亡くなる直前までこの図の評価について、入江元会員と情報交換していたという。

渡辺さんは、周知のとおり、ICT（情報通信技術）の専門家であった。伊能図に興味をもったのも、技術者として、伊能忠敬の地図作成技術に関心を抱いたからではないかと思う。

渡辺さんの最初の取り組みは、伊能図を実見することから始まった。当時は伊能図がどこに所蔵されているかわからず、手探りで国会図書館や国土地理院など地図を所蔵している機関を訪ね歩く中で、眠っていた多くの伊能図の再発見に繋がったと思われる。後に米国議会図書館で伊能大図を見つけたのも、伊能図を見たいという思いと、地道に歩き廻ったときの嗅覚があったからこそ成しえたことと思われる。ご本人は偶然と言っていたが、必然的に伊能図が渡辺さんと呼ば寄せたかと思えない。

海外にまでおよんだ渡辺さんの伊能図探索

により、フランスで確認された中図は日本に戻り、米国で発見された大図はデジタル化した画像を入手することができた。国内での発見も相次ぎ、それまで実態が分からなくなっていた伊能図の全体像が明らかになった。渡辺さんの伊能図所在調査から始まった取り組みは、伊能忠敬の測量開始 200 年とい



依頼に応じ、あるいは、自ら積極的に発信し続けた。親交のあった記者から追悼の辞が寄せられたのも渡辺さんならではのことだろう。渡辺さんは、伊能図や伊能忠敬の測量に関する著書も多く、幅広い知識をもっていたが、ご自分では「専門外のことには手を出さない。」と言って古文書、天文など、専門誌への執筆は専門分野の会員に委ねていた。

むしろ、幅広い人との交流を活かし、ご自分は、全体のマネージメントに徹し、さまざまなイベントを企画し、自ら主導して実施する行動には、他の人が真似のできない手腕を発揮した。その力は晩年になっても衰えず、病氣と闘いながら、2018 年には、全国から伊能忠敬の測量に協力した子孫を集め、伊能忠敬没後 200 年記念事業を成功させた。現在も渡辺さんが企画した伊能図完成 200 年の記念事業が来年（2021 年）の実施に向け、動き始めている。

渡辺さんが第二の人生をかけて、追い求めた伊能忠敬の測量や伊能図の実像が、次第に明らかになる一方で、地方に存在していた古文書が災害や後継者不在などの影響で急速に失われつつあるという新たな課題も認識されてきた。残された私たちが今後取り組みなければならない課題である。

渡辺一郎さんの功績を振り返るとともに、ご指導いただいたことに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。



伊能図探究三〇年——ともに歩いた世界の街

夫・渡辺一郎と私の旅路

渡辺 貞子

今もまだそのままだ

夫・渡辺一郎は六月中旬、突然体調が悪くなり、かかりつけの聖路加病院に搬送されました。入院して六、七日の間は私が「一郎さん」と呼びかけると、「はい」と応えていたのですが、入院八日目頃から呼びかけても返事が返ってこなくなり、六月二十八日に息を引き取りました。夫は日頃から「パソコンも書き物もできなくなったら生きていても仕方がない」と言って自宅のベッド脇に本棚を二つ置いて資料を見たり本を読んだりしておりましたから、こんなに早く逝くとは思っておりませんでした。私は今まで夫のために生きてきたような感じですので、夫がいなくなったらするところがなくなり、何もせずぼんやりしております。部屋はまだそのままだにしてあります。資料がいっぱいで、ちよつとでも触ると「置いたところが分からなくなるから」と怒りますので、いつも散

らかしっぱなしにしておりました。今もまだ片付ける気には、なれずにあります。

裏方に徹して

私どもが結婚いたしましたのは昭和三十一年のことです。渡辺が二七歳、私が二三歳のときに明治記念館で式を挙げ、六十五年間連れ添いました。渡辺は伊能忠敬専門で、家のことなど生活面には全く関知しませんでした。ある時、私がぎっくり腰になってしまい、横になったきり動けなくなることがありました。夜になり、渡辺が帰宅しましたので、「今日はご飯が作れないから外で食べてきてください」と言いますと、「そうか」と言っておかけました。しばらくして戻ってきましたので、「ごはん、食べてきたよ」と答えます。それで「私の分は？」と聞きますと「ん？お前はそこにいたのか」というのです。私の食事のことなど念頭にないのです。万事この調子で、悪気はないのですが、気が利かないというか、すべて自分の興味あることにしか頭が回らないのでした。それでも結婚してから一度も喧嘩をしたことがありません。私は結婚するときに「絶対に口争いしない」ことを心に誓い、それを破ることはありませんでしたから。私がい

海外旅行の支度

渡辺とたくさん旅行をいたしました。数えま

チン、スペイン、世界中いろいろなところに行きました。ただしアフリカだけは衛生が心配だからやめておこう、と言って行きませんでした。本当にたくさんさんの旅の思い出が満ちあふれています。さまざまな国、あちこちの街をふたりで訪ね、その中で伊能図の発見という出来事もあったのです。

旅行に行くときはどこに行くにも私が『地球の歩き方』で調べて手配をいたしました。渡辺は地図を広げて、「まずここへ行って、その次はここ、」と計画をする役です。企画するのが好きだったのです。それを実行に移すのは私の役でした。ホテルは渡辺がインターネットで予約して、チケットは私がJTBに通って手続しました。船は三ヶ月前、飛行機は二八日前に予約しないといけませんので、五月出発なのに二月から準備をしました。また、あらかじめ荷物を送る必要がありました。渡辺は腎臓が悪いので低タンパクの食材、たとえば米、かつおぶし、味噌、醤油、それから食材の重さを計るために秤（ハカリ）を持って行きました。ホテルはキッチン付きホテルに滞在し、そこで低タンパクの食事を作りました。大体十五日から一か月の旅ですが、いつも一週間分くらいの食材を日本からホテルに送っておくのです。到着したら現地の日本料理店に行き、そこで日本の食材はどこで買えるか聞きました。多くの場合は日本だけでなく、中華やアジア料理の食材を売っているお店でしたが、そこに買い出しに行くのです。歩いては行けないので電車で行きました。そうやって食材が手に入るまでの一週間分だけ用意していくのです。そんな準備がいろいろありましたが、渡辺は何も知りませんでした。出発の前の晩になって「支度できた？」と聞くのです。あの人はい

つも自分のやりたいことで頭がいっぱいで、他のことは何もしません。それが日常でした。

はじまりはフランス中図

フランスのペイレさんを訪ねたのは一九九五年三月のことでした。すべてのことは、この「ペイレ図」から始まったのです。日経新聞のフランスの民家で地図が見つかったという記事を見て、渡辺がペイレさんに英文の手紙を出しました。すると、なぜか新潟から返事が来たのです。ペイレさんの息子さんの奥様が日本人で、その方のご実家がペイレさんからの伝言をくださったのです。それでパリ郊外オルリー空港近くのペイレさんの自宅へ行きました。巻物になった古い地図を見てその迫力に驚きました。後日、地図が見つかったムティエ・サン・ジャン村の別荘の屋根裏にも行き、一体いつからここにあったのかと呆然としました。この訪問がきっかけで伊能忠敬研究会が発足し、伊能ブームが始まりました。二五年前のことです。

グリニッチの英国小図

同じ一九九五年の十二月に英国のロンドン近郊グリニッチの海事博物館に小図を見に行きました。その日は雪で鉄道が止まり、ロンドンからタクシーで行きました。博物館からまた車で十五分の倉庫に案内され、幕末に幕府から英国に渡った小図を一時間ほど調査しました。資料がうず高く積み重ねた倉庫の光景が素晴らしかったです。それが何十棟も並んで、さすがは英国だと感動しました。

絵画のようなイタリア中図

翌一九九六年、一〇月にローマに行き、イタリ

ア地理学協会で二枚の美しい伊能図を見ました。協会が所蔵する中図八枚のうちの二枚でしたが、緑色の彩色が綺麗で、まるで絵のようでした。

偶然発見したアメリカ大図

アメリカ大図は二〇〇一年三月、カリブ海クルーズの帰りに見つけたのです。桜の季節なのでワシントンのポトマック河畔の桜を見ようと近郊のアレクサンドリアという町に三泊してリンカーンの記念堂などを訪ね、最後にホワイトハウスに行きました。しかし見学者の長蛇の列にうんざりして、前日にたまたまバス停で出会った日本人留学生から聞いた議会図書館に変更しました。図書館の入口には銃を持った警備員が立っていてセキュリティーが厳重でした。パスポートの写真と同じ笑顔とパスポートと同じ書体のサインを三回要求され、地下三階の閲覧室に行くのに三〇分かかりました。「ジャパニーズ・マップ」が見たいというと、どんどん出てきてテーブルの上には山積みになりました。戦争の戦利品なのか何なのか、アメリカ人も由来がよく分からない地図が沢山ありました。が、どれも伊能図ではありませんでした。すると女性のスタッフが、「Japanese Map がもうひとつあります」というのです。持ってきてもらうと、それが伊能大図でした。渡辺が「我々が伊能図を発見したと言っても誰も信用しないだろうから」と言って、全体の写真と富士山が描かれている部分の写真とカメラで撮り、帰国してから国土地理院に持って行きました。その後、アメリカに返還を求めても無理だろうから、ということと写真を撮って複製することになり、これに彩色してパネルを作って全国でフロア展が開催されました。

思い出は旅とともに

一郎との思い出はやはり海外への旅行のことが多くなります。世界一周旅行もいたしました。船ですと三か月もかかり、低タンパク食の身では無理ですので、飛行機のビジネスクラスで三十七日間で一週しました。船はクイーン・エリザベス号、クイーン・メリー号、飛鳥Ⅱ、エーゲ海やカリブ海クルーズ、ライン下りクルーズ等々。特に私たち二人のために、わかめ・もやし・お揚げ・大根という本格的な味噌汁を出してくれたドナウ川のクルーズ船のおもてなしが心に残っています。そのほか、ドイツのブランデンシュタイン城、オランダのシーボルト記念館、ライデン大学日本語学科の先生にお会いしたこと、搭乗の日を間違えた失敗談など、渡辺とともに旅した幸せな日々の記憶は尽きることがありません。

今もまだここに

最後に一郎のお墓のことですが、今までの家のお墓とは別に新たに建てたいと思っています。場所は生前にはどこと決めておりませんでした。が、夫はかねがね「高野山はいいね」と言って何度も訪ねておりましたので高野山がいいだろうか、それとも今の住まいから近い築地本願寺がいいかしら、あるいは夫は寒がりでしたから、瀬戸内とか暖かい地方がいいかもしれないと娘と相談しているところです。いつになるのかは分かりません。今はまだ一郎はここに、一緒に居ります。(談)

(わたなべ ていこ 渡辺一郎氏夫人・元会員)

(聞き手・前田幸子)

【写真】二〇二二年アラスカクルーズの船内にて撮影

第2の人生は伊能図探究

―惜別 渡辺一郎さん―

鈴木 純子

伊能忠敬研究会の設立者、名誉会員の渡辺一郎さんが2020年（令和2年）6月28日に他界されました。90歳という高齢で食事制限もありというご事情はかねて存じてはおりましたが、ひと山過ぎればさらに次の目標に向かって文字通り邁進なさるご様子にふれるにつけ、勝手ながらまだ先のことと思っておりましたので、ご訃報はまさに思いがけなく、茫然として言葉を失いました。寂しく心細いかぎりです。心の深いところから謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員という呼称は軽いという印象があるかと思いますが、代表理事、次いで名誉代表兼理事を長くつとめられ、研究会を牽引してこられたことはどなたもご承知のとおりで、ご自身のお望みもあって2019年度からご負担のない名誉会員というかたちにさせていたいただいたものです。

渡辺さんのご経歴については別記に委ねますが、伊能忠敬先生の人生二山をご自身が体現なさった生涯だったといえるでしょう。その第2ラウンドに多少ともかわることができたことは、私にとっても意義深く、幸いなことであつたと感謝しております。

渡辺さんが現代に伝わる全ての伊能図を見ようという望みを固められた機縁が、国立国会図書館所蔵の文化元年沿海小図（堀田正敦旧蔵、

以下地図の名称はいずれも略称）をご覧になり、その精緻さに感動されたことにあつたということとは、ご自身折にふれて話しておられました。その時お相手したのは当時同館に勤務していた私でした。いつ頃のことだったか今では霧の中ですが、40代の終わりごろだったということなので、逆算すると40年余り前ということになります。スタート地点での出会いも稀有なご縁であつたと感じます。ただし、以来当分は新しいお仕事にも就かれており、本格始動は1990年代半ばということになるでしょう。所蔵先との交渉も含めて全て個人で実現されたイギリス小図の複製、イヴ・ペイレ氏旧蔵中図の里帰り、それに発した伊能忠敬研究会の発足、江戸東京博物館の伊能忠敬展などへとつながります。やがて、伊能ウオーク、銅像建立、アメリカ大図発見とフロア展、『伊能大図総覧』『伊能図大全』出版、そして著述など発展に限りはありませんでした。イギリスでの小図閲覧は1992年に試みましたが、事前の予約手続きが無かったためこのときは閲覧できずに帰国されました。帰国後、博物館に大判フィルムでの撮影を依頼し、その複製ができた1995年1月発行の私家版小冊子「伊能図探究」が発信の第一歩でした。知られずに眠っている伊能図をぜひ世に出したいとの抱負が綴られ、この年10月の6号まで続き、「伊能忠敬研究」に発展します。「伊能忠敬研究」の初号が7号となつて

いるのはその経緯によるものです。発信以前から調査を積み上げておられたことは「伊能図探究」の記事からもうかがえます。

その後、2005年の暮れに再び英国を訪れ

て小図を現地で閲覧するなど、伊能図とその関連資料の探索にかける渡辺さんの意欲と行動力は無限とみえました。アメリカ議会図書館で数日ご一緒した大図調査など懐かしい思い出です。伊能図は個人のコレクションの対象にはなりがたいものですが、探索への渡辺さんの活動の原動力はコレクターの心性だったように思われます。伊能図を芯とする渡辺さんと、地図全般から伊能図へという私の立ち位置は言わば正反対でもあり、「無理」と思う大イベントを万全の手回しで実現してしまうとび抜けた事業力も私には苦手なことでしたが、「あなたは学者だから」と皮肉まじりに受けとめられていたのではないかと思います。

その大イベント、伊能忠敬没後200年の2018年には、ご自身の懸案だった伊能測量関係者顕彰を中心とする諸行事を成功裡に打ち上げ、と思えば次は2021年の伊能図完成200年記念行事へと止まることはありませんでした。もう一息のところでの中断はさぞ心残りだったことと思います。地図完成を見ずに世を去った忠敬先生とここでも重なってしまうとは何かの縁を思わずにはいられません。

伊能忠敬研究会では、渡辺さんのご遺志を想いながら、新しい会員の力も得て、なお地図や史料の探索、より深く広い研究が続けられてゆくはずです。

ご冥福をお祈り申し上げます。

悼 渡辺一郎さん

伊能 洋

渡辺一郎さんとのご縁は、1995年5月に「フランスで伊能中図が発見された」との新聞記事を見て、私の妻陽子がお電話したのが始まりでした。佐原での「フランス中図里帰り展」をきっかけに、渡辺さん、安藤由紀子さん、陽子を中心に「伊能忠敬研究会」が誕生しました。

渡辺さんの仕事については、とても一口では言えませんが、忠敬への強い思い入れと抜群の行動力、そしてアメリカ大図発見に見られるような強運の持ち主でなければ、多くのプランが実現しなかったでしょう。

忠敬研究会が全国に根を下ろして200名におよぶ会員を持つまでに発展し、研究誌が90号を超えて発刊されていることは、忠敬の顕彰と忠敬学の発展に大きな力となりました。

特に印象に残っているのは、大図の着彩復元の話です。2001年に渡辺さんがアメリカの議会図書館で見えられた伊能大図207枚のほとんどが線画のみでした。「彩色復元したいので、監修協力してよ」と渡辺さんから頼まれたのは2002年5月のことでした。

私のアトリエは平成の地図御用所と化し、ほぼ一年にわたり美大の日本画専攻のお嬢さん方が毎日のように現れ、国土地理院から運ばれる大図の彩色に夜遅くまで励んだことでした。仕上がった地図は、先ず東京国立博物館でのフロア展に発展しました。

常に新しいプランを考えておられ、直ぐに電話

で「洋さんどう思う？」と意見を求められました。が、めったに自説を曲げられることはありませんでした。

長年の持病で食事制限なども多く、週3回の透析に耐えながら常に笑顔を絶やさず、最後まで忠敬ヲタクを貫かれた晩年は見事でした。貞子夫人の献身的なバックアップも忘れるわけにはゆきません。

渡辺さん、本当に長い間ご苦労さまでした。

ヲタクサや 先ず忠敬に 逢はれしか 洋
（「ヲタクサ」はシーボルトが命名した紫陽花の別名）

渡辺さんの人生は忠敬そのものでした

高安 克己

私が渡辺さんに初めてお会いしたのは、2010年に松江で開催されることになった伊能大図フロア展の準備のためにその年の5月に来松された時でした。打合せの後、伊能忠敬が200年前に立ち寄ったと思われる寺社などをご案内しましたが、すでにご高齢にもかかわらず歩くのがとても速く、100段以上もある階段を難なく登っていくお元氣さには心底驚かされました。測量隊を率いて全国を巡り歩いた伊能忠敬の姿が重なって見えた気がしました。

たまたまその年に私は松江を離れ千葉の実家に戻りましたが、これを機会に伊能図についてもう少し勉強してみようと思い、渡辺さんに相談しま

した。すると、会誌の編集と発行を担当して欲しいといきなりいわれ、少々戸惑いましたが、会員の皆さんの研究成果に直接触れることができる良い機会だと思い、62号からお引き受けしました。そして、会誌のカラー化、DTP化、A4版化など、渡辺さんは次々とアイディアを指示される中、ご自分でも積極的に記事を書かれ、多くの会員に投稿を呼びかけてくださりました。そのリーダーシップとバイタリティにはいつもながら頭の下がる思いでした。

伊能研究の発展に捧げた渡辺さんの人生は、伊能忠敬の生き方そのものだったように思います。ご苦勞様でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。



伊能大図フロア展（松江）の際に渡辺さんを囲んで話を伺った面々

渡辺一郎氏の功績

星埜 由尚

伊能忠敬研究会を立ち上げ、その運営に貢献された名誉会員渡辺一郎氏が亡くなりました。謹んでご冥福を祈りたい。

渡辺一郎氏は、よく知られているように、N Tの技術者出身で地理学・地図学・測量学などの出身ではない。N T Tを退職された頃から、伊能図に触れる機会があり、感銘を受け、地図に関連する分野も大変勉強され、伊能忠敬の業績に関してはまず名前の挙げられる碩学と成られた。晩年は、伊能忠敬とともに過ごされたと言ってもよいであろう。まさに、伊能忠敬の生涯と同様に人生二山の道をたどられたのである。

渡辺一郎氏の功績は、いろいろあるが、私は、大きく二つの点にあると思っている。まず一つは、それまで埋もれていた伊能図を見いだしたことである。アメリカ議会図書館で見いだされた明治初期の模写図、いわゆるアメリカ大図、フランスで発見された中図、いわゆるフランス中図、東京国立博物館の小図、海上保安庁海洋情報部の模写図など、それらが世に出たことに渡辺一郎氏が関与した伊能図はさまざまである。特に、アメリカ大図は、渡辺一郎氏が見いださなければ、未だにその存在は明らかになっていなかったであろう。

あと一つは、これらの伊能図や伊能忠敬の業績、人物像など、伊能忠敬という歴史上の人物の名前と功績とを普及したことである。なかでも、アメリカ大図の存在が明らかとなり、これらの複製パネルなどを作成し、体育館などで床展示した「伊能図フロア展」の仕掛け人としての活躍は、渡辺

一郎氏の面目躍如たるものであった。このフロア展により伊能図の素晴らしさ、面白さを感じた方々も多かったのではないかと思われる。傘寿を過ぎてなお矍鑠として入場者に説明されていた姿を思い出す。そのほか、『伊能大図総覧』『伊能図大全』などの監修や著書を通じて、伊能図の姿を広く知らしめた功績は大きい。

渡辺一郎氏のこれらの催しの発案・運営に当たった姿勢は、お歳にも拘わらず極めて積極果敢であった。ご自分でよいと思った方針は、自説を曲げずに持ち前の指導力で進めていくという腕力があり、我々がたじたじとなる場面も間々あり、清らかな頭脳との太刀打ちに苦労したことなどが思い出される。このような力強い企画力・実行力・指導力が伊能忠敬に関する様々な催しを成功に導いた原動力であったと言えるだろう。

私は、国土地理院に奉職し、在職中は伊能忠敬研究を支援する立場であったが、退職とともに伊能忠敬研究会に入会させて頂いた。その後、渡辺一郎氏の後任の代表理事を務め、「伊能図フロア展」の実施、『伊能大図総覧』の編纂などを渡辺一郎氏のご指導の下にご一緒させて頂いた。私の未熟な伊能忠敬研究も渡辺一郎氏の薫陶のなすところでもあり、感謝申し上げます。伊能図及び伊能忠敬に関して、渡辺一郎氏を初めとして先学の方々の多くの研究があるが、私が関心を持つ伊能測量・伊能図の科学技術的側面に関しては、まだまだ明らかとなっていない部分が多く、これからの人々にその面の探求がさらに求められている。渡辺一郎氏も泉下でそのことを願っておられるのではないだろうか。

合掌

面白い人

伊能 二三代

札幌に住む私は、渡辺さんがお亡くなりになった事を伊能敏雄氏のFBで知った時、「エー」と、叫んでしまいました。信じられなかったからです。総会の時、いつも私の顔を見ては「いつ見ても面白い人だな」と笑顔で話しかけてくださったこと、いつも楽しみにしていました。

ここ数年、色々な事情で総会出席出来ませんでした。アジのたたきが大好きだった渡辺さん

今なら、札幌の空にも全国どちらでも、忠敬のように空を歩いていらつしやると思います。

渡辺さん、ありがとうございます。また絶対もう一つの世界でお会いしましょう。

その時にもまた「あなたは、面白い」と話しかけて下さいね。

追伸、亡き父と誕生日（11月2日）同じでした。



渡辺さん、ありがとう

河崎 倫代

「我が町に平成の伊能忠敬がやって来る！」と題した講演会が開かれたのは、2003（平成15）年8月26日。場所は、石川県鹿島郡中島町（現、七尾市中島町）多目的ホール。講演者は、伊能忠敬研究会代表理事渡辺一郎氏。東京国立博物館蔵「伊能中国」、英国グリニッジ海事博物館蔵「伊能小図」、呉市入船山記念館蔵「浦島測量之図」等の複製を展示し、河崎が前座を務めた。当時の中島町生涯学習課が用意したチラシには、

今からちょうど200年前の1803年8月26日（享和3年7月10日）、伊能忠敬が中島町を訪れました。『測量日記』によると、午後4時ごろ中島に到着し、組頭の与左衛門宅に泊まったと書かれています。このようなユニークなお話を聞きませんか？

とあり、当日は約120名もの町民が参加した。この年は、「加賀藩測量200年」にあたることから、石川県内のどこかで伊能図展示・講演会を開催したいと思っていた。中島町にお願いしたのは、私の中学校時代の恩師宮田勝雄・也寸子先生ご夫妻とのご縁があったところだった。講師を渡辺代表理事にお願いしたところ、かなりの遠方にも関わらず、快くお受けいただいた。奥様も一緒に御出でになるというので、やや緊張気味でお待ちしていた記憶がある。

当日、中島町役場の前で待っていると、奥様と自家用車で到着されたのには驚いた。東京を出立し、富山県滑川市の親戚宅に立ち寄ってから、能登半島中ほどの中島町に着いたという。講演会は

興味深い内容で、その後の複製伊能図を囲んでの質疑応答も楽しい雰囲気の中で盛り上がった（会報35号に報告あり）。ちょうど200年前のこの日、ここ中島町で伊能測量が行われたという事実が、地元町民にとっても私にとっても感慨深いことであつたし、渡辺さんにとっても、このような設定下での講演会はもしかしたら最初で最後の経験だったかも知れない。生前にそのことを確認できなかったのは、悔いが残る幾つかの事項の一つである。

その晩は、ご夫妻と河崎夫婦で和倉温泉郷に泊。翌日は金沢で一泊。翌々日、小松市の古刹那谷寺へ出かけ、石川県内で唯一確認されていた伊能図「沿海小図」（写本）を調査していただいた（会報35号に当時の新聞記事あり）。

講演会と伊能図調査を終えて東京へお帰りになるものと思っていた私は、またまた驚かされた。「これから山陰を回って東京へ帰る予定」とのこと。諸国の「一ノ宮詣」が楽しみだという意外な一面を見せていただいた。

今、振り返ってみると、当時、渡辺さんは73歳。

現在、私は71歳。とてもじゃないが、あのような長距離ドライブを楽しむ気力も体力もない。驚く私に、渡辺さんは「うちの奥さんは凄いですよ」とおっしゃった。かなりの行程を奥様が運転していらつしやったのかも知れない。その後何度か、「うちの奥さんは凄いですよ」という言葉を聞いている。海外での伊能図発見・調査の旅も、必ず奥様が一緒だった。渡辺さんから沢山の驚きをいただいたが、同じ北陸出身の女性として、奥様のパワーの秘密を探りたいという思いも芽生えた。

その後、2009年4月には、能登半島最北端、珠洲市狼煙町までお越しいただき、私が3年前に開館した私設ミニ資料館を応援して下さった。感謝、感謝である。

今思うに、若年寄堀田正敦、天文方高橋至時・景保、間重富がいて伊能忠敬の全国測量が達成できたのは事実だが、伊能忠敬に代わって、間宮林蔵であっても、近藤重蔵であっても、他の誰であっても、この事業は達成されなかったと断言できる。同じく、現代日本において、渡辺一郎さんがいなかったら、今の伊能忠敬をめぐる事情は大きく違っていたし、私の人生も随分と違ったものになっていたと断言できる。

渡辺一郎さん、ありがとう！



狼煙町出身の画家寺井重三の作品が並ぶ「蔵画廊」でくつろぐ渡辺ご夫妻



追悼

宮内 敏

この度は誠にご愁傷様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より、渡辺一郎先生のご訃報のメールを頂き、大変驚きました。と言いますのも、二月頃だと思のですが「令和の伊能大図を作っているので手伝ってくれないか」という電話を頂き、用事が重なっていた私は「六月ごろまでは無理ですが、その後でよろしければ」とお応えしていたからです。

先生との出会いは伊能洋様のご紹介で伊能忠敬研究会に入会したことに始まります。その後、研究会の研修旅行が「伊能忠敬翁のふるさと佐原を尋ねて」と題して十七年の六月行われ、その宿泊先となった「鯉屋」での懇親会に参加させて頂きました。宿泊はしませんでした。翌日の研修にも同行させて頂きました。この懇親会を経て先生はじめ会員の皆様方に、近しくさせて頂いたことになりました。

先生との思い出は多くありますが、ここでは何度も足を運ばれた銚子との関連から二つを紹介させて頂きます。

一、NHK・BS歴史館「伊能忠敬」が2012年10月4日に放送されましたが、その模擬測量のビデオ撮りを銚子で行うので協力して欲しいとのことでした。測量隊員には夏休み中とあって地元の千葉科学大学の学生さんにお願ひし、撮影場所は当初犬吠埼周辺を考えていましたが、許可が得られないため、犬吠周辺は測量風景撮りに留め、

地図作成のための測量場所は少し離れた長崎になりました。心配症の私は、事前にコンパスと巻き尺のみで、どの程度の地図ができるのか、手順や所要時間なども併せて調べました。

模擬測量のビデオ撮りは九月一日(土)行われましたが、この日は偶然にも二十一年前、伊能忠敬測量隊は富士山の方位を測るべく銚子に滞在中でした。忠敬の足跡を意識しつつの測量は、早朝より午後三時頃までかかりました。その後、場所を移しての作図作業です。作図方法の説明の後、作業開始です。はじめは喧々諤々とした雰囲気でしたが次第に慣れて長崎の海岸線が図に現れてくると歓声が上がりました。こうして午後八時前に全ての撮影が終了しました。

後日、渋谷の放送センターでの収録に際し、渡辺先生から彎窠羅針をスタジオまで届けてほしいとの連絡を受け持参しました。間もなくして、番組司会の渡辺真理、名誉代表渡辺一郎、静岡文化芸術大学准教授磯田道史、コラムニスト天野祐吉の各氏がお馴染みの歴史館のテーブルにつき、撮影が開始されました。私は最初から終わりまで至近距離から見学させて頂いた。貴重な体験をすることができました。

時間をかけて準備した測量風景でしたが放送された時間は五分弱でした。しかし、この経験は後の2018年12月放送のBSII歴史科学捜査班「日本地図に隠された伊能忠敬の野望」のビデオ撮りに大いに活かされることになりました。(この撮影も渡辺先生を介して依頼されたものです)

二、理事会後の昼食会のおり、「銚子に、伊能忠敬銚子測量記念碑を建てたいと思っている」とお話

すると「協力しますよ」と快諾され、間を置かず渡辺様、高安様が銚子まで足を運んでください、当時の銚子市長さんに銚子測量の重要性について熱くお話されことを記憶しています。このことが後の記念碑建立のきっかけとなりました。

建立の計画は、その後、紆余曲折しましたが銚子市制施行八十周年記念事業の一つとして、当時銚子商工会議所会頭であった伊藤浩一様に実行委員会委員長に就いていただき立派な記念碑ができました。

その記念碑式典に合わせて、伊能忠敬研究会の研修旅行が銚子で行なわれました。

除幕式前日、記念碑建立実行委員会主催の一般市民向け第二回記念講演会が行われ、メインゲストの渡辺一郎先生より『忠敬は何故測量をはじめたか』と題して講演をいただきました。一般市民に混じって多くの伊能忠敬研究会会員の参加がありました。

除幕式当日は雲一つない晴天に恵まれ、銚子市長、香取市長はじめ来賓の方々や一般市民、両市のゆるキャラ「ちゅうけいSUN」、「ジオちよ」も参加して盛大に行われました。祝賀会は千葉科学大学現シーズマリーナに移して行われました。

伊能研究会員は午前中、除幕式と祝賀会に出席、午後は銚子ジオパーク市民の会によるジオツアーに参加しました。(屏風ヶ浦く犬岩く愛宕山の地球が丸く見える展望館そして帰路に)

この日は私にとって忘れることのできない一日となりました。

伊能忠敬銚子測量記念碑は銚子ジオパークの景勝地、屏風ヶ浦の一角で、ここを訪れる多くの方々にとっても愛されることでしょう。

哀悼 渡辺一郎先生

石川 清一

渡辺先生の訃報を聞き、一瞬耳を疑った。六月中旬頃にはお元気で、来年の最終形伊能全図の幕府上呈二〇〇年に向け、新たな企画を練っておられると聞いていたので、正に「巨星墜つ」の思いです。奥様から一〇日ほどの間に急に悪化したと伺い、本当に残念です。私と渡辺先生との出会いは二十数年前の伊能図研究会の頃で、新聞に載った先生の記事のことでお電話したのが始まりだった。以来私の未熟な問いに丁寧に説明して下さったり、資料管理のアドバイスをもらったり長い間ご指導ご厚誼を頂いた上、伊能忠敬研究会で多くの方との出会いと学びの機会を頂いたことに感謝でいっぱいです。

先生は伊能忠敬研究会の創立者であり、忠敬を世に広めた大功労者と多くの人が認めるところではないでしょうか。その活動、情熱は国内に止まらず、世界各地に及び、外国に渡った伊能図の追跡、発掘にも努められた。フランスでの伊能中図の発見、紹介や伊能忠敬についての著作など数かずの業績がある中で、最大の一つがご夫妻でアメリカ旅行中、二〇〇一年ワシントンの米国議会図書館での伊能大図写二〇七枚の発見ではないかと思ひます。それまで大図の写本は国内で六〇枚しかその存在が確認されていなかったが、これを機にその後国内で数枚の確認を得て、一挙に二一四枚の全容が明らかになった地図史上画期的な発見で、当時NHKはじめ全国主要新聞の一面トップで報道されたこと、ご記憶の方も多いと思う。後日渡辺先生から米国議会図書館での女性職員との

生々しいやりとりの話を伺い、興奮したことを覚えています。その後「アメリカ伊能大図フロア展」として全国各地で開催され、大きな反響を呼びましたが、福岡での開会式テープカットにも駆けつけて頂いた。



九州地方「アメリカ伊能大図フロア展」開会式
平成 16 (2004) 年 11 月 26 日 福岡市立少年科学文化会館

九州には度たびおいで下さり、終了後は九州支部一同との懇親にも快く応じて頂いた。

一九九九年からスタートした「伊能ウオーク」の福岡での出発式には、故伊能陽子さん（伊能洋氏夫人 元会員）とおいでになり、私もお二方と一緒に 4 km ほど歩いたことも懐かしい思い出です。先生七〇歳頃だったと思いますが、一時期「全国一の宮巡り」をされた時に遠路マイカーを運転し、福岡に一泊した。その折先生ご夫妻とお好きな日

本酒での夕食のひとつも忘れられません。一昨年の四月の「忠敬没後二〇〇年協力者顕彰会」が最後の大事業となりましたが、終わって一段落した五月にお電話した時には長年の構想が実現し、盛会裡に無事終了できたことに満足されていたように思います。渡辺先生の N T T 退職後の後半生は、伊能忠敬を世に広める活動であった。晩年は病との闘いもあり、本当にお疲れ様でした。思い出は尽きません。心からご冥福をお祈りいたします。

（九州支部長）



渡辺名誉代表夫妻と九州支部有志一同との懇談会
平成 19 (2007) 年 4 月 21 日

渡辺一郎さんの思い出

―伊能ウオークへのサポートが縁で20数年來の付き合いが始まる―

堀野 正勝

日本ウオーキング協会との付き合いは、1989年(平成元)年に転勤となった国土地理院近畿地方測量部次長時代にさかのぼる。花博の準備や日本土地家屋調査士会連合会大阪会との付き合いの中から、大阪府ウオーキング協会のメンバーが私を訪ねてきて、ウオーキングのコース作成に協力してほしい旨申し入れてきた。その趣旨に賛同し、地形図を活用してのコース設計に協力が始まった。堺の天皇陵周辺だったように思う。

このような縁もあり、日本ウオーキング協会・木谷道宣専務理事、伊能忠敬研究会・渡辺一郎氏等により、国土地理院へ「伊能ウオークのバックアップ」の依頼がなされ、当時の院長はじめ国土地理院有志が勝手連を組み「伊能ウオーク」を応援することとなったと記憶している。1997年頃であったと思う。

伊能ウオークは、1999年の1月25日に東京を出発し、2001年1月1日に東京へゴールする全国を一筆書きで歩くイベントで、11,000kmにも及んだビックプロジェクトであった。イベント終了後、渡辺一郎さんと木谷さんらが国土地理院関東地方測量部を訪れ、「ゴール後の記念に伊能忠敬の銅像を富岡八幡宮に建立したい」という話であった。堀野(当時部長)らは大いに意義を感じ、全国の多くの測量地図関係者・ウオーカー等に声をかけ、協賛を得て、今日の立派な銅像

が出来上がったのである。渡辺一郎さんは、伊能忠敬研究が脂の乗りきった時期で、熱心に持論を展開し、その重要性を話されていたのが今でも脳裏に残っている。

渡辺一郎さんは、1995年フランスで発見された伊能中図の里帰り展(佐原市など)を開き、フランス中図の日本への買取りを図るなど、伊能図資料の国内外での発掘を含め多大な尽力をされたまさに「現代の伊能忠敬」と言われてもおかしくない人であったと思う。

2009年4月の深川会場を皮切りに、2015年2月の佐賀会場まで、全国28会場で行われた「完全復元伊能図全国巡回フロア展」(112,200人入場)は、多くの国民に伊能忠敬の事績を紹介する大変素晴らしいイベントであったと思う。

このイベントは、渡辺一郎さんを軸に伊能忠敬研究会や日本ウオーキング協会等の全国の仲間たちに支えられ開催され、日本国内外の優良図を集大成する伊能図展となったと思う。渡辺一郎さんは、高齢を押して全国を巡回し、伊能忠敬と伊能測量に関する講演や伊能図の解説を熱心に行っていたのを昨日のように思い出す。

渡辺一郎さんは、晩年、大河ドラマ「伊能忠敬」の実現を目指し、また、伊能図完成200年記念事業の成功を期し、最後まで勢力的に活動をされていたが、夢半ばにして旅立たれた。しかし、その夢は伊能忠敬研究会や多くの伊能忠敬を愛する仲間を引き継がれていくことと思う。黄泉(よみ)の世界でも、口角泡を飛ばし、熱く伊能忠敬を語っている姿が目に見えよう。

25年余の長きに渡るお付き合いに感謝し、合掌。

渡辺一郎先生安らかに

馬場 良平

江戸時代の測量家・伊能忠敬の業績を、現代に生きる人々に広く、分かりやすく伝える活動をして来られた伊能忠敬研究の第一人者、渡辺一郎様が6月28日亡くなりました。90歳でした。佐賀県と渡辺先生の関係を深くしたのは、自身が伊能図歴訪の旅先・アメリカ議会図書館で発見された伊能大図模写本207枚などをコンピュータグラフィックスにより美しく蘇らせた実寸大伊能図の「完全復元伊能図全国巡回フロア展」開催でした。県内でも平成24年8月佐賀市、平成27年2月唐津市と2会場で開催され、自ら会場に立たれ、記念講演もされ、多くの方々に伊能図の魅力、伊能忠敬の生き方などをご教示されました。佐賀県内には、渡辺ファンがたくさんいらっしゃることも事実です。

自身の著書のなかに「若者は大きな夢に挑戦して欲しい。働き盛りの人は、忠敬にならって、一歩を踏み出す勇氣を持って欲しい。そして、熟年世代は第二の人生の生き方として、ぜひ忠敬を参考にして欲しいと思う。」と記してあります。大いに参考になるものです。渡辺先生は自ら伊能忠敬の生き方を実践された正に現代の伊能忠敬でした。私の伊能忠敬研究は道半ばにあります。渡辺一郎先生の生きざまを見習い、これからも伊能忠敬の魅力や測量隊の足跡調査など研究を続けてゆきたいと思っています。今はただ、「忠敬さん」について熱く語られる姿を思い浮かべながらご冥福をお祈りいたします。

渡辺 一郎先生を偲んで

奥永 渚

令和2年7月1日、朝、叔母からのLINEで渡辺一郎先生の訃報を知り、「去年総会でお会いしたの!!」と、とても信じられない気持ちでした。先生とのメールでのやり取りの中で田川郷土研究会の活動や、町の広報誌で伊能忠敬が取り上げられたことを報告すると、とても喜んでいてくれたことを思い出します。

福岡県苅田町で開催された伊能忠敬のシンポジウムで、私は田川郷土研究会の中野先生に声をかけて頂き、初めてトークショーに出演させてもらいました。

そのことを渡辺先生に報告したところ、先生から頂いたメールの中に、こんな一文がありました。

「奥永さん、よかったですね。
謙虚に、誰にでも、賑やかに話しかけてください。
あなたは血流なのですから。」

私にとってはハッとさせられる言葉であると同時に、渡辺先生の洞察力にも驚かされました。改めて大切なことを教えてもらったと思っています。このメールは保護をして、何度も何度も読み返しました。

先生が亡くなつてすぐ、インターネットをしていると、ふと毎日新聞の記事「渡辺 一郎さん死去、忠敬の人生と重なり」の見出しが目に残りました。その時、私は、

「もしかしたらあの言葉は、今は亡き忠敬翁が自分の人生と重なる生き方をしている渡辺先生を通して、私に与えた教訓なのかもしれない。」と感じていました。

渡辺 一郎先生、今までいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

先生とはもともといろいろなお話をしておけばよかったなど、とても残念です。

これから先、私が弱気になった時、先生の言葉に支えられると思います。

感謝しています。どうぞ安らかに眠りください。



姉と先生と私
2019. 6. 2 伊能忠敬研究会総会

渡辺 一郎さんの思い出

田野 圭子

はじめに

渡辺 一郎先生に初めて連絡をしたのは会報誌66号の「シーボルト日本図の原図を求めて ブラデンシュタイン城訪問記 渡辺 一郎」を見たことがきっかけでした。

ブランデンシュタイン氏はシーボルトの子孫でシーボルトの資料を所有し城の中に記念室を設けています。残念ながらこの方にはお会いできなかったと書いてあったのでシーボルトの子孫を知っている人が日本に現在おられますと連絡しました。

シーボルトの伊能図を探す為にさっそく2013年2月10日に東京のパレスホテルに集まりました。この事は2016年第80号に詳しく掲載されています。

渡辺先生は経営者の感覚で広く興味を抱き私の提案に快く応じてくれた事を覚えています。

一、ギーブさんという人

このオーストリア・ハンガリー帝国関係の方々を紹介してくださったのはギーブ・ヘルムトさんです。日本に興味を持ち21才の時はオーストリアの元貴族やウィーンフィルのコンサートマスターのライナー・キュッヒルなどが通う Hotel Germaniaの支配人になったそうです。このホテルは第二次世界大戦の前はホテルハプスブルグでした。日本ではハプスブルグと言いますが正式にはHabsburg なのでハプスブルグと発音するそうです。貴族に対する興味で歴史をよく知る人物として元貴族を繋ぐ要となっていたのです。

渡辺先生は香取市の伊能忠敬翁 没後200年記念式典 平成30（2018）年5月20日にシールボルトの子孫ブランデンシュタイン氏を呼ぶ計画し、信頼できるギープさんに連絡と通訳をしてほしいと頼みました。ギープさんは喜んでメールをブランデンシュタイン氏に送り日本とドイツの架け橋になりたいと協力しました。しかし実現できませんでした。もしギープさんが携わったらオーストリア・ハンガリー帝国公使館時代の子孫が日本の地で再び会うという奇跡を起こすことも可能でした。特にミヒヤエル・クーデンホーフ・カレルギー氏は日本人として初めて正式な欧州貴族の妻になった青山光子の孫です。彼は画家としてオーストリアで認められ2018年9月25日、オーストリア政府からオーストリア科学芸術十字勲章クラス1をいただきその伝達式のレセプションは駐日オーストリア大使館大使公邸で行われました。しかし2018年12月26日肺がんのため永眠されました。伊能忠敬の地図が世界を驚かせ伊能図に係る子孫が日本で会うことは渡辺先生も望んでいましたが、かなわぬ夢となりました。

二、伊能忠敬に関するビデオ作り

渡辺先生から伊能忠敬のビデオを作るので来てほしいと電話がありました。NHKの「プラタモリ」のようにただ歩いて適当に相槌を打ってくれればいいと言っていました。2015年11月15日、忠敬の門前仲町の居宅跡から浅草天文台跡の歩測した道筋を辿る内容でした。台本もなくただ一緒に歩いて時々話せばいいと言われましたが思うようにできなかったのを覚えています。次のビデオは私の娘の香澄がナレーションをしました。

銚子に行き海岸で測量の映像を撮り宮内敏さんがちよんまげの被り物を被ったのが印象的でした。途中から雨が降ってきて大変でした。メンバーは渡辺先生、戸村茂昭さん、横溝高一さん、宮内敏さん、田野親子、プロのカメラマンでした。残念ながらこれらのビデオはお蔵入りになりましたが門前仲町の映像は2018年4月21日、伊能忠敬没後200年記念伊能測量隊協力者顕彰会の懇親会のスクリーンに映されました。



門前仲町で

三、伊豆荏山代官・江川邸

伊能測量隊協力者顕彰会でお会いした江川太郎左衛門のご子孫・江川洋さんにお願ひして江川邸を見学させてもらうことになりました。渡辺先生も調べたい物があるというので娘夫婦にレンタカーを借りて運転してもらい2018年6月27日、

前田幸子さんと5人で江川邸を訪ねました。ここでは顕彰会で江川さんと参加した江川文庫の橋本敬之さんが出迎えてくれました。観光客が入れない中の座敷や古文書などを見ることができました。昼食にお蕎麦屋さんで渡辺先生は腎臓病患者用の低たんぱくごはんのおにぎりを持参していました。こんなものしか食べられないので楽しみがなくなつたと言っていました。この時写真を撮っておけばよかったのですが全員で撮った写真がないのが残念です。帰りの新幹線の中で上の娘の涼香と撮った写真だけでした。

渡辺先生は実業家なので学者にはない指導力でプロジェクトを実行しました。「目標をたて、計画し、チームで実行し、目標を達成する」渡辺先生がいなければできなかったことです。常に伊能忠敬の功績を世に伝える事を考えていた人でした。ご冥福をお祈りいたします。

渡辺一郎先生に感謝をこめて

高宮 勲・リヨ子

渡辺一郎先生の突然の訃報をお聞きし驚いて
います。謹んでお悔やみ申し上げます。

私達が先生に初めてお逢いしたのは、2010
(平成22)年9月28日でした。高宮家に伊能忠
敬の曾孫が二人嫁いでいることの事実関係を先生
の眼で確認する為、わざわざ忠敬生誕地近くの東
金市まで訪問してくださいました。この日高宮家
の墓石の碑文や、曾孫の遺品をご覧になり、更に
山武郡九十九里町にある伊能忠敬記念公園内に建
てられた銅像や、記念碑「伊能忠敬出生の地」に
刻まれた「賛助伊能家姻戚東金町高宮三雄」の刻
銘等を大変ご熱心にご覧になっていらつしやいま
した。

と申しますのは、小生(勲)の友人である戸村
茂昭さんは高宮家に嫁いで来たという忠敬の二人
の曾孫が、伊能忠敬の孫か曾孫のどちらなのかの
時代考証をするために、多方面から調査してくだ
さいました。先生はその調査結果を確認される為
に、高宮本家を訪ねてくれたのでした。

その結果、2011(平成23)年2月12日佐
原市にて開催された「伊能忠敬関係資料国宝指定
記念・伊能忠敬研究会15周年記念」の祝賀会では、
戸村さんが「伊能忠敬の長女・お稲の血筋につい
ての新事実」と題して貴重な講演をしてください
ました。これも偏に渡辺先生のお蔭だと感謝して
おります。

その後、先生のお勧めで、2011年から4年
間、研究会の理事(会誌発送担当役)を拝命させ
ていただきました。会誌発送においては、全国の

会員の皆様とお知り合いになる事が出来ました。
理事会では、私達の全く知らなかった分野で活躍
されている著名な方々と交流する事が出来て、大
変勉強になりました。先生はお元気なお声で何度
か電話をくださり、不慣れな私達を励まし、助言
をしてくださいました。

千葉県内での調査で、二回目にお逢いしたのは、
2010(平成22)年11月13日、茂原市上永吉
にある、千葉三郎記念館の伊能図を調べる為に来
葉されました。帰途、翌年佐原で開催が予定され
ていた「伊能忠敬関係資料国宝指定記念・伊能忠
敬研究会15周年記念」の開催概要の説明を受け、
その壮大さにびっくりさせられました。

その他、先生から世話役を命じられたのは、2
013(平成25)年9月15日、16日銚子にて開
催された「伊能忠敬銚子測量記念碑除幕式・銚子
ジオパーク研修旅行」でした。地元の宮内敏理事
が除幕式全体の総責任者を務めていたので、私が
宮内理事の基本方針に則り、研究会員向けの行動
計画を作り対応させて頂きました。宿泊する大吠
埼ホテルには、事前に一泊し営業部責任者と詳細
を取り決め挙行了しました。幸い会員皆様の協力を
得て無事に終えることが出来ました。

個人的に計画した研修の一つに、伊能図フロア
ー展がありました。2011(平成23)年5月28
日千葉工業大学で開催された伊能図フロアー展に、
先生のご配慮で、高宮家の係累多数が参加するこ
とが出来ました。その際、特別に講堂を一つ確保
し、我々一族に対して伊能忠敬の全国測量を懇切
丁寧に説明して頂き、感銘を受けました。参加者
一同伊能忠敬の偉業はごく表面的にしかり理解出来
ていなかったもので、改めてその偉大さが判りまし

た。幸いその時の写真を探し当てたので、掲載さ
せて頂きます。



千葉工業大学伊能図フロアー展

県外の研修旅行では、2012(平成24)年4
月23日、24日京都大学と天理大学の両図書館で
伊能図の閲覧調査に同行させて頂きました。京都
大学では、中図・小図合計9枚の稿本を閲覧させ
て頂きましたが、その精緻さは眼を見張るばか
りでした。天理大学では、「実測日本全図(伊能中
図)」の写本を閲覧させて頂きました。両図書館と
も事前に閲覧願を提出し許可を頂き、貴重品以外
はロッカーに預け、筆記具は鉛筆に限定され、手
袋を嵌め、マスクをした複数の担当職員が立ち会
いのもと、それぞれ二時間半ほど閲覧できました。
これも先生が発案した研修会でしたが、ここに参

「平成の伊能忠敬」を偲んで

新沢 義博

① 出逢い

私が学生の時に、齋藤仁先生の紹介で渡辺一郎さんとお会いしたのが最初でした。

地理学を専攻して伊能忠敬に興味を持ち始めた頃、当時の伊能図研究会に入会しました。

学生だった自分にとって渡辺一郎さんは、会社の上司のように接して頂いたこともあり、学問に対しても机上で論ずるだけでなく社会に投げ掛け、生き物のように育てていく姿勢を示されました。

② 伊能ウオークへの参加
伊能忠敬全国測量二百年を記念して行われたイベント。荷物を運ぶトラックの運転手として携わりました。

渡辺さんからお声を掛けて頂いた際、最初は二つ返事をしませんでした。しかし、あの二年間があったからこそ、今があると確信しております。

③ 渡辺一郎さんから学んだこと
以前、おっしゃられた言葉を思い出します。

「人の『わ』が広がり色々なことができる。」
その「わ」と輪、環が一体となったからこそ、忠敬と伊能図の存在を全国に知らしめることができた功績の最大の理由がそこにあるのだと実感しております。

渡辺さんは時に強引すぎる手法をとって反感を受けたこともありませんが、総合プロデューサーとして様々な顕彰、イベント事をまとめられたというところでまさしく『平成の伊能忠敬』そのものだったと確信しております。

新潟県とのつながりが

山浦 佐智代

二〇〇四年十一月、新潟県立自然科学館でアメリカ伊能大図里帰りフロア展が、開催された。この時、来場されていた渡辺さんから、「親は、入広瀬の出なのです」と、教えていただいた。入広瀬は、新潟県北魚沼郡入広瀬村のこと。冬場には、雪の為に一部の道路は、閉鎖されてしまうほど、新潟でも屈指の豪雪地帯だ。そこから渡辺家は、東京へと移住したという。このとき、何世帯か一緒だったようだ。そうこうしているうちに、めでたく「渡辺一郎氏、東京で誕生」となったのだ。

なお、フロア展と同じ月、二〇〇四年十一月、北魚沼郡の入広瀬村、堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村すもんむらの六つの自治体は、合併し魚沼市として生まれ変わった。そのため、入広瀬村の地名は、消滅してしまっただが、道の駅と只見線の駅に、入広瀬の名だけは、残されて続いている。

ところで、私が暮らす三条市と旧入広瀬村の間には、南蒲原郡下田村が存在していた。この下田村は、二〇〇五年五月、同郡の栄町と共に三条市と新設合併し三条市となった。つまり、旧入広瀬村の北隣は、三条市になったのだ。他愛も無いことだけど、渡辺さんに、お伝えしてみたかった。

加できたお陰で滅多にお目にかかることの出来ない針穴のある伊能図を拝見することが出来た。先生の活動方針はまさに三現主義でした。机上で判断するのではなく、「現場」に向いて、「現物」に直接触れ、「現実」をとらえることを重視されていらつしました。顧みますと先生は、千葉県だけでも7回ほど来訪されました。

県内での調査では、土地勘のある戸村さんと私達が、ナビゲーターを務めさせて頂きました。土地勘があると自負いたしておりましたが、一度先生をお乗せした時に楽しいエピソードがありました。それは2014（平成26）年春、先生が突然「今佐原にいるが、これから東金に行きたいので、迎えにきて欲しい」という電話から始まりました。先生をお乗せして、東金に向かう途中、会話を弾ませながら運転をしていたところ、いつの間にか成田空港の出発ゲートに入り込んでしまいました。空港を熟知されていた先生が優しい声で、「チョットおかしいですよ」と忠告してくださいった時には既に遅し、Uターンできない場所まで進んでいました。空港係員の誘導に従い特別なゲートを開けて貰い、無事に抜け出る事が出来ました。今では懐かしく思い出されます。

最後になりましたが、先生にはずっとお元気で私達にご教示頂きたいと願っており、私達で、非常に残念で悲しいです。今頃、先生は天国で伊能忠敬翁と直にお話をされ、長い間研究された事実をご報告されていらつしやるのではないかと思います。

高宮家一同を代表し、心から感謝とご冥福をお祈り致します。本当に有り難うございました。

合掌

門前の小僧

戸村 茂昭

先輩がお亡くなりになった。
小生がまだ三十五歳の現役の際、渡辺さんは一〇歳上の上司であった。

昭和五〇年頃で当時としてはとても大きく大きな全国規模のデータ通信システム（郵政省郵便貯金オンラインシステム）を受注するという営業能力・政治能力を発揮した方であった。

自分は、そのシステムでオンライン・ネットワーク制御機能を実現するSEメンバーのプレイング・マネージャーを割り当てられ、結局、自分の人生の中で自分を褒めてやりたいほどの仕事をやりとおすことが出来たという、そのチャンスを呉れた人であった。

渡辺さんはそのシステムの基本設計終了で転出してしまったので、自分とはその後はお付き合いしなかったのであるが、今から一〇年前、図らずも先輩が伊能図を調査・研究した成果をHPを紹介して開示したので、誰か手伝ってほしい、との話があり、HP開設の技術を自分が少し持っていたのでお手伝いをする事になった。

それがきっかけで、イノペディアをつくる会が発足し、以後、渡辺さんの指導を受けながら次のような活動をさせていただいた。

- ・ ウェブサイト「伊能忠敬e史料館」の開設・運営
- ・ 伊能忠敬測量日記（原文）DVD刊行
- ・ 伊能忠敬測量日記（解説）CD-ROM刊行
- ・ 伊能忠敬研究会報総覧CD-ROM刊行
- ・ 伊能図大全編集

- ・ 伊能忠敬文献目録刊行
- ・ 伊能忠敬没後二〇〇年記念顕彰大会設営



イノペディアをつくる会運営メンバー

このことが、結局、門前の小僧習わぬお経を読む”を地で行く形になって自分も伊能勘解由翁に惚れ込んでしまい、伊能勘解由翁の理系の取り組み部分のリサーチが小生のライフワークになるなど老後の日々を楽しくさせてくれた恩人でもあった。

先輩は、伊能忠敬人物像と伊能図の第一人者であったが、理系の取り組み部分（具体的には、天文観測関係）については手を付けず、小生に残しておいてくれたのであった。

地図を詳しく認め候術は、第一は北極出地度（緯

度）と伊能勘解由翁自ら蝦夷地測量を幕府にプレゼンテーションして蝦夷地測量プロジェクトを受注し、以後、昼は地を量り、夜は天を測りながら五十五歳からのシニア世代の十七年に亘り日本全国津々浦々島々を巡りながら瑞穂の国アキツシマの島影を星を鏡として写し取るという天命を全うした後、天国に旅立った。

その後、弟子たちにより、忠敬没三年後「大日本沿海輿地全図」として完成し幕府に上呈、それは今を遡ること二百年前の科学的偉業であった。

その伊能勘解由翁の科学的業績から二百年の節目を迎える来年のイベントの下地を整え先輩は伊能勘解由翁のもとへ旅立ったのであった。

合掌

渡辺さんの後半生は忠敬そのもの

柏木 隆雄

二月の中頃だった。渡辺一郎さんから私の自宅に電話がかかってきました。

「柏木家から佐倉の歴博に寄託されている忠敬関係資料はこれからどうするのですか」

私は答えました。

「今のところ何も考えていません。いずれ佐原の記念館で一般公開できれば良いと思っています。」

渡辺さんは、

「最近、マスコミがとびつく話題が無くてね。もし、公開などの動きがあったら教えて下さい。」

電話はそのことだけで切れました。

話は遡ります。平成十四年十二月十日、渡辺さんの発案で、歴博の柏木家寄託文書の調査が行われました。渡辺さんのほかに、忠敬研究会から伊能陽子、伊藤栄子、佐久間達夫の各氏が参加され、柏木家からは私が立合いました。その時が渡辺さんとの接点の始まりで、忠敬研究会の存在を知り、お誘いを受けて会員になりました。その後、渡辺さんのご著書を読み漁りました。微に入り細に亘る考証の確かさと、伊能図探索のため海外へも出かける情熱に敬意を抱きました。

渡辺さんは、「測量日記」の佐久間達夫氏と共に、伊能忠敬を現代に甦えらせた功労者です。伊能大図の発見、フロア展の全国展開など、その功績は語りつくせません。

近々、拙著を出版します。忠敬研究誌にこれまでに寄稿した拙文に新稿を加えたものです。その校正にかかっている時に、渡辺さんのご逝去を知りました。生前にお目通しをいただけなかったことが心残りです。

合掌

いま始めないと間に合わないんです

平田 稔

「伊能研究会の渡辺です。平田さんですか？」と熊本の自宅に電話がかかってきたのは平成二十八（二〇一六）年三月初めだった。「あの渡辺一郎先生!？」と慌てた。まったく面識がなかった。「池部長十郎と啓太父子の本を読ませていただきまし」と告げられて了解し、少し安心した。これが名誉代表（当時）との出会いだった。

その後、先生との数回の電話交換の中で「御用測量熊本県資料集」の調査・編集にのめり込み、忠敬没後二〇〇年記念大会（二〇一八年）の直前に刊行にたどりついた。先生に序文を寄せていただき、会誌に紹介文を載せていただいたことで、本会の多くの会員にもご購入いただいた。名誉代表との出会いがなければ予想もできないできごとであった。

池部長十郎と啓太父子の本とは、私が前年に出した「池部啓太春常―幕末熊本の科学者・洋式砲術家―」のこと。「史料館御中」宛て出したが、事務局の配慮で渡辺先生へ転送されたのだろう、それが先生の目に止まったことがすべての始まり。

それまでの流れを記すと。同書を史料館に発送したのは二月二十三日。そのきつかけは二月十六日付熊本日日新聞に出た「伊能忠敬の協力者名乗り出て」という記事だった。「没後二〇〇年イベント測量記録発掘狙う」の小見出し。一読して「肥後熊本の協力者なら、なんといっても池部父子。子孫も福岡市内に在住だし」と思った。記事末尾にあったウェブアドレスで本会のデータベースにアクセスし、ひと通り趣旨をのみ込んだ後、何

の逡巡もなく、次の短文を添えて本を送り出したのだった（なんと図々しい）。

「肥後藩天文測量師範・池部長十郎及び子息・池部啓太に関する著書を昨年二月に出した者です。その中に伊能忠敬の御用測量を父子で手伝ったことも、一部創作も交えて書きました。子孫探しの趣旨に当てはまるだろうと、ご参考までに贈呈します。ご笑納ください。肥後藩関係に限れば、場合によっては貴研究会の一連の調査作業をお手伝いできるかもしれません。」

だが、電話口で初会話の時、渡辺代表が言われたのは、そのことではなかった。確か次のような内容だった。

「熊本県内各地の関連史料を探し出して、御用測量の全体像をつかむような調査・執筆をしてもられません。古い史料がどんどん消えていきます。いま始めないとだめなんです」。池辺父子の本で、古文書を少しは読める奴、と踏まれているご提案だったのだろうが、荷が重すぎる。とてもできそうもない、と思った。が、続けて「四月十八日、福岡市内でデータベースの紹介と講演会を開きます。その講演に私も参加します。お会いしましょう」と。

こうして福岡市内で説明会と講演が一段落した後、先生と会場廊下で面談した。先生の口から熱い思いを重ねて聞いた。私の覚悟は決まった。

それから調査の進み具合を報告するたびに先生に「速いですね」と褒められ（おだてられて？）一つの仕事を何とかまとめることができた。資料集の不出来は云うまい。

渡辺先生の指導力と実行力

彫刻家 酒井 道久

渡辺先生には二体の伊能忠敬像制作で、大変お世話になりました。富岡八幡宮の伊能像では建立実行委員会の事務局長として、国土地理院、全測連、日本ウオーキング協会をはじめ、各団体の指導者の皆様方、また朝日、読売など報道関係者らを実行委員に加え、てきばきと会を運営されていました。第一回委員会から除幕に至るまで、私は何の心配もなく制作に集中できる環境を作っていただきました。

北海道福島町の伊能像に関しても制作者に私を推薦して頂き、ご自宅での会合までセットの上、その後も像のポーズなどについても私の案を支持してくださり、お陰様で思うままに制作が出来ました。どちらの像も制作途中に何度かお電話いただき、様々のアドバイスをいただきました。粘土原型制作中にも伊能洋先生と共に私のアトリエにいらして、制作状況を確認されました。渡辺先生の驚異的な指導力と迅速な実行力は制作中をああでもないこうでもないといつまでも逡巡している私のような彫刻家にはうらやましい限りです。心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。



北海道福島町の伊能像

渡辺一郎先生のこと

中村 泰子

先日、一通の葉書が届き、渡辺一郎先生がお亡くなりになったことを知りました。渡辺一郎先生との出会いは、伊能忠敬の伊能図完成記念年の講演会のときです。会場は地図を愛する諸氏であふれ、私は場違いなところにやってきてしまったのかもと思いつつながら、講演が終わる会場を後にしようとしたときに声をかけて頂いたことが縁となり、伊能忠敬研究会を知り入会することになりました。伊能図が放つ圧倒的な迫力に魅せられ、伊能忠敬の測量技術に興味があるということが入会の大きな理由でしたが、研究会を通して渡辺一郎先生に教えて頂いたことは多く、忠敬を知るにつれ、徐々にお話を聞く機会が待ち遠しく、毎年の総会でお会いするのが楽しみになっていました。

渡辺一郎先生とのメール記録を見直してみると、4年前の二〇一六年八月に、先生からご依頼を受けた「多度津藩勘定方日記」の翻刻・データ化を終え、その受け渡しのやり取りをしています。文献に触れる経験をしたことなど無い私が、国文学をしている姉や文字の好きな母、そして渡辺一郎先生の助けを借りて最後までどうにか完成させることが出来たときは大変嬉しかったのを覚えています。定型文の終わりに付ける文字の形、ものの名称をはじめ、言い回しや記録文献の構成法など本場にいろいろな事を知る経験でした。渡辺先生にデータをお渡ししたとき感想をきかれ、難しかったとお答えすると、今回の資料は伊能文献の中でも易しい方なんですよとおっしゃいました。その時、もっと複雑な資料があるのならばそれを読

んでより深い地図の世界を知りたいと思いました。その後大学の夏季講習を利用し、学芸員資格単位取得に挑戦する気持ちになったのも、このような経験をさせていただいたことが大きかったと感じています。先生はお会いするといつも、「どうしていますか」「何かありますか」と声をかけてくださいました。また、伊能図と聞けば全国津々浦々に訪ねていかれ、先日も大学図書館で資料の写真を撮影したとか人や資料との出会いのお話をされ、「僕はね、偉くもなんともないんだよ。本当に幸運なんだよ。」と言われていたことを思い出します。こんなこともありました。定期購読している「月刊測量」の表紙に、伊能忠敬がワンカラシンを握り、函館方面を凝視する伊能忠敬の姿が掲載された号があり、「あつ、忠敬だ」と胸を躍らせたことがあるのですが、「伊能忠敬研究」第九十一号に掲載された忠敬像ができるまでの報告を拝見して、渡辺一郎先生が関わっていらしたことを知りました。渡辺一郎先生のいつも本当に楽しそうに嬉しそうにお話される姿に触れ、年齢を感じさせない探究心・好奇心旺盛で活動的な姿や態度は、私を励まし、英気をくださったように感じます。学恩を何も返すことができないまま、こんなに早くお別れすることになるうとは思ってもいませんでした。これからもお話を聞けると思っていただけに、本当に淋しいです。しかし、渡辺一郎先生に教えて頂いたことを忘れず、態度で示して頂いたことを胸にこれからも精進していきたいと思っています。

渡辺一郎先生に感謝を申し上げ、先生のご冥福をお祈りいたします。きっと今ごろは忠敬と共にワンカラシンを覗いていらっしやることでしょう。

カネホンのとうさん

中塚 徹朗

「あれっ。カネホンのとうさんっでないの。なんでなんぞ?」類被りをしたおばあちゃんたち数人が集まり、お互い顔を見合わせている。

北海道福島町吉岡で伊能忠敬翁の銅像除幕式も終わり、誰も居なくなった公園での一場面だ。おばあちゃんたちの視線の先には、銅像の説明版があり、その文末には執筆者である渡辺一郎先生のお名前が記されている。

「渡辺一郎」という名前、実はこの吉岡地域ではとても親しまれている名前だったのだ。町内会の活動にとっても熱心で筆もたつ同姓同名の「渡辺一郎」さんという方が実在していたのだ。その人の屋号が「カネホン」で「カネホンのとうさん」なのだ。婦人方にしてみれば、町内会のあの「カネホン渡辺一郎」さんがなぜ、伊能忠敬の銅像の解説を書いているのだろうか?という疑問をもったという次第だ。私にとっては、微笑ましくも感動的な光景に見えた。それは、この地域の人々がこのように解説版を通じ渡辺一郎先生のお名前に親しみ、なおかつこれまで誰一人として「伊能忠敬がこの地に上陸し、蝦夷地測量の第一歩を刻んだ」ということを知らなかった歴史の真実を、銅像とこの解説文によって多くの人々がこれから知ることになるだろう、と思うからだ。

渡辺先生にはいつかこのお話しをお伝えできる日が来ればと待ち望んでいたが叶わなかった。

さて、渡辺先生にはとても御世話になって、いくら感謝してもしきれない。前述の銅像説明版を書いてくださったことの他に、先生から戴いたこ

指導のお陰で、伊能研究において第一次測量の歴史認識を覆す大きな発見があったことをここに記したい。



これまでの通説では、寛政12(1800)年、第一次(蝦夷地)測量は、江戸千住から奥州街道を北上して、青森の三厩に至り、ここから津軽海峡を渡って函館を目指すも、風の影響で北海道福島町吉岡に上陸、その後は陸路(100 kmほど)は測量せず、函館から蝦夷地測量は始まったとされてきた。函館山のプロンズの板碑には今現在も「伊能忠敬北海道最初の測量地」とうたっている。

私は、まず直感でこれは違うと思った。

地球の緯度一度(実際は一度以上)を正確に測るべく江戸から北上している途中に100 kmもの測量の穴を開ける筈は無い。また、国宝「伊能忠敬測量日記」には「一里半福島」との記録がある。渡辺先生にお尋ねすると「彼は全国どこを歩いても、ほぼ必ず測量している。『一里半』という距離が書かれていることは、動かぬ証拠。同所、つまり吉岡から蝦夷地での測量が始まったことは間違いない(北海道新聞より転載)」との考えを表明してくださった。後日、これを裏付ける証拠が国宝の「忠敬先生日記」から発見された。「キコナイ(木古内町)夜少測量。測った恒星の名称と測定値も「測地度説」に明記されていた。

木古内町は先の上陸地福島町吉岡と函館との約100 kmの測量空白区間の中程に位置する。ここでの天体観測の記録が発見されたことは、函館以前に天体観測を行ったという証拠だ。ちなみに、伊能忠敬の測量の特徴は昼の歩測と、夜の天測をセットで行う測天量地。伊能忠敬翁北海道最初の測量地は、昼の歩測は吉岡で、夜の天測は木古内というのが実態であったのだ。渡辺先生の書いてくださった、吉岡銅像の説明版には「吉岡は伊能測量隊の北海道測量開始地点となった」と記述してくださった。これにより福島町は公園名を「伊能忠敬北海道測量開始記念公園」と決定することとなった。

先生は、また銅像作家の酒井道久先生を福島町に紹介してくださった。

先生との出会いで福島町にドラマチックな測量姿の銅像が誕生し、伊能忠敬翁のあらたな歴史が確かに刻まれたのだ。解説版の前で渡辺先生と私は記念写真を撮った。



「生涯ふたつもの忠敬像建設に立ち会うことができた」と語った先生の満面の笑みが忘れられない。

先生、ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。合掌。

渡辺一郎先生を偲んで

松宮 輝明

渡辺一郎先生は、2020年6月28日お亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。

2006年、渡辺一郎先生にお目にかかり伊能忠敬研究会に入会させていただきました。

2008年、3月、当地、須賀川市の福島県科学博物館「ムシテックワールド」で、近代的な日本地図作成の先駆者、伊能忠敬の偉業を紹介する、特別企画展「伊能大図フロア展」を開催するにあたり、ご指導をいただきました。

近代的な日本地図の先駆けとして大きな功績を残した伊能忠敬の偉業を知ることができるフロア展を開催し、伊能大図、東北地方の35面が床に敷かれ、地図の上を歩きながら観覧できる展示は大好評を得て、福島県内外から多くの識者が来館しました。渡辺一郎先生の監修のもと「福島県と伊能忠敬の関わり」と題して6話の講演会を開催しました。

2010年6月、水戸市青柳市民体育館で「完全復元伊能地図全国巡回フロア展」が開催されました。

水戸展が12番目、翌年、福島県の郡山展を企画し、郡山市ライオンズクラブ（星兵仁会長）の方々が会場を訪れ渡辺先生と面談され郡山展が決定しました。小生は大学生活を4年間水戸で送りました。

渡辺先生を水戸市内の名勝地と笠間市をご案内しました。水戸藩主ゆかりの弘道館、偕楽園、好

文亭や笠間の茨城県立近代陶芸美術館、笠間稲荷などをご案内しました。

茨城県立陶芸美術館には歴代の人間国宝の作品が展示されております。小生は陶芸家ですが渡辺先生の陶磁器の鑑賞眼、見識には感服いたしました。

翌年、2011年「伊能忠敬大図フロア郡山展」の打ち合わせのため郡山にお出掛けいただきました。「伊能忠敬大図フロア郡山展」は、4月29日から3日間、郡山ライオンズ結成50周年記念事業として、郡山市のビッグパレットふくしまで「伊能忠敬復元地図フロア展」が開催することになりました。

2月に渡辺先生が郡山市で記者会見を行い開催の運びとなりました。



郡山市での記者会見

3月11日に東日本大震災がおり、展示会場ビッグパレットは被災者の避難所となり、「まぼろしの展覧会」となっていました。

しかし、4月28日、前夜祭としてライオンズクラブ結成50周年記念式典を郡山市の郡山ビューホテルアネックスで行い渡辺先生と堀野正勝先生がご出席され、渡辺先生が伊能忠敬の業績を講演されました。

翌日、三春の滝桜、須賀川市の牡丹園、奥羽街道の一里塚を巡りました。

平成31年3月、会津若松市会津藩の日新館の天文台が「日本天文台遺産」に指定されました。享和2年（1802）、第3次測量で伊能忠敬は、会津若松市七日町で天体観測をしております。会津藩は翌年日新館に天文台を作りました。渡辺先生から幕府天文台と会津藩との関連史料をいただきご教示いただきました。

「伊能忠敬没後200年記念伊能測量協力者顕彰大会」を企画した功績は高く評価されております。

先生のお住まいのマンションをたびたび娘鈴木由生子とお訪ねしお話しをさせていただきました。また、青森の竜飛岬を訪ねるのを楽しみにしていた約束を果たすことが出来ませんでした。

渡辺先生は、伊能忠敬の史料を発掘し、それをもとに江戸の歴史を解明しました。歴史に学ぶ真摯な姿勢を貫いた生涯であったと思います。

歴史家、伊能研究家、渡辺一郎先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

新聞記者が見た「渡辺一郎」

渡辺さんが夢に出た

共同通信社 橋田 欣典

渡辺一郎さんが亡くなって1カ月後の8月初め、渡辺さんが夢に出た。にこやかに伊能研究の話をしたのだけれど「橋田君、あちこち顔を出さなきゃだめだよ」と、いろんな人に会う大切さをアドバイスしてくれた。そこで目が覚めた。「どこにも行く」「いろんな人に聞く」そして「思い立ったら実行する」。伊能忠敬が現代に生きていたら、きっと渡辺さんのような生き方をしたんだろうと考えた。

これまでに執筆した記事（稿末参照）を調べてみたら、初めて渡辺さんから取材したのは1997年10月。気象庁の書庫で伊能大図の写本43枚が見つかったというニュースだ。その頃、私は国会担当で、国立国会図書館もカバーしていた。渡辺さんは「完成版の大図の全体像を知る上で貴重な資料。絵画として見ても素晴らしい」という談話を寄せている。それから伊能図のことを書くことができた。

2001年7月4日。歴史的発見となった「アメリカ大図」が発表された日だ。通信社としてその日最大のニュースとなる「トップ候補」に位置づけられた。奥様とのカリブ海旅行の帰りにふと

思い立って立ち寄った米国議会図書館で、長年追い求めた200枚以上の写しを確認された。「ヨーロッパに写しがあるなら、日本と交流が深い米国のどこかに必ずある」という信念が実現した瞬間だった。「簡単に見つかるとは思っていなかったの、とにかく驚いた」という渡辺さんのコメントが懐かしい。

2004年からのフロア展では床一面に214枚の大図が並べられた。縦55メートル、横31メートルの日本地図は、琵琶湖で水浴びができそうな巨大なもの。来場者は、言葉では聞いていても実物大の地図を見ることが、初めて伊能の仕事の偉大さを実感していたように見て取った。

その後も伊能測量に協力した各地の人々の子孫捜しや、宿泊地のスタンプリバーができる「伊能でGo」など、さまざまな取り組みで渡辺さんと知恵を絞り、実行する機会に恵まれた。

お目にかかる機会には、おいしいものをちよつとだけ食べ、お酒も少しだけじっくり味わう。「ぼくね、伊能をやらずに別の事業をやったら、一財産つくれたかもしれないね」とぼやきながら、次々と出版計画やイベントを打ち出していくパワーは、今年3月、最後にお目にかかった時にも、ちつとも減っていなかったことを思い出す。

伊能忠敬の仕事が完成したのは亡くなってから3年後。渡辺さんもたくさんのアイデアを私たちに残していかれた。最期までそっくりだった伊能と渡辺さんは天上で測量とITの技術談義をしているに相違ない。あちこちの人との出会いをつくってくれた渡辺さんへの感謝の気持ちで手を合わせます。

「共同通信の渡辺一郎さん関連記事」

97年10月25日	伊能図完成版の写本発見 焼失原本の精密さ伝える 気象庁の書庫で
98年5月15日	「本州中部」を初めて発見 伊能忠敬の日本地図
99年1月13日	伊能忠敬最初の「地図」 専門家がお墨付き
01年7月4日	伊能忠敬の「大図」発見 米国で写し206枚 焼失「伊能図」ほぼ復元 日本近代地図の先駆け
01年7月4日	「必ず米国にある」 在野研究者が大発見
01年7月20日	伊能大図の写し22枚公開 19府県にまたがり詳細
01年10月17日	伊能の「第一歩」が銅像に 測量開始200年を記念
01年10月27日	失われた伊能図復元に挑戦 米国の写しを基に子孫ら
02年1月5日	18地域の伊能図の写真入手 城の様子など詳細に描く
02年3月11日	未発見の伊能図2枚を確認 歴史民俗博物館が保存
02年8月8日	伊能忠敬の「小図」確認 幕府機関に提出の3枚 東京国立博物館が所蔵
03年1月1日	すくろく特集「3万5千キロのみち 伊能忠敬」サクセス人生あがれの的 地図発見でブーム続く
02年12月31日	伊能大図をHPで公開 米国の写しから60枚
03年1月24日	「時の人」米国に保存されていた伊能図の復元、展示に取組む渡辺一郎さん
03年6月11日	仏の伊能図がぼろぼろに 「重文級」と修復訴え
03年8月11日	海の青、鮮やかに 復元伊能図の色を調整
03年8月28日	最高水準の伊能図 石川の寺所蔵の写本
04年2月6日	進む伊能図の永久保存 京都市で里帰り修復中
04年3月15日	伊能忠敬の地図よみがえる 4月から神戸などで公開
04年7月1日	伊能大図最後の4枚発見 2百年前の列島復元可能に
04年7月14日	「伊能大図」が勢ぞろい 釧路市で214枚公開
04年10月20日	伊能図、愛知県の旧家に 2百年前測量隊が製作
05年6月8日	伊能忠敬の実測図公開 技術試みに故郷を測量
06年2月13日	「伊能大図総覧」を発刊へ 実測の「足跡」もくつきり
07年1月11日	40万円の伊能図セット完売 限定3百部、個人が6割
07年7月26日	伊能図使ったロードマップ 色鮮やかに東海道を描く
08年6月19日	「80歳まで生きて著述」伊能の肉声記録が鳥取
10年5月7日	ネットで伊能忠敬を知って「イノベディア」開設
11年2月12日	伊能忠敬の子孫ら集合 国宝指定で交流会
11年11月10日	伊能の伊豆七島図が入れ札に 東京・神田の古書展
14年8月18日	北海道全城を間宮が測量か 各地で測量記録発掘に期待
16年2月15日	伊能の協力者、名乗り出て
16年2月20日	伊能協力者の情報相次ぐ 「先祖が案内」など60件
17年11月28日	伊能忠敬の足跡をたどる アプリ「伊能でGo」
20年6月30日	渡辺一郎氏死去 伊能忠敬研究者

「平成」の伊能忠敬

元朝日新聞パリ支局長 清水 弟

「日本からの客人は嫌な順に来る」というのが、朝日新聞パリ支局のジンクスだった。華の都の駐在員にとって、来訪者の接待は大事な仕事である。文字通り千客万来、今日はちよつと多いなど数えてみると、27人もの弊社社員がパリにいたこともある。

渡辺一郎さん夫妻がオペラ座近くにあった支局に來られたのは1995年3月28日。ボン支局長を務めた雪山伸一氏から「本郷の同じマンシヨンの隣人です」と連絡が来ていた。大統領選の取材などに追われ、帰国を二ヶ月後に控えた私には「最後の客人」の一人、最良の来訪者だったのかもしれない。

渡辺さんの話は面白かった。パリ郊外に住む国立高等農業学校教授、イブ・ペイレ氏の家を訪ね、素晴らしい「伊能中図」八枚を実見した興奮が冷めやらぬ様子で語り続ける。遠路はるばる辿り当て、重要文化財級の伊能図を確認できた安堵と喜びにあふれていた。

写真を撮り記事にまとめたのが、4月6日付け夕刊3面「気になるこの人」に載った。33行の小さな記事が、大きな展開へと繋がった。

帰国してまもなく、95年11月5日の日曜版「ひと紀行」で、渡辺さんを大きく紹介した。夕刊の記事で伊能忠敬の子孫、世田谷区に住む伊能洋・陽子夫妻と連絡がつく。忠敬の資料を佐原市の伊能忠敬記念館に寄贈した後も、お雛様やお椀を包んだ紙に地図の下絵やメモ書きが出てくるという、陽子さん（故人）との話が盛り上がる。折しも、

生誕250年で記念切手が予定され、佐原中央公民館ではペイレ家の伊能中図を特別展示、記念シンポジウムも開かれる。大騒ぎだった。



気象庁で伊能大図写本43枚発見（97年）、アメリカ国会図書館で伊能大図207枚発見（01年）など何かあるたびに電話が来た。40冊近い切り抜き帳を開くと、「よみがえれ『伊能中図』、京都で再生手術」「伊能小図一般公開へ」「伊能大図つなごった、最後の4枚発見」。大小さまざまな伊能忠敬関連記事が。いったい何本あることか。

残念だったのは、ペイレ家の伊能中図を日本企業が買収した経緯や里帰り、絶対書かないで」と釘を刺されて記事にできなかったことだ。

渡辺さんはマスコミ対策が巧みで、テレビや新聞各社の親しい記者を通じて情報を流し、記事の扱い、放送内容もチェック、次の作戦に生かしていた。渡辺さんの、あの笑顔で頼まれると断りにくかったのは私だけであるまい。

当方の職場が日曜版編集部から企画報道室、科学医療部、山形県・鶴岡支局、千葉県・館山支局と変わっても、渡辺さんの電話は続いた。「ちよつと面白いものが見つかりましたね」

定年後の囑託も満期となり、「生涯一記者」の看板を下ろした後も連絡がきた。ひとつは伊能測量協力者顕彰大会（18年4月21・22日）で、社会部デスクに連絡したものの、取材記者は現れず、研究会会友として赤いリボンを付けられた私は、全国各地で伊能忠敬の測量を支えた人々の労苦を讃えた大会こそ、忠敬先生がなしえなかったことだと感服していた。

今年初めの電話で、デジタル技術を駆使して伊能大図214枚を復元するプロジェクトを立ち上げ、富岡八幡宮で2月19日に記者会見するという。今度も朝日の記者は姿を見せなかったが、東京新聞などが参加。90歳になった渡辺さんは少し疲れた様子だが、声に張りがある。「令和の伊能大図」に10年かかるなら、それまで頑張るつもりだなと勝手に思い込んだ。当日の渡辺さんの写真が最後になるとは。

特ダネをもらったことはない。取材を頼まれるだけなのに、なぜ、渡辺さんの手の平で踊らされ続けたのだろう。「被害者みたいで・・・」とこぼすと、研究会の何人かがうなずく。「渡辺マジック」にハマった人は少なくないらしい。

米国や英国、フランスまで出かけて直談判した行動力、資料を丹念に調べあげた情熱、ビジネスで鍛えた手練手管を駆使して企画立案と資金集め。何より友人・知人・その他諸々、あらゆる人間を巻き込んで伊能忠敬の業績を細大漏らさず突き止めるようとした渡辺一郎さんこそ、「平成の伊能忠敬」といふべき働きぶりだったのでないか。そんな気がしてならない。

（2020年8月16日記）

追悼

渡辺 一郎さん死去

90歳、伊能忠敬研究

江戸時代に日本の海岸線を初めて正確に記した測量家・伊能忠敬の研究で知られる渡辺一郎さんが28日、上部消化管出血のため死去した。90歳だった。葬儀は近親者で行う。喪主は妻、貞子さん。

NTTなどでの勤務の傍ら忠敬研究に没頭し、1995年に伊能忠敬研究会を結成。江戸東京博物館で開かれた「伊能忠敬展」などに関わった。2001年には、忠敬が手がけた「大日本沿海輿地全図」の詳細な写本を米国で発見。これをもとに、地名などの誤りを修正した令和版「大日本沿海輿地全図」を作成するプロジェクトを始めたばかりだった。10年に瑞宝双光章。

毎日新聞 7月16日夕刊 「没後 200 年伊能忠敬を歩く -25-

没後 200 年
伊能忠敬を
歩く

-25-

伊能研究けん引、渡辺一郎さん死去 忠敬の人生と重なり

6月も終わろうとするころ、悲しいニュースが入ってきた。近年の伊能忠敬研究をけん引してきた一人、渡辺一郎さんが同月28日、上部消化管出血のため亡くなった。90歳だった。最新技術で伊能図を現代にみかえらせる「令和の伊能大図をつくる会」を発足させたばかり。まだたくさんやりたいことがあったはず。渡辺さんを悼む。

つくる会」の記者会見後、少し疲れた様子の渡辺さん。体調を尋ねると、この忠敬研究をけん引してきた一人、渡辺一郎さんが同月28日、上部消化管出血のため亡くなった。90歳だった。最新技術で伊能図を現代にみかえらせる「令和の伊能大図をつくる会」を発足させたばかり。まだたくさんやりたいことがあったはず。渡辺さんを悼む。

「忠敬先生に生かされています」。2月にあった「令和の伊能大図をつくる会」の記者会見後、少し疲れた様子の渡辺さん。体調を尋ねると、この忠敬研究をけん引してきた一人、渡辺一郎さんが同月28日、上部消化管出血のため亡くなった。90歳だった。最新技術で伊能図を現代にみかえらせる「令和の伊能大図をつくる会」を発足させたばかり。まだたくさんやりたいことがあったはず。渡辺さんを悼む。



富岡八幡宮にある伊能忠敬像のわきに立つ渡辺一郎さん
2005年1月18日、佐藤田記さん撮影

事の一つが、郵政省（当時）から受託した郵便貯金オンラインシステムの企画と基本設計だった。後輩で伊能忠敬研究会の戸村茂昭さんは、日本全国津々浦々の郵便局を結ぶシステムを構築していく中、渡辺さんは列島を隅々まで測量してまわった忠敬に興味を持つようになったと振り返る。

「約200年前に、高齢化社会頭角の、熟年パワーを発揮して、日本で初めての科学的な日本全国図を作成した伊能忠敬の偉業を偲び、その業績である伊能日本図を探究し、各所に散在する伊能図の存在を明らかにするとともに、作成された地図を通して伊能の全国測量の意義を探りたい」。会報第1号の巻頭で高らかに宣言した通り、米国会議図書館での伊能大図の模写207枚の発見を筆頭に、忠敬の足跡を市民が歩く「伊能ウォーク」や各地の体育館で原寸大の伊能大図をフロア展示するなど、精力的に伊能図の研究とそれを世に広める活動にまい進した。

八幡宮に資料奉納

佐原（現・千葉県香取市）から江戸に出た伊能忠敬は、黒江町（現・東京都江東区門前仲町）に隠宅を持った。近くの富岡八幡宮は、忠敬ゆかりの地。測量の旅に出る前に、従者たちと参拝し、道中の安全を祈願したと伝わる。忠敬の銅像も2001年、渡辺一郎さんがとりまとめ役となり、「忠敬先生の名前を広め、先生を正しく理解してもらうための基点となること」を願って建立された。

そんな縁で、渡辺さんは19年秋、自身が所蔵する忠敬関係の資料を富岡八幡宮に奉納した。令和の伊能大図の試作をはじめその一部は、境内にある資料館に展示されている（参観は事前予約が必要）。宮司の丸山聡一さんは「ぜひ、地域の皆さんや子どもたちに資料を見てもらって、忠敬の偉業を、そして幕末の歴史の一端を知ってもらいたい」と話している。

「約200年前に、高齢化社会頭角の、熟年パワーを発揮して、日本で初めての科学的な日本全国図を作成した伊能忠敬の偉業を偲び、その業績である伊能日本図を探究し、各所に散在する伊能図の存在を明らかにするとともに、作成された地図を通して伊能の全国測量の意義を探りたい」。

「毎月1回掲載します」

産経新聞 7月2日 「産経抄」

産経抄

養子先の家業を大いに盛り上げ、49歳で隠居して江戸に出た。伊能忠敬が第二の人生で挑んだのは、日本地図の作製である。55歳から17年にわたって全国を測量行脚して、約440種類のいわゆる伊能図を残した。縮尺によって、大図、中図、小図に分けられる。歩いた距離は4万³にも及ぶ。まさに「四万歩の男」である。伊能図が一般に出回るようになったのは、忠敬が亡くなって半世紀後の明治になってからだ。その正確さは外国人を驚かせた。▼渡辺一郎さんは昭和50年代、電電公

社（現NTT）の技術者として全国の郵便局のネットワーク化に取り組んでいた。忠敬の業績に親近感を覚え、国会図書館で一枚の小図を見たのがきっかけとなる。仕事の合間に伊能図を求めて、日本各地を訪ね歩いた。▼65歳で会社経営を引退してから、研究は本格化する。忠敬の残した日記を基にした『伊能測量隊まかり通る』をはじめ、著作の刊行が相次いだ。米国旅行中に偶然立ち寄ったワシントン¹の国会図書館では、行方不明になっていた207枚の大図を発見する。平成18年には、渡辺さんの監修のもと、大図214枚を

収めた『伊能大図総覧』が刊行された。約40万円の豪華本ながら、限定300部を完売する。▼忠敬ブームの立役者だった渡辺さんの訃報が昨日届いた。90歳だった。渡辺さんによると、伊能図は忠敬一人の偉業ではなく、ともに旅する仲間が支えていた。渡辺さんもまた、自ら立ち上げた伊能忠敬研究会のメンバーと展覧会を成功させてきた。▼本業を卒業してから大きな仕事を成し遂げた、忠敬と渡辺さんの人生は重なりあう。もっともそんな指摘に対しては、「月とスッポンです」と笑って打ち消すのが常だった。

2020.7.2

朝日新聞 7月25日



「伊能ウオーク20周年の集い」であいさつする渡辺一郎さん。変わらぬよく通る声だった＝2019年、金井三喜雄さん撮影

6月28日死去（上部消化管出血） 90歳

佐賀新聞 9月30日（共同通信配信）

6月28日死去 伊能忠敬研究家

渡辺 一郎さん(90歳)

失われた地図を世界で追う

わたなべ いちろう

伊能忠敬研究者・元伊能ウオーク総隊長 渡辺 一郎 さん

伊能忠敬が江戸時代に初めて実測で作った日本地図。渡辺さんは電電公社（現NTT）で技術者として全国を結ぶデータ通信網を手がけていたころ、国会図書館でその伊能図に魅せられた。「気づくと伊能図を探して国内外を飛び回っていた」

50代初めに退職し、コンピュータ関連会社を経営。1995年、パリ郊外で見つけた伊能中図（8枚組み、縮尺21万6千分の1）の現物を自分の目で確かめたことが縁で、忠敬から7代目にあたる洋画家、伊能洋さん（86）、陽子さん（2010年死去）夫妻と知り合う。その年、伊能忠敬研究会を設立した。広報担当として活躍する陽子さんに助けられ、会としても研究を深めていった。

身長約160センチだったという忠敬より小柄だが、歩幅は69センチで同じ。自身を忠敬に重ねていたのか、経営者を引退後、残りの人生を「地図」に捧げた。忠敬の足跡をたどり、99年か

地図ひと筋 歩幅は同じ69センチ

ら2年間かけて全国を一筆書きで踏破した「伊能ウオーク」（朝日新聞社など主催）では、総隊長として学術面から支えた。正確にはわからなかった測量ルートを伊能中図と測量日記から解明。約千枚ある今の2万5千分の1の地図に描き出し、歩くコースを選定した。

大会組織の人選をめぐる紛糾した際、「人を見る目には自信がある」と反対意見を押し切る強さもあった。洋さんは「やんちゃ坊主のイメージだが憎めない。かわいくて純真な人」と評する。ウオーキングがブームになるなか、歩数を数えながら歩いて距離の正確さを競う「歩測大会」を立案。「これは私向きだね」と達人ぶりを披露した。昨年11月、「伊能ウオーク20周年の集い」に元氣な姿を見せた。集まった約50人に披露したあいさつは「長年の念願は、NHKの大河ドラマで忠敬さんの番組化を実現させることです」だった。（若林幹生）

渡辺一郎氏関係年譜

年齢	西暦	和暦	事 項
0	1929	昭和 4	11月2日 出生（東京都北区）
20	1949	昭和 24	通信省中央無線電信講習所（現電気通信大学）卒業 通信省工務局（現NTT）入省 NTTではプロジェクトマネージャーとして初代郵政貯金オンラインシステムの基本設計を担当
27	1956	昭和 31	11月 結婚
			40歳代後半、国会図書館で伊能図を実見して感銘を受ける 伊能図歴訪の旅開始（日本学士院、東京国立博物館、成田山仏教図書館、静嘉堂文庫）
51	1980	昭和 55	NTT退職（30年間に在職） コビシ電機副社長（10年間に在職）
60	1989	平成 元	(株)サンコミュニケーションズ設立（6年間に在職）以後、伊能図と伊能忠敬研究に注力する
65	1994	平成 6	このころから「伊能図と伊能忠敬の研究」に専念する
66	1995	平成 7	1月「伊能日本図探究会」発足（代表）『伊能図探究』発刊（年内1～6号） 3月 仏・ペイレ氏宅で「伊能中図」を実見、「伊能図」と確認 4月 朝日新聞夕刊「ひと」欄に登場（清水弟バリ支局長報） 5月 伊能陽子氏より電話連絡（資料調査依頼） 11月「フランスにあった伊能図の佐原里帰り展」開催 「伊能忠敬研究会」設立 代表理事 12月 グリニッチ海事博物館で「英国小図」調査
67	1996	平成 8	3月 会報第1号（継承第7号）発行 10月イタリア地理学協会で「イタリア中図」調査
68	1997	平成 9	8月 気象庁伝存伊能図を鑑定
69	1998	平成 10	4月～6月 江戸東京博物館「伊能忠敬展」、井上ひさし講演会 4月 都立中央図書館「伊能小図」調査
70	1999	平成 11	1月「伊能ウオーク」出立 総隊長 ※12月俳優座「伊能忠敬物語」（新国立劇場）
72	2001	平成 13	1月1日（21世紀初日）「伊能ウオーク」到着 完歩式典（日比谷公園） 3月 アメリカ議会図書館にて伊能大図207枚を発見 6月（渡米）合同学術調査 10月 富岡八幡宮「伊能忠敬銅像」除幕式 ※11月 映画「子午線の夢」
73	2002	平成 14	2月 国立歴史民俗博物館蔵「伊能大図」調査（米大図の欠本） 8月 国立東京博物館「伊能小図」調査
74	2003	平成 15	2003～2004年「アメリカ大図巡回展」（博物館展4か所、フロア展16か所）
75	2004	平成 16	5月 海上保安庁「伊能大図」調査（最後の4枚）12月 伊能研代表理事辞任、名誉代表就任
78	2007	平成 19	1月 海上保安庁所蔵「伊能図模写図」調査
80	2009	平成 21	4月～2015.2月「完全復元伊能図全国巡回フロア展」（28か所）
81	2010	平成 22	5月「イノベディア」公開 「イノベディアをつくる会」会長 NTT在職中の事績に対し「瑞宝双光章」受章 ※6月 伊能忠敬関係資料国宝指定
85	2014	平成 26	8月「伊能北海道図は全て間宮の測量による」と発表
89	2018	平成 30	4月「忠敬歿後200年記念 伊能測量協力者顕彰大会」開催
90	2020	令和 2	1月「令和の伊能大図をつくる会」発足 6月28日 逝去（90歳）

【主な編著書】

年齢	西暦	和暦	書 名 ・ 出 版 社
65	1995	平成 7	『英国にあった伊能小図』自費出版
67	1997	平成 9	『伊能測量隊まかり通る』NTT出版
68	1998	平成 10	『伊能忠敬と伊能図』江戸東京博物館・伊能図展図録
69	1999	平成 11	『最終上呈版伊能図集成』共著 柏書房
69	1999	平成 11	『伊能忠敬の歩いた日本』ちくま新書 筑摩書房
70	2000	平成 12	『伊能忠敬の地図をよむ』河出書房新社（2010年 改訂増補版）
72	2002	平成 14	『東京国立博物館蔵 伊能中図 原寸複製 伊能図』共著 武揚堂
73	2003	平成 15	『伊能忠敬測量隊』小学館
74	2004	平成 16	『アメリカにあった伊能大図とフランスの伊能中図』（財）日本地図センター
76	2006	平成 18	『伊能大図総覧』上・下 河出書房新社（限定318部）
79	2009	平成 21	『完全復元伊能図』監修 伊能忠敬研究会
79	2009	平成 21	『伊能忠敬の全国測量』伊能忠敬研究会 冊子
81	2011	平成 23	『国宝 伊能忠敬測量日記 原文』DVD 伊能忠敬と伊能図の大事典をつくる会
83	2013	平成 25	『伊能図大全』全7巻 河出書房新社
86	2016	平成 28	『伊能忠敬測量日記解読本』デジタルデータ 伊能忠敬e史料館 HPで販売

新たに島原藩領の伊能図写本確認

「長崎歴史文化博物館の「旧島原図」について」

鈴木 純子

はじめに

文政元年（1821）に幕府に上呈された「大日本沿海輿地全図」は紅葉山文庫に収められ、久しく公開されなかったが、測量途上の地域的な成果については、各藩からの内々の依頼にこたえて仕立て、納められた地図があったことが知られる。なかでも、平戸藩の先代松浦静山侯の発案で当主松浦熙（肥前守）が入手した藩領内の大図4舗（壱岐・五島・佐世保・長崎、当初7枚）、中図3舗（長崎・大坂間の海路図、当初5枚）と小図（九州）は、美麗な地図と入手の経緯、代価についての副書が残り（渡辺1996）、伊能の「江戸日記」、松浦静山による『甲子夜話』にも関連記事があった。よく知られているが、同じ九州北西部の島原藩、唐津藩、大村藩においてもそれぞれに同じような動きがあった。島原藩には後述するように、地図製作費請取、手土産代などの「伊能勘解由地図勘定書」が残っており（渡辺1996、松尾2003）、大村藩は地図入手をはかったかどうかは明らかでないが、隠居の元藩主大村純鎮自身が伊能から曆術の解説を受け、さらに藩士3名を入門させ（「測量日記」「江戸日記」）、「曆象考成」上・下編、および後編の写本作製を依頼（のちに当代藩主がキャンセルを申し入れ、今さらと伊能に拒絶されている）（伊能忠敬研究会2004）、また、唐津藩は勘定吟味役の田口弥三郎がしばしば伊能宅を訪れて数回「大画面五枚」など複数の地図を一定

期間借りては返している。写しが作られたと思われる（「江戸日記」）。しかし、平戸藩以外では地図の現存は確認できておらず、島原藩領図については、入江正利氏（元会員）による本号所収記事にもあるとおり、故人になられた渡辺一郎氏が、長崎在住の入江氏、島原の松尾卓次会員のご協力を得て探索を試みられたことがあったが、見つからなかったという。ただし、伊能図から派生したとみられる半島の地図は伝存している（松尾2003）。これについては後述する。唐津藩領図についても未発見ではあるが、渡辺氏の探索は及んでいる。

今回紹介する「旧島原図」は、長崎歴史文化博物館所蔵図で、別名を「肥前国高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖」という。入江氏が同博物館のホームページ上で着目し、閲覧、写真撮影をされたもので、「島原領」とあるが、ほぼ島原半島の南半部にあたる地図で島原城下を含む北半部は欠けている。

本研究会の河崎倫代理事を通じてその知らせを受け、数人で相談した結果として、筆者がとりまとめて報告することになった。ただし、まずは長崎に出かけて地図の実物に接した上で執筆するのが本来の手順であるが、現状で東京から長崎への調査行は困難なため、入江氏提供の写真、同氏および松尾氏のご助力で入手した関係史料などにもとづく所見にとどまることをお断りしたい。当面は「暫定版」にとどめ、社会的かつ個人的の条件が整えば実見のうえ必要な修正を加えることを期している。

島原藩の伊能図入手

島原藩が伊能図を入手したことは、経費にかかわる上記の史料から明らかであるが、まずは藩内測量への対応にはじまる入手までの経過をたどっておきたい。島原測量の経過については松尾（2003）があるが、便宜のため簡単に再録する。（図1）



図1 伊能忠敬島原領内測量行程図
(松尾卓次氏原図に一部加筆)

島原半島の測量は、第8次（九州第2次）測量、文化9年11月4〜19日（1812・12・7〜12・22）におこなわれた。半月を要している。寛政4年（1892）4月1日の雲仙眉山の大崩壊（「島原大變」）から20年という時期で、災害による心労から災害直後の同年4月末に急死した先代藩主松平忠恕（ただひろ）の跡を継いだ藩主忠馮（ただより）による藩政改革が進められていた時期である。測量隊は11月4日に佐賀藩諫早

領の森山村から半島北（有明海）側の根元にあたる愛津村で領内に入り、北岸に沿って、時計まわりに半島一周の測量にあたる。途中、島原城下に逗留（5泊）して、城下および「寛政四年湧出新島」一帯を測量したのち、本隊は南下し、坂部貞兵衛を頭とする大手分けの別隊は島原城下から西行し、千々石村、小浜村に至る峠越えの千々石街道の横切測量にあたった。両隊は西岸の加津佐村で合流（別隊は測量しながら南下して本隊と合流、反転して小浜へ）、千々石をへて佐賀領に出る。

「測量日記」によれば、測量隊が島原入りする前夜の佐賀藩諫早領森山村の止宿先には愛津村と加津佐村の庄屋が代表格として挨拶に訪れ、島原第1泊となる愛津村の止宿先（前夜挨拶に出た本陣庄屋深浦九郎左衛門）には、島原藩の付回役人として林鉄兵衛、奥村立助、勝手方として堂崎村庄屋江川彦左衛門、島原村庄屋森崎惣左衛門、同乙名本田勘助、また、島原侯の使者として郡方改役人（中小姓格）の奥村加兵衛が顔を揃えた。奥村加兵衛は領主の贈物を持参している。「品物は別記」とされ不明である。藩侯からは城下の11月8日にも「品は別記」とある「国産品」、有家町村の12日には菓子料が、いずれも奥村加兵衛を通じて贈られており、測量隊への藩の対応は丁重とみえる。藩の手厚い対応は災害以降の藩政改革に必要な地図の整備を見通した上のものであったのだろう。藩の対応については、島原市のさききばら郷土資料館所蔵の「文化六年豊州御領測量方取斗一件已十二月」（松尾2003）からも知られる^{注1}。挨拶に出た顔ぶれのうち、奥村加兵衛は藩と測量隊の連絡役を始つとめ、その後の伊能図入手にも直接かわる。また奥村立助は藩校算師の任に

あつて測量術の心得もあつたと思われ、付回役として実地の体験を得たものと思われる。のちに藩測量方として藩内の正確な測量図を作製した（松尾2003）。

島原藩は測量隊が第8次測量を終えて江戸に戻った文化11年5月末以降、毎年伊能への暑中、歳末の挨拶を続けている。藩主の参勤にしたがつて江戸に出た藩士、奥村嘉兵衛（「測量日記」には加兵衛、「江戸日記」の記載は嘉兵衛となっている）、あるいは萩完平の訪問が「江戸日記」によって確認できるが、「伊能勘解由地図勘定書」にはそれ以外の時季にも見舞、手土産などの出費は繰りかえされている。文化11年末に贈られた「雁一番」（ひとつがい）は、奥村嘉兵衛、奥村立助の連名になっている。「江戸日記」に立助の名が登場するのはこの時限りであるが、両名が一緒に訪ねたのかどうかは日記の文面では定かでない。

こうしたなかで、文化13年8月25日には萩完平が来訪して、伊能に「在（ママ）の趣（カ）漬梅、渡辺啓二郎に「酒肴」を贈り、「国図のことを談す」（「江戸日記」）とある。この時期に地図入手への打診がおこなわれたようであるが、具体化するのには1年余りのちの文化14年10月12日で、奥村嘉兵衛が伊能宅を訪れ、受諾の回答を得た。「江戸日記」の該当部分（伊能忠敬研究会2002）を引用する。

「十月十二日（前半略）昼後肥前島原藩中奥村嘉兵衛来る菓子持参九州六分之地図並びに嶋原領十間一分之地図を頼来る三月迄滞留の由夫迄に仕立を頼帰内々にて致可達旨約束す」内々という条件を付けた上での確約といえる。

「六分之地図」は中図、「十間一分之地図」は6千分1

図である。この年の年末に「千秋万歳」と結ばれた伊能の日記は新年の文化15年には綴られないまま、伊能は4月13日に没するが、それに近い時期にできあがった地図が渡されたことは、「はじめに」でふれた史料に記録された藩の出費の経緯により推定できる。

史料とは島原市のさききばら郷土資料館所蔵の「小川家文書」中に含まれる伊能測量関連の文書である。当時すでに体調のすぐれなかった伊能にかわって御用所の家事全般を担っていた内弟子筆頭の箱田左太夫（箱田良助）の名で、小川仁兵衛（島原藩郡方改役）宛の、①九州地図仕立手間代内五両請取（寅（文政元年）九月）（図2）、②九州図仕立て諸入用残金十兩二分請取（寅十二月）、および③「伊能勘解由地図勘定書」（日付なし、当初からの時候の挨拶、地図箱代など諸経費の細目）、さらに関連する別件として④小方位、象限儀、コンパス、厘差代金計五両五分請取、大野弥三郎名、小川仁兵衛宛（壬（文政5年）十一月廿九日）である。小川仁兵衛は郡方改役、島原藩飛地領である豊前・豊後（長洲村、高田村など）が測量された第7次測量当時には、同藩高田役所の代官として挨拶に出ている。③については金の両・分・朱、また銀の匁・分・厘の換算率が正確にわからないため、検

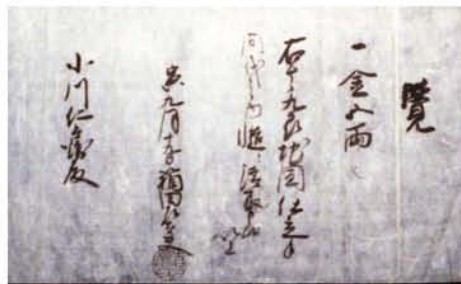


図2 九州地図仕立手間代五両請取
（さききばら郷土資料館所蔵）

算が難しいが、合計三五両三分（金）と三匁三分五厘（銀）、藩からは3回に分けて三六両二分が支出されており、残二分二朱と六匁三分五厘となっている。①と②の2回に分けて箱田に支払った製作費の一五両二分に比べて付け届けなどの諸費用が大きい。

九州および藩内の地図を入手したことがこうして確認できるとなれば、その地図の行方を追うことは欠くことのできない課題である。

伊能図にかかわる島原藩島原の地図二種

「はじめに」で述べた新出の「旧島原図」とは別に、伊能図に関連する島原全図がもう1種ある。本来1枚の地図が2つの部分に分かれ、別々の図名で島原市の本光寺常磐歴史資料館と島原図書館肥前島原松平文庫に所蔵されている（松尾2003）。これらを画像上で1図とした図（図8）を便宜上「島原全図」とし、関連のある「旧島原図」とともに紹介する。

1 長崎歴史文化博物館所蔵「旧島原図（肥前國高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖）」

本稿の主題である新知見の地図である（図3・図4）。同博物館での資料名は「旧島原図」で、「肥前國高来郡」という表題は地図の裏面貼紙に墨書され、行を変えて「松平主殿頭内／天野弥藤次」とある（図5）。天野は郡方勘定奉行であった。

その他の書誌データについては、縮尺は1万2千分1、手書き、彩色図で、紙の大きさは222×143cmである。印記などはなく、来歴も不明であるという。伊能図の由緒にかわりを持つ針穴は入江氏によれば裏打ちもあって確認できないという。



図3 旧島原図（肥前國高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖）（一部加筆）
（長崎歴史文化博物館所蔵・同館画像提供）

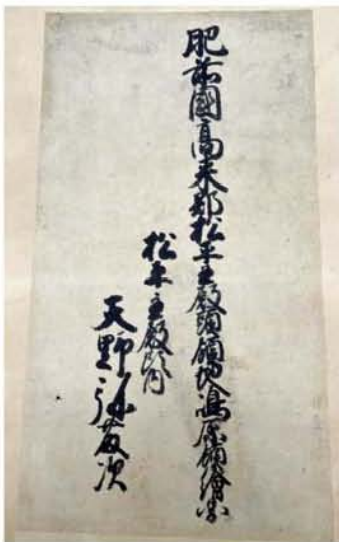


図5 右地図裏面



図4 旧島原図（図3）の一部拡大（入江氏撮影）

写真を拡大してみても、測線の角は明瞭であるが針穴はないようである。

つぎに、地図表現の特色を一覧する。細部には順にふれるが、概観としては伊能図の表現の特色を強くそなえている。なお、比較的新しい時期に裏打ちがされているが、上端部には裂け目も入り、保存状態は良好とはいえない。

嶋原領繪圖と題されるが、残念なことに地図の収図域は半島の南部のみに限られ、北半分の伝存は知られていない。しかし、上端部の2か所に伊能図の特色であり、隣り合う地図接合の目印となる上向き半円

のコンパスローズが丁寧に書かれていることから（図6）、北半の図が存在したことは確実といえ、また、この種のコンパスローズの使用はこの図が伊能図の系統に列することのひとつの証左でもある。



図6 コンパスローズ

縮尺 1万2千
分1は一分二十
間にあたる。島原藩が依頼して入手した伊能グループによる藩領図は一分十間図であり、この図はその2分1の縮尺ということになる。縮尺についてはいまひとつの「島原全図」とあわせてあらためてふれる。

地図は彩色図であるが褪色が認められ、全体としてくすんだ色調である。描画の形式は同一とはいえないものの、伊能図との近縁関係は明らかである。まず目につくのは、朱の折線による測線で表された海岸線と千々石街道、温泉山（雲仙）に向かう道路などで、一部の岬にはその外縁と根元を横切る朱線がみられる。測線は「測量日記」の記述と一致している。日記に記載がある南有馬村の原城本丸跡から海岸の繫杭までの測線（大図にもある）も描かれている（図7）。平面形で描かれた測線にたいして、山地はほぼ海側からの視角で、青黒みの強い緑の濃淡、村は黄色に着色された切妻屋根の連なりと樹林、田畑の霞、砂浜と見



図7 旧島原図（図3）の一部拡大（入江氏撮影）
原城本丸跡から海岸に至る測線および南有馬村吉川名の河口から北に向かう方位線

板倉内膳正重昌は、一揆鎮圧に派遣された上使で、寛政15年（1638）戦死。「板倉碑」は測量日記に詳しい記述があるが、大図には描かれていない。

られる海岸に黄色の着色などにより絵画風に描かれ、海は薄藍である。なお、この行程では愛津村、島原城下と南端の口之津村で天測をしているが、天測点の☆印は記入されていない。

このほか本図の表現上の著しい特色は測線上の多数のポイントから山頂や岬に延びる朱の方位線である。中図、小図に引かれた方位線は伊能図の特色として広く知られているが、大図では1図郭のカバーする範囲が小さく、目標が図郭外になることが多いことから、経緯線とともに方位線も描かれていない。確認は不十分ながら、大縮尺図に方位線が記入されている例はこれまで報告されて

いないと思われる、日々の限定された区域の測量における交会法適用の実例として注目される。

地名の記載は一見密とは見えないが、縮尺が大きいだけに大図と比べれば当然多い。小さな岬や島、山などの地名も補足されているが、川の名は大図に多く、本図にはほとんどない。この地域では村の下位に名（みよう）、さらに字（あざ）があり、それらは大図にも記載されているが、地区によっては大図にはあつて本図にならぬ地名もみられる。原図（一分十間図）作製時の選択の違いであろうか。少々気にかかる点である。

この図は以前から所在が知られていたものである（松尾2003）。島原半島全域を描くが、所蔵先が2か所に分散している。凡例の向きに合わせれば西を上にした図である（図8）。凡例によれば、製作者は塚本政直および木村正固（いずれも郡方物書加人、作製の時期は一分十間図入手から程ない文政元年（1818）の秋である。山地の描き方、金（朱ではない）の方位線などは伊能図の表現に近いが、海岸線の折れ線は墨になり、沿岸・内陸部分に朱線で道路、村には村界、村高が記されるといった改変が見られる。伊能測量をベースとして、既存の資料によつて藩政に必要な項目を

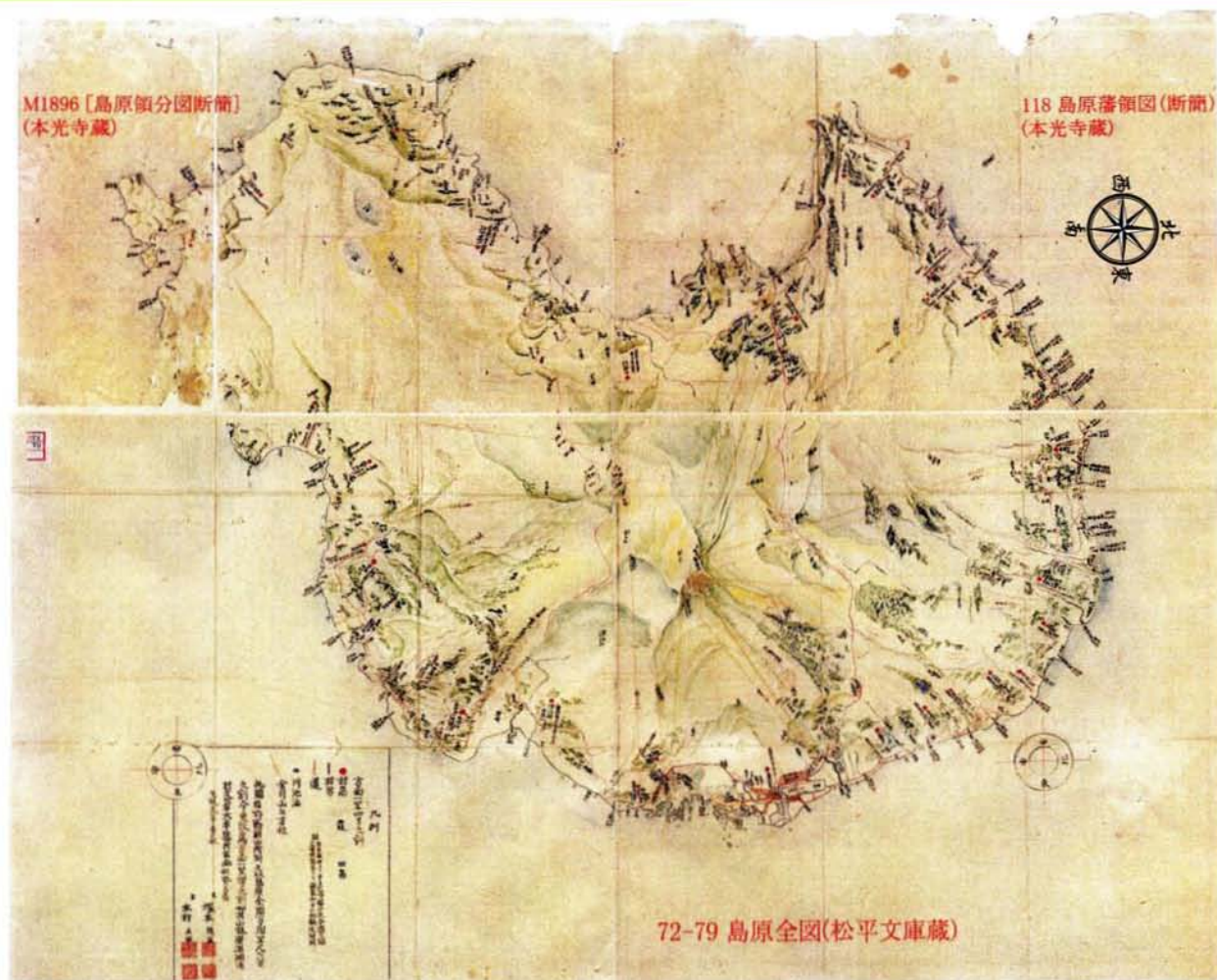


図8 島原全図（本光寺常磐歴史資料館および肥前島原松平文庫所蔵）

加えて仕立てられたと見られる。伊能測量との関係は凡例(図9)にあらわれている。記号はあとにまわし、それに続くあとがきを見たい。「此圖猪野勘解由所制之以島原全圖方面一里尺〇八分ノ之割今更改為方面一里四寸之割如其山林原濕潤溪ノ村落者大率據所在画形勢之圖(ノは改行)」とある。伊能ではなく猪野となつてゐることに ついて、松尾(2003)は「誤記ではなく、まだ伊能図が公開以前のことであったので、諸事情を慮つてこう表現したものであろう」としている。

ここに縮尺についての記入がある。「一里尺〇八分」とは一里を一尺八寸とする、すなわち1万2千分1である。さきに保留していた1の「旧島原圖(肥前國高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖)」と同じ縮尺である。その図を「一里四寸」、3万2400分1に改めたという。単純に3分1にして大図と同じ3万6千分1にしていけないのは、資料として併用した旧来の図の縮尺にあわせたためであろうか。この凡例の記述からは入手後の早い時期に一分十間図が2分1に縮小され、それに基づく新たな地図が編まれるという活用の経過を知ることができる。

記号の部分に戻る。村高、村界は説明不要であろう。「霞」「田畠」は伊能図にも使われる表現である。つぎの朱線には「道」とある。在来図によつて記入されたものであろう。興味深いのはその下の注記「但ノ島原府中ヨリ千々石浜福石迄分間圖ノ小濱村湯本より温泉山并小地獄迄同断」である。伊能測量では島原城下から西岸の千々石



図9 [島原全図] 凡例

に至る千々石街道を坂部貞兵衛の率いる別隊が横切り測量をおこない、小浜から温泉山への道は前半を坂部隊、後半を本隊が測量している。注記は「道」のなかでもこの部分だけは実測によるということを明らかにするものである。「川池海」の藍色は一般的であるが、つぎの斜めに走る線は「金引山竝方位」とあり、方位線に金色があてられている。伊能の方位線が地図づくりの担当者に残した強い印象がうかがえる。

新出「旧島原図（肥前國高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖）」の位置づけ

コンパスローズ、測線、方位線、景観表現などの特色と、「江戸日記」、「伊能勘解由地図勘定書」などの周辺諸史料、2の文政元年製「島原全図」などを考え合わせると、この図は最晩年の伊能の許諾を受けて島原藩が内々に入手した地図の模写本であるといえる。地名の不一致は元図に起因するものであろう。作製を依頼したのは一分十間図なので、本図はその2分1であり、縮小模写図ということになる。ただし、完成して受け取った地図は、史料では「島原図」として縮尺を示す記述はないので、受領した地図が確かに一分十間図であったのか、何かの事情で一分二十間図に変更されたか否かは不詳である。

この地図は「伊能図」か？ これは「伊能図」とは何かという問題とも関係するところであるが、これまで展開されてきた探索の過程で「伊能図」の範囲は広くとらえられているので、本図はその限りで「伊能図」としてよいと考える。

成立の経緯が詳細に知られ、模写本ではあっても元の図の入手直後、同時代の写しであることが

確かである点、大縮尺図であるにもかかわらず、方位線が表示されている点などユニークな特色もある貴重な資料といえる。

おわりに

これまで広く知られることのなかった長崎歴史文化博物館所蔵の「旧島原図（肥前國高来郡松平主殿頭領地嶋原領繪圖）」について、地図表現、「測量日記」その他の史料に拠りながら、この図が島原藩の依頼によって伊能の膝元で仕立てられた藩領図の縮小（2分の1）模写図であることを確認した。究極の「伊能図」である最終上呈図からの隔たりは大きい、現在適用されている「伊能図」の枠組みに収まるものである。「はじめに」に記したように、現品確認をしないままの不徹底な報告であり、再検討の機会が得られることを期している。

現品調査のほか、①島原藩が入手したオリジナルの九州図および島原図の探索継続、②本図北半部図の探索^{注2}、③全体図の精細な垂直写真撮影（↓方位線検討）など、課題はなお残されている。今回ふれる余地がないが、さきに紹介した「小川家文書」中の④小方位、象限儀、コンパス、厘差代金計五両壹分請取、大野弥三郎名、小川仁兵衛宛（壬（文政5年）十一月廿九日）は、江戸で伊能の測量器具の調製にあつた大野弥三郎からの測量器具購入を裏付け、領内測量への体制づくりが進んでいることを示している。松尾（2003）によれば、

「文政十年六月村中為測量奥村立助殿上下五人相見え村中都合、十七日に仕廻と相成申候」（旧有田庄屋石橋家記録）といった記録が残る、

当時の領内33村中9村の正確な地図が残っているという。その凡例には「量地拾間一分之圖、文政拾丁亥年五月改郡奉行川鍋次郎左衛門、測量方奥村立助、絵図方村越仙十郎…」といった表示があるといい、伊能測量が各地の測量や地図作製におよぼした影響の一端として注目される。これらについての全国規模の俯瞰も必要である。

終わりにあたり、情報、写真、史料、および参考資料の提供や、ご助言など貴重なご協力を賜った長崎県在住の入江正利・松尾卓次両氏に厚くお礼を申し上げます。

注1 豊州御領は豊前・豊後。両国界にまたがる島原藩の飛地領。第七次測量への対応だが、この段階では九州測量は1回で終了の予定であり、島原でも準備が並行中で、規範として島原の準備状況が記されている。

注2 入江正利氏は長崎歴史文化博物館所蔵図中、表題などから本報告地図との関連の推定される地図4点について、同館資料閲覧室の協力を得て点検されたが、いずれも関連は認められなかったという。

【参考文献】

- 渡辺一郎（1996）諸侯の依頼による地図仕立て『伊能忠敬研究』9、21、23
松尾卓次（2003）伊能忠敬の島原領測量と島原藩の地図作製『伊能忠敬研究』33、37、47
伊能忠敬研究会（2004）『伊能忠敬未公開書簡集』44（書簡番号…B・6）
伊能忠敬研究会（2002）伊能忠敬の江戸日記抄『江戸の伊能忠敬伊能忠敬銅像建立報告書保存版』76、151

渡辺一郎氏との出会いと別れ

入江 正利

初めてお会いしたのは、2000年(平成2年)

の「日蘭交流400周年」の時でした。伊能測量について渡辺一郎代表理事(当時)の講演会が長崎市の旧香港上海銀行長崎支店で開かれました。

講演後にお話する機会を得て、私の長崎県測量に関する資料をお見せしてアドバイスをいただきました。それから長崎県の担当者も同席して夕食を御一緒することができました。その時に「近々島原藩が購入したという伊能図を探しに島原へ行くが、同行しませんか」とのお誘いを受けました。

後日、諫早駅で待ち合わせをして、同行された福岡の女性会員と三人で私の車で島原へと向かいました。車中では忠敬(ちゅうけい)さんの話で盛り上がり、対馬測量の話の会報に投稿しませんかとお誘いを受けました。

以前から知り合いだった松尾卓次さんと島原市役所で待ち合わせて島原市長と面会し、今回の伊能図探しについて説明しました。松尾さんは、後日研究会に入会されましたが、島原藩の歴史研究の第一人者で、藩内の伊能測量についても独自に以前から研究されていました。

市長との面談後、古地図を収集されている本光寺へ行き、巨大な九州図や長崎図等とともに島原藩図を拝見しました。これは島原半島西半分の伊能図写真で、島原藩が購入した伊能図の縮尺を独自に変更し、街道の線等を加えたものです。

その後島原図書館へ移動して、先程の本光寺の図と対となる東半分の伊能図を見学しました。

次にさかきばら郷土史料館へ移動して文書類を

拝見しました。ここには小川家文書として、大野弥三郎から購入した測量器具の覚書や箱田左太夫の名が入った地図購入の覚書等があり、九州図と島原図を購入したことが判ります。

この時は残念ながら島原藩が購入した地図は発見できなかったのですが、どこに残存しているほしいという気持ちはありました。

渡辺さんから話があった対馬藩宗家文庫『測量御用記録』を見直し、2000年23号から2002年28号にかけて会報『伊能忠敬研究』に発表しました。その時渡辺さんから文中に出てくる「測量を中止してほしい」という藩はいままでにないで、読み違いではないか」との指摘を受けました。早速原文画像を送れということでした。古文書解説に詳しい人に解説文を見てもらったところ、解説文に間違い無いということでした。

この時点では『測量御用記録』の一番から五番までの内、二番だけが未発見でしたが、対馬歴史民俗資料館から二番が見つかったという連絡を受け、対馬へ飛び原本を撮影しました。その解説を済ませ、2013年68号に対馬藩宗家文庫『測量御用記録』続として発表しました。渡辺さんには様々なアドバイスを電話やメールで受け、未発表の最終版には注釈も書き加えていただきました。その上に渡辺さんの御本『伊能忠敬測量隊』の中に、対馬測量の資料として取り上げられました。

2012年8月に佐賀市市村記念体育館で伊能図全国巡回フロア展が開催されました。佐賀県武雄市の馬場良平氏の御尽力によるものです。渡辺さんの講演も予定されていたので、久しぶりの再会となりました。相変わらずお元気そうで、開口

一番「肥ったネ」と言われ、お互い大笑いしました。

同年8月、突然NHKから電話があり、『BS歴史館伊能忠敬日本を知らしめた男』という番組で、伊能忠敬についての番組を制作中です。対馬での測量について対馬歴史民俗資料館でロケを行いたいので参加してほしい」とのことでした。私は今までテレビ出演の経験もなく、お断りしました。数日後に渡辺さんから電話で「良い機会だから対馬の測量について説明してはどうですか」とのお話でした。渡辺さんからの依頼では断れず、25日に対馬での撮影に参加しました。非常に暑い中での撮影で、『測量御用記録』について忠敬と対馬藩郡方佐役中村郷左衛門との会話を中心に話をしました。



2013年4月 長崎市歴史文化博物館の坂本龍馬の写真側で撮影

2013年4月には佐賀県武雄市で渡辺さんの講演がありました。その後に長崎市に立ち寄られ、長崎歴史文化博物館を訪問されました。長崎奉行所のお白洲等の見学や、坂本龍馬の写真と一緒に記念撮影をしました。楽しい時間を過ごすことができました。

2014年に私は伊能忠敬研究会を退会したのですが、その後も渡辺さんとは電話やメールでの連絡は続きました。入会して16年が経っていました。

2015年には伊能忠敬『測量日記第七次・八次』の解説を依頼され、渡辺さんとの連絡を交えながら終了させることができました。

2016年6月には諫早市で渡辺さんの講演が開かれ、その翌日に長崎市のシーボルト記念館を奥様と訪問されました。この時にはすでに食事制限されているとお話でした。お会いした後には、9月に除幕式を予定している伊能忠敬長崎町測量時の止宿大同庵（長崎市炉粕町7立正佼成会）の石碑建立地を下見していただきました。除幕式の時には渡辺さんから祝辞の原稿を送っていただき代読しました。

2018年3月、長崎歴史文化博物館のサイト内にある『旧島原図肥前国高来郡松平主殿頭領地島原領絵図』のサムネイル画像を見て、伊能図によく似ている図を発見しました。その古地図を閲覧したとたんに、18年前に渡辺さんと島原の伊能図を調査したことを思い出しました。撮影を済ま

せ、コンパスローズ・方位線が描かれているのを確認しました。帰宅してすぐに渡辺さんに報告と画像をすべて送りました。鑑定できるのは渡辺さんか鈴木さんしかいないだろうと思い、その旨お伝えしました。返信メールでは「入江さん、お写真をありがとうございます。写真はこれで全部ですか。写真で見える限り、コンパスローズは本物、画面では測線は伊能図らしいですが、風景の描き方は違っていますね。（これはありうる話ですが）今後どういう段取りを考えていますか。あと針穴ですか」という御返答でした。



長崎歴史文化博物館蔵
『旧島原図肥前国高来郡松平主殿頭領地島原領絵図』

同年6月に前述の松尾さんと江越さん（長崎学に詳しい方で、伊能忠敬止宿跡の石碑建立に御尽力いただいた方）と3人で再度の閲覧に行きました。この時は渡辺さんから針穴を調べるようにとのことだったので、虫眼鏡で測線を見ましたが、地図は裏打ちしてあつて穴がふさがっていました。後日渡辺さんとの電話で裏からライトを当てて見るのが正しいやり方だとか教示いただきました。現在の地図との比較から1万2000分の1の縮尺のようでした。

その後、2019年に長崎歴史文化博物館から国立歴史民俗博物館の方に鑑定を依頼した旨のメールが来ました。

『島原領絵図』はこの南半分しか発見できておらず、北半分と『九州図』は未発見のままです。何年か後に必ず発見できると私は思っています。

2020年に入り、1月に渡辺さんから2度の電話があり、「最近身辺整理をしていて、一部資料を富岡八幡宮へ寄贈した。そして長崎へ行って島原の図を確かめてみたい」と話されていました。それと「落語家の志の輔師匠と会った時、さだまさしさんの島を伊能隊は測量したのだろうかという話になった」そうで、私からは「坂部隊が測量し、その時は寺島といました。後からさださんがごんべんをつけて詩島とされたようです」とお伝えしました。「次回志の輔師匠と会ったら話します」と楽しそうに話されていました。この時は渡辺さんのお声はすこぶるお元気そうでした。

2月に長崎歴史文化博物館に鑑定結果は出ましたかと問合せましたが、まだ結論は出ていないと

6月には河崎さんから対馬藩宗家文書の「測量御用記録」について問合せがあり、そのついでに『旧島原図肥前国高来郡松平主殿頭領地島原領絵図』*についてお伝えしたら、鈴木さんにもお伝えしますということで、非常に関心を寄せていただきました。

その動きのなかで河崎さん横溝さん馬場さんから、渡辺さん御逝去のメールをいただき非常に驚きました。体調がすぐれないことはご本人からお聞きしていました。2月の毎日新聞等のウェブニュースの写真を見ると、新たなプロジェクトを始める渡辺さんのお姿が写っていました。期待していた矢先の訃報となりました。

メーハは2月6日が最後となりました。この時は対馬藩郡方佐役中村郷左衛門著『農家童子訓海隅田舎草紙』という新しい史料についてお知らせしていたのですが、それに対する問合せでした。

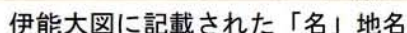
長崎歴史文化博物館の新しい伊能図?や、中村郷左衛門の話、来年の「令和の伊能大図をつくる会」等、最後まで興味を示しておられたので、非常に残念に思います。いつもの「入江さん?東京の渡辺です」という声をもう聞けないのが淋しいです。

遠く長崎より、ご冥福をお祈り申し上げます。

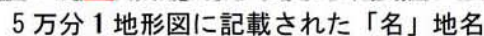
※長崎歴史文化博物館所蔵の『旧島原図肥前国高来郡松平主殿頭領地島原領絵図』については、本号25～30ページ「新たに島原藩領の伊能図写本確認」を参照。

「名」地名について

島原半島の伊能図や国土地理院の地形図を見ると、後ろに「名」がつく地名が多いのに気がつく。ここに示した図は、島原半島北東部の一部であるが、村名に添えられて「○○名」と書かれた集落単位の地名が全体に分布している。



米国議会図書館蔵 伊能大図 196 号「島原」部分に加筆



国土地理院 5 万分 1 地形図「荒尾」部分に加筆

この「名」という文字は「みよう」と読み、中の農地の単位（一区画）を示す。

「名」の前に書かれた名称は、徴税の対象者であった土地の耕作者の名前である。

律令制度の税制は調や庸といった人頭税が中心だったが、10世紀に入ると「名」を課税の対象とし、その土地の耕作者（負名）から田畑の面積に応じて税を徴収する負名体制となった。負名は田堵とも呼ばれ、税の徴収を請け負う者を指す。

土佐の伊能測量3

四万十町―四万十市編

福田 仁

伊能忠敬没後200年を迎えた平成30(2018)年、土佐の伊能測量ルートを自転車ですごった旅の続きを紹介する。

【四万十町の続き】

四万十町・志和の小さな漁港から西を望むと、びようぶのように山々がそびえている。これからあの「志和坂」を越えねばならぬ。道のりにして約6キロ、標高差は約300メートル。今回の企画を立案した当初から、難関の一つと身構えていた。沿道に人家はない。自分の体と自転車のみが頼りだ。



写真1. 意外と難関でもなかった志和峠

坂がきつければ、自転車を押して登ろう。緊張感をもつて、つづら折りの一車線道路を登っていった。いざ走り出してみれば、傾斜は意外に緩やかだ。自転車の性能にも助けられて、ゆつくりとペダルを踏み続けた。

わずか30分余りで、志和峠に到着した。うれしい「誤算」である。志和峠の向こうには、県内有数の穀倉地帯、窪川台地(高南台地)が広がっている。

今ではいかにも「へき地」といった趣の峠道だが、忠敬の時代には、窪川台地で生産された米を、港(志和)へ輸送する最短ルートだった。農民たちが、馬の背に米俵を載せて、次々この坂を下った。

ちなみにこの志和峠の東側に降った雨は、志和周辺へと下って太平洋に注ぐ。峠から海まで、直線距離にして約2・5キロ。そして峠の西側に降った雨は、窪川台地を潤して四万十川に流れ込む。四万十川は窪川台地から蛇行を繰り返して、愛媛県境に迫り、そこから延々と南下して太平洋に流れ込む。伊能図からは少し話が異なるが、簡単に海に注がないところが、四万十川の大河たるゆえんである。



写真2. 興津岬(旧与津崎)を見下ろす。
天然の良港

窪川台地からは別の急坂を下って、海岸部の興津(古くは与津)の集落に出た。太平洋に突き出た岬は独特の形状で、遠方からも容易に識別できる。

【黒潮町】

目を改めて、窪川台地から黒潮町鈴に向かう。事前に5万分の1の地図を眺め、車での下見もした上で、「さほどの難易度でもない」と思っていた。しかし自転車で現地に入ってみれば、高低差が実に著しい。かつ山林ばかりでほとんど眺望がきかないので、達成感がなく、つらさが倍増する。自転車を押して、あえぎながら坂を登り続けた。猛暑の中の苦行である。志和峠での「うれしい誤算」のつけを、ここで払うことになった。

今の車は性能がいいから、ほぼストレスなく坂を登っていく。それゆえに高低差の感覚を、なかなかつかめないことも思い知らされた。やはり地形や距離感をリアルに感じ取るには、人力の移動に限る。そして過酷な体験ほど、不思議と鮮やかに思い出されるものだ。

汗まみれになって、鈴に到着。人口約70人の小集落ながら、定置網漁業が行われているので、働く人々の姿もみえて活気を感じた。

【アワビ騒動】

場面は、手結(ていけい現香南市)にさかのぼる。伊能隊に付き従った土佐藩役人、奥宮正樹の日記(文化5年4月27日)に、次の記述がある(現代語訳は福田)。

ある者が忠敬さまに「この磯にはアワビがたくさんいます」と言った。忠敬さまはこうした話題に大いに関心を示す人物で、「では獲らせてみよ」と命じた。漁民3人が海に入り、小さい貝を2、3獲ってご覧に入れた。

うかつにしゃべったものだ。過去に幕府から

の照会に対して「土佐にアワビはいない」と回答している。今になって「いる」と言えるわけがない。だから漁民には（こつそり命令して）小さなナガレコを獲らせた。

忠敬さまには、次のように説明して切り抜けた。

「当地で『アワビ』と称するのは、ご覧のように一般に『ナガレコ』と呼ばれる小さい貝なんでしょう。本物のアワビはおりません」

好奇心旺盛な忠敬のキャラクターがうかがえる。こうした交流が、全国各地で繰り広げられたのだろう。伊能隊を迎え入れた地方の側の「舞台裏」が透けて見えるのも面白い。

さて、高知新聞の企画「伊能図を巡る 土佐の村々今昔」（平成30年、計8回）が始まってしばらくしたころ、読者から貴重な情報を頂いた。鈴の出身で、先祖が伊能隊に宿を提供し、かつその詳細な言い伝えを記憶している人物がいるという。その方は、今は香川県高松市に住んでおられるとのこと。連絡先を教えてください、高松を訪れた。

昭和13年生まれの宮地初男さん（取材当時80歳）。鈴の庄屋のご子孫である。物心ついでから中学を卒業して鈴を出るまで、炭焼きだった祖父の庄太郎さん（明治13年生まれ）と同じ部屋で寝て、夜ごとに祖父の物語を聞いた。伊能測量に関して、初男さんは次のような話を鮮明に記憶している。

「伊能忠敬がうち（庄屋宅）に泊まった。その時、藩庁からお達しがあったそう。まかないにするのに、イセエビやアワビを出したらいいかん、と。『高知ではこんなものが取れる』と幕

府にばれてしまう。幕府の役人が『あんなこんまい（小さな）村でも、イセエビやアワビでもてなしてくれた』と話して、『献上品として差し出せ』と言われたらしいかん。これは何回も聞いたな、あのじいから」

これは筆者の想像だが、手結のアワビ騒動を受けた奥宮らは、即座に藩上層部に事態を報告。以後、藩内で伊能隊が通過する村々には、重要注意事項の一つとして「アワビ秘匿」が周知徹底された、ということだろうか。

初男さんの祖父は、こうも語った。

「（測量隊は）こんまい船で小室の浜（現四万十町興津Ⅱ旧与津）から来たらしいのう。海が荒れて大変じゃったらしいのう」

忠敬本人による「測量日記」（5月23日）には、与津を出た後について、次のように書かれている。

「段々風雨強なり海辺休小屋にて中食難成、昨夜の止宿へ立帰て中食し、雨中、又止宿前より初、小室浜の先手残し杭へ合測し（此浜の上に与津村あり）、夫より乗船し鈴浦へ越す。（略）止宿、幡多郡鈴浦庄屋林左衛門、別宿鈴村庄屋清助」

小屋での昼食をあきらめて、あえて出発点の宿まで引き返して食べたというのだから、よほどの大雨だったのだろう。当然、海も荒れただろう。

宮地さんの祖父は、ほかにもこんな話をした。

「村が総出で接待したんじゃないかのう。なんせ貧乏な村やからのう」

「船で望遠鏡をのぞきながら測量をした。海岸に人を歩かせて、その人が印を付けちゃあ測

ったそうなのう。陸（おか）に行く時はケンナワ（間縄）いうもん引いた。1間ごとに区切りがある縄よ」

「幕府の役人とは見識の高いもんやのう。うちの庄屋なんか名字まで呼ばず、名前で呼び捨てや」

初男さんの弟の儀一さん（黒潮町佐賀在住）が、鈴の宮地家墓所を案内してくれた。墓石の一つに「鈴村庄屋宮地清助久信」とある。1834年に65歳で死去。逆算すれば、伊能隊受け入れ時の年齢は39歳。測量日記に登場する「別宿鈴村庄屋清助」と、この墓石の人物は同一とみていいだろう。



写真3. 「鈴村庄屋宮地清助久信」と書かれた墓石

初男さんが記憶する伊能測量関連の伝承の主要部分は、二つの文字資料（奥宮日記、測量日記）の記述内容と一致する。210年前の出来事が、文字に頼らず、世代間の言い伝えによって正確に受け継がれてきたことに、深い感銘を受けた。埋もれゆく「口碑」を掘り起こして記録に残すことは、地方新聞の役割の一つでもある。



写真5. 廃仏毀釈で廃寺となった松山寺の跡地

「伊田浦の松山寺へ立寄、中食をなしこの寺伝来の紀貫之の月ノ字の額一覽す」

さて忠敬の測量日記であるが、佐賀を出発した5月26日、次の記述がある。

【黒潮町】
現在の黒潮町佐賀は、近海一本釣り船の母港として知られる港町。伊能隊に付き従った奥宮正樹は5月25日、ここ佐賀で役目を終えて高知へ帰った。阿波・土佐の国境で一行を迎えて以降、佐賀まで激務の連続だった。アワビについてもうまく秘匿を続けることができて、ほっとしたことだろう。



写真4. 土佐白浜駅から後方を振り返る。右端が興津岬

わざわざ日記に記したのだから、感銘を受けたのだろう。松山寺は明治期に廃仏毀釈で廃寺となっている。伊能図は大図、中図ともに「松山寺」と記されているから当時は相当、大きな寺院だったのだろう。今は、跡地に石碑や看板が立ち、お地藏さんがわずかに並ぶ程度だ。住民に聞けば、「月の字の額」は現存することになった。伊田区長の杉本正守さん（取材当時63歳）が、津波の恐れのない場所で大切に保管しておられるということで、拝見させていただいた。



写真6. 紀貫之の書による「月」の字の額

焼け焦げて黒ずんだような木片に「月」の文字を彫り込んでみる。手にしてみると、思いのほか薄く、軽い。忠敬も、この木片を実際に手に取って鑑賞したに違いない。

いくつかの資料によると、額は土佐守だった貫之が「松月庵」と書いて庁舎（現高知県南国市比江）に掲げた。これが後に松山寺に移された。いつの時代か、大掃除の際に間違って塵焼き場に打ち捨てられ、「月」の字のみが残ったようだ。江戸期に「貫之の真筆」と断定され、その存在が広く知られるようになった。貫之の顕彰活動を行う「国府史跡保存会」（南国市）が平成25年、この「月」の字を彫った石



写真7. 紀貫之邸跡に建立された石碑

碑を、比江の貫之邸跡に建立している。その写真も紹介しておこう。ちなみに比江は坂部以下の「支隊」が5月1日、四国縦断測量の際に宿泊した土地でもある。



写真8. 「田ノ浦の観音さん」で知られる飯積寺

伊能隊の5月27日、田野浦（現黒潮町）での本陣は、測量日記によると「蓬萊山和泉寺」。現在は飯積（いづみ）寺と表記され、「田野浦の観音さん」として人々の信仰を集めている。飯を盛ったような形状の、標高217メートルの山の頂に寺がある。伊能隊が宿泊した施設は、この山のどの辺りにあったのだろうか？



写真9. 測量もはかどったであろう「入野の浜」
左端に足摺岬がかすむ

【四十十市】
四十十町と四十十市は、分かりにくいが高知県内の別々の自治体である。平成の大合併で、それぞれが「清流・四十十」にちなむ名称を選んだ。この2市町は山間部で接するが、海岸部では間に黒潮町を挟むことになる。例えば筆者の自転車旅（基本的に海岸沿い）の場合は、四十十町→黒潮町→四十十市の順番に訪れることになった。

測量日記（5月29日）には、四十十川河口の下田（現四十十市）で宿泊し、「止宿、本陣平田屋忠蔵」とある。「中村市史」（昭和44年発行）に引用された資料に「平田屋は下田の商業権を掌握し」「菱垣廻船千石積みを造り江戸大阪と貿易を開けり」とあり、相当な豪商だった。下田浦には文化8年に「惣問屋」が設置され、同14年まで「平田屋忠蔵」が務めたとも。測量日記の宿泊先亭主名と一致する。



写真10. 四十十河口を船で渡る

下田と対岸・初崎の間は船で渡り、旅情あふれるひとときを過ごした。忠敬が「当国の大河」と日記に記述しているが、実に風格のある川だ。川を超える時は、橋を通るにしても、いつも特別な感慨に浸る。仁淀川、四十十川のような大河であれば、なおさらだ。

初崎からは、人家もまばらな海岸沿いのルート。絶景の連続かと思いきや、木々に視界をさえぎられて、あまり海が見えない。鈴—佐賀のルートもこんな感じだった。

【平成の復元伊能大図】

渡辺一郎先生逝去の知らせを、高知新聞の掲載記事（共同通信配信）で知った。振り返れば筆者の高知新聞での企画は、渡辺先生の懇切丁寧なご指導、ご協力のもとに成り立った。地方の小さな新聞社からのさまざまな要請にも、常に真摯に応えてくださった渡辺先生のお人柄

を、あらためて偲ぶ次第である。

企画に際しては中図（徳島大学附属図書館蔵）に加えて大図も掲載したいと考えた。渡辺先生に相談したところ、先生はアメリカ大図を基に土佐の部分（5枚半）をデジタル復元した「平成の復元伊能大図」の新規制作を検討。膨大な作業量が必要となるが、これに「イノペディアをつくる会」会員の横溝高一さん、ななさん親子が応じてくれた。その結果、読者にさまざまな伊能図を楽しんでいただくことができた。次ページに掲載した大図は、今回の会報のため、横溝さんに2枚（いずれも部分）を結合していただいたものである。

表 主な地点の経緯度

場所	緯度（地理院地図）	経度（地理院地図）
鈴庄屋墓所	33度7分38.49秒	133度9分12.98秒
松山寺跡	33度1分52.08秒	133度4分50.17秒
飯積寺（和泉寺）	33度0分3.39秒	132度59分26.67秒

※上記3地点では、いずれも伊能隊による天体観測は行われていない。



江戸府内第一次測量の記録(二)

—文化十二年二月五日の『日記』—

玉造 功

二月五日の測量は大山街道木戸の①印から芝口一丁目四辻の青山道追分の②印までであり、東海道に接続するためのものであった。測量経路は図1の『大日本沿海輿地全図』第九十図「武蔵・下総・相模」に朱色で加筆強調した

部分で、渋谷、青山、赤坂、虎ノ門、新橋を繋いでいる。

・大山街道：大山阿夫利神社（神奈川県相模原市）への参詣の道の一つ。赤坂御門から渋谷、厚木を経て大山阿夫利神社に至る。

大山街道の測線は、第九次測量隊が文化十三年三月二十一日に、二子村から大山街道木戸・下渋谷村道玄坂入口の木戸へと繋いだ。

・『日記』の記載からは、渋谷一帯が町奉行支配の場末の町方と代官所支配の在方の村々が混在する地域であったことがわかる。とはいへ幕府が編纂した地誌『御府内備考』には、渋谷の内で武家屋敷地や町人地となつたのは村地の内の十分の一にも足らないと記されており、農村風景が広がる地域であった。

同五日時、微雨、武蔵豊嶋郡大山街道界木戸左柱 ①印始め。大山街道木戸より

同五日。時々微雨、武州豊嶋郡大山街道界木戸左柱 ①印始め。大山街道木戸より

江戸の方へ向て測量。左側、町奉行支配、下渋谷 宇広尾町分。右側 三給入会

中渋谷村 俗に 左駒場原御成道追分、是より八町引込という。左側道玄坂町、右共 中渋谷村。

中渋谷村 俗に 大和田という。

古側中 大貫治右衛門代々木村 左ばかり 官益町。渡長五間。右官 益町 字富士見坂という。

御代官 支配所 大貫治右衛門代々木村。左ばかり 官益町。渡長五間。右官 益町 字富士見坂という。



図1 『大日本沿海輿地全図』第90図に測量経路を加筆

<p>左中 道玄坂町 右浄土宗 又左 共宮益町 渋谷の内 右屋鋪町 右 仙石安芸守 鋪</p>	<p>右箱葉丹後守上地 御家人屋鋪 左横町 右松平左京亮屋鋪前 右横町 左辻番所、此所界 （渋谷） 青山 青山百人町。</p>	<p>左田村左京太夫屋鋪 左組屋鋪 左横町七騎町といふ 左横町有り 善光寺門前</p>	<p>又右 右横町 右教覺寺前 本戸是より 久保町 左横町、青山六道の辻道追分、 梅窓院、左青原寺。</p>	<p>左脇坂中務太輔屋敷 右鳳覚寺。 右大嶋雲平屋敷。 右横町。 （是より） 五十人町。 右横町、左横町。 左側ばかり</p>
---	---	---	--	---

・宮益町：図2の『江戸名所図会』の本文には「富士見坂。渋谷宮益町より西へ向ひて下る坂をいう。斜めに芙蓉の峰（富士山）にむかふ故に名とす。相模街道の立場にして、茶店酒亭あり、麓の小川に架せる橋をも富士見橋と名づけたり。」とある。再開発の進む渋谷の現状からは想像もつかない風景である。



図2 江戸名所図会 宮益町富士見茶屋

・渋谷の内左右屋鋪町：図3の江戸実測図を見ても、宮益町で街道沿いの町家は終わり、朱の測線の左右は武家屋敷だけとなる。
・仙石安芸守屋鋪：但馬出石藩仙石美濃守政

美の下屋敷。一万千八十二坪。「安芸守」は誤記で図3の「美濃守」が正しい。



図3 伊能忠敬 江戸実測図(南)

- ・稲葉丹後守上ヶ地：享保十年、山城淀藩稲葉家下屋敷の一部を幕府が取り上げて御家人の屋敷地とした。
- ・松平左京亮屋鋪：伊予西条藩松平左京大夫頼啓の上屋敷。四万坪。「左京亮」は誤記で図3の「左京大夫」が正しい。この屋敷には○がない。実測図の記号によると○は中屋敷・下屋敷・抱屋敷とあり、上屋敷と判別出来る。
- ・青山：『御府内備考』巻之七十には青山という地名の由来が記されている。この一帯は

徳川家康の家臣青山忠成の広大な屋敷地であったが、後年次第に上地されていき、「青山氏の上ヶ地と言ふべきを、下略して青山と呼しより、おのづから一ツの地名となり」とのことである。



図4 『御府内備考』17下
百人町大縄地長者ヶ丸辺之部に加筆

- ・田村左京太夫屋鋪：陸奥一閑藩田村右京太夫敬顕の下屋敷。三千九百四十坪。左京太夫は誤記で、図3の「右京太夫」が正しい。
- ・織田屋鋪：大和柳本藩織田大和守秀陽の下屋敷。三千六坪。

青山百人町：『御府内備考』によると、鉄砲百人組の与力二十五騎と同心百人が集住する大縄地として一括して屋敷地が与えられたことから生まれた里俗地名。図4には鉄砲角場という射撃場が記載されている。

- ・善光寺：『青山 寺社書上』によると、信濃善光寺大本願上人が出府する際に宿泊するための寺院である。元々は谷中にあったが、火災を期に青山の地に移転した。図5にも見えるように寺と街道の間には門前町家が建ち並び、その数は三十八軒とある。
- ・脇坂中務大輔屋鋪：播磨龍野藩脇坂中務大輔安董の下屋敷。七千六百十六坪。
- ・大嶋雲平屋鋪：中奥小性の大嶋伊勢守守典の屋敷。九百四十四坪。四千七百石の旗本で、代々雲平を名乗った。

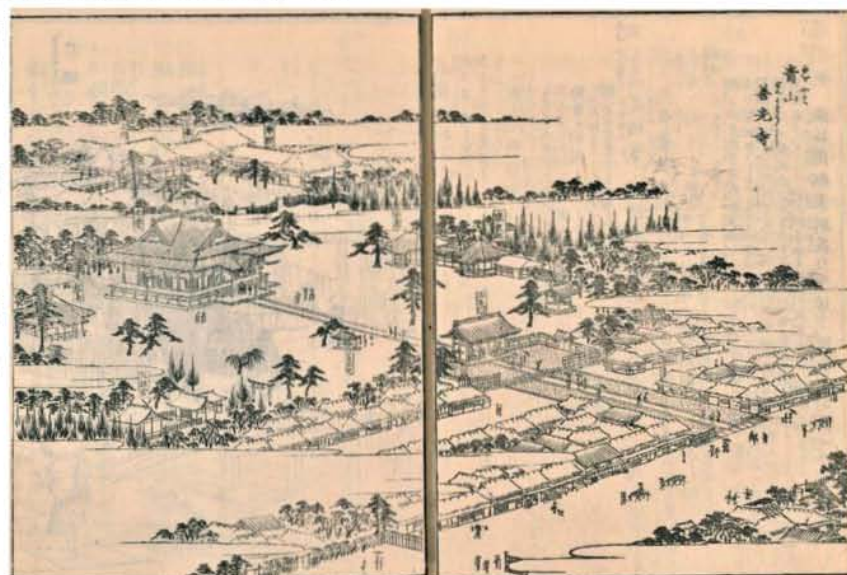


図5 江戸名所図会 青山 善光寺

<p>浅川町 若松町 右横町 又右横町 越前 青山大膳之亮 右横町 又左横町、右辻番 右横町、又右横町</p>	<p>浅川町。若松町。右横町。又右横町。此辺 青山大膳之亮 上ヶ地小屋敷。</p>	<p>右側ばかり 御手大工町。 左青山下野守下屋敷。 右横町宮様御門前。 左辻番所 右横町</p>	<p>左紀伊殿屋鋪 右小屋敷 右青山大蔵太輔下屋敷 右城多一郎屋鋪 右横町左辻番 右横町 右武田兵庫屋鋪 右横町左青山</p>	<p>下野守屋鋪 赤坂 左禪宗玉相寺 左松平左兵衛督屋鋪 右横町 右青山大蔵太輔下屋敷 左横町 左辻番所 右妻木屋敷 左火消屋敷</p>	<p>右竹腰山城守屋敷 表伝馬町二丁目 右大久保久米之助屋鋪 左横町摺町という。 左表伝馬町</p>	<p>右竹腰山城守屋敷。 表伝馬町二丁目。 右大久保久米之助屋鋪。 左横町摺町という。 左表伝馬町</p>
---	---	---	---	--	--	---

図6を見ると、武家地の間に五十人町、浅川町、若松町、御手大工町という町人地が見られる。『青山町方書上』によると、五十人町は作事方定普請同心五十人に、浅川町は黒鍬の者九十六人に、御手大工町は御手大工衆二十五人に与えられた大縄拝領町屋敷であり、若松町は御広敷伊賀者など六人の拝領町屋敷がここに集められた。拝領町屋敷は小禄の御家人などに与えられ、町方の者を居住させ賃貸料を取ることができた。大縄拝領町屋敷は組単位で一括して与えられるが、青山百人町のように自ら集住するためのものではなく、賃貸収入を得るためのものであった。

辻番所：辻番ともいう。幕府・大名・旗本が武家地の辻々に自警のために置いた番所。

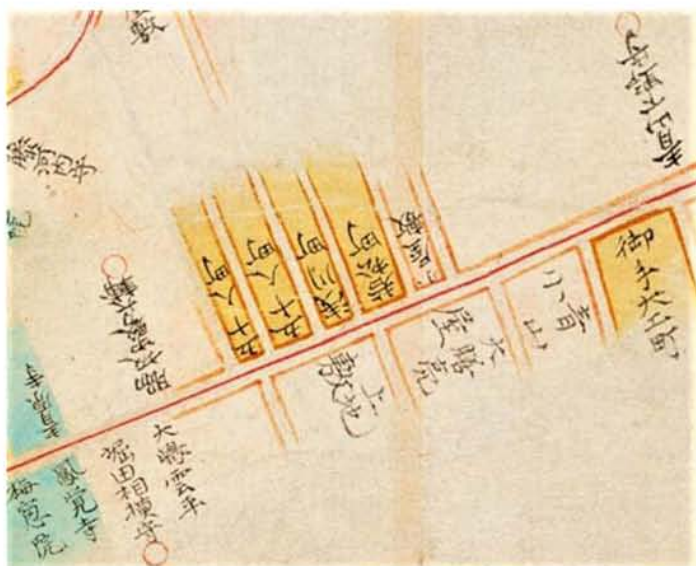


図6 伊能忠敬 江戸実測図(南)



図7 伊能忠敬 江戸実測図(南)

・青山大膳亮上ヶ地：地名の由来となった徳川家康の家臣青山忠成の嫡男の家系は青山通の北側に屋敷を持ち、各地に転封を繰り返して丹波篠山藩六万石で幕末となった。青山忠成の四男幸成の家系は青山通りの南側に屋敷を持ち、各地に転封を繰り返して美濃郡上藩四万八千石で幕末となった。幸成の跡を継いだ青山大膳亮幸利は延宝六年に街道沿いの三万五千三百三十九坪余を上地した。

・青山下野守下屋敷：老中を務める丹波篠山藩青山下野守忠裕の中屋敷(下屋敷は誤り)。二万二千四百四十九坪。

・宮様御門前：里俗称。『御府内備考』によると、京から宮様(伏見宮家の照子女王)が下向なされ、御殿が出来て、その御門が宮様御門と呼ばれた。紀州藩第二代藩主の徳川光貞の正室にあたる。

・紀伊殿屋鋪：紀伊和歌山藩徳川家の中屋敷。

・青山大蔵太輔下屋敷：美濃郡上藩の青山大

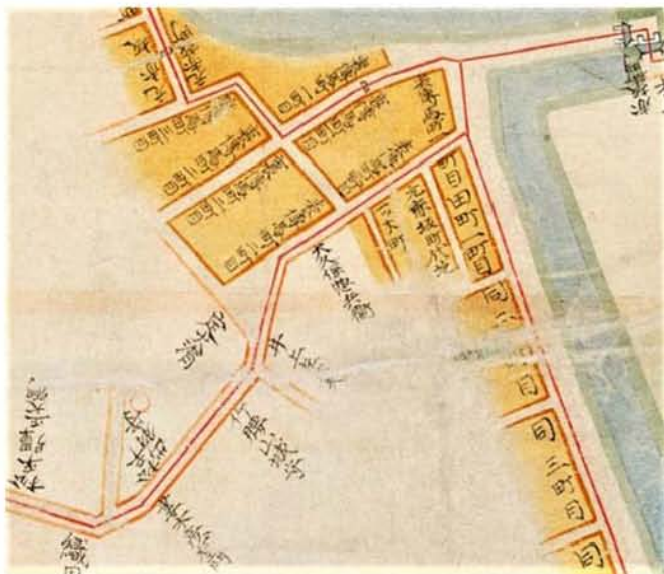


図8 伊能忠敬 江戸実測図(南)

蔵少輔(太輔は誤り)幸孝の中屋敷(下屋敷は誤り)。十万五千七百四坪。江戸府内第一次測量の後に代替わりがあり、図7では青山石之助となった。

・城与一郎：二千石の旗本。

・武田兵庫：武田兵庫信徳は五千三百十八石の旗本。定火消御役で、溜池の火消屋敷を担当。定火消は十組あり十人火消と呼ばれた。

・青山喜右衛門：五千五百石の旗本。寄合衆。江戸府内第一次測量の後に代替わりがあり、図7では青山主殿となった。

・松平左兵衛督屋鋪：上野吉井藩の上屋敷。第六代藩主の左兵衛督信充の死後、幼年の信敬が第七代を継いでいたが『日記』には反映されず、江戸府内第一次測量後になって叙任され、図8では松平弾正大弼と表記された。

・竹腰山城守屋鋪：尾張藩付家老の竹腰山城守正定の上屋敷。三千九百三十四坪。



図9 広重 江戸之華 十人火消出馬之図

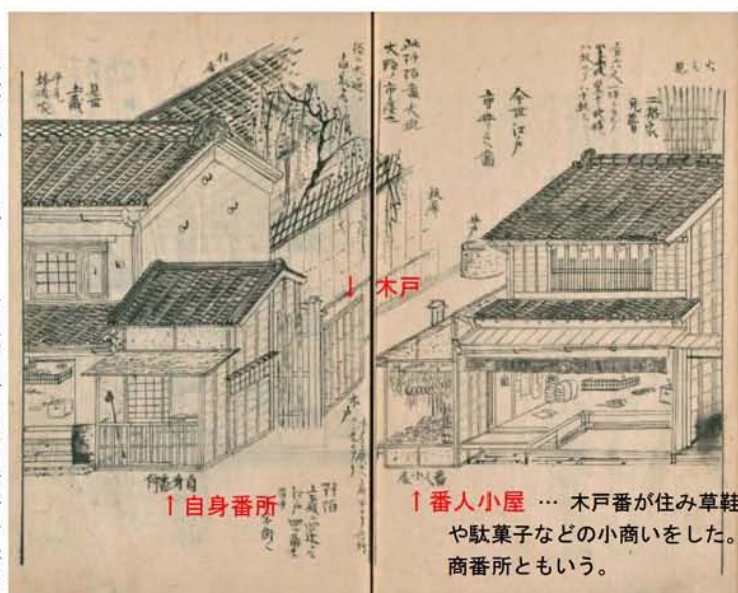
火の見櫓のある火消屋敷からの出場の様子、広重は定火消同心の出身

・妻木屋敷：妻木彦右衛門は三千四十石余の旗本。寄合衆。

・火消屋敷：赤坂御門外にあった火消屋敷。測量当時は旗本阿部隼人が定火消御役として担当し、与力六騎、同心三十人、臥煙という火消人足を従えた。

<p>町目 右ばかり一ツ木町、赤坂町代地。右元切。是方御堀端。出。左御堀添。右人家続。</p>	<p>一町目 右ばかり一ツ木町、赤坂町代地。右元切。是より御堀端に出る。昼休自身番所。右人家続。</p>	<p>表伝馬町一町目。田町一丁目。同二丁目。右横町。右二丁目。右成満寺。同三丁目。</p>	<p>表伝馬町一町目。田町一丁目。同二丁目。右横町。右二丁目。右成満寺。同三丁目。</p>	<p>右横町。同四丁目。右横町。同五丁目。木戸。是より芝御掃除屋鋪。右黒田中屋鋪。右町屋続。溜池。</p>	<p>右横町。同四丁目。右横町。同五丁目。木戸。是より芝御掃除屋鋪。右黒田中屋鋪。右町屋続。溜池。</p>	<p>端芝永井町代地。芝清冷寺門前代地。右黒田表門前。右清冷寺門前代地の限。小屋鋪と成る。右横町。</p>	<p>端芝永井町代地。芝清冷寺門前代地。右黒田表門前。右清冷寺門前代地の限。小屋鋪と成る。右横町。</p>	<p>右松平日向守屋鋪。右山口屋鋪。宇板板。左道端に。右鍋島屋敷辻番所。左土岐鞠負屋鋪。右水野屋鋪。葵坂。</p>	<p>右松平日向守屋鋪。右山口屋鋪。宇板板。左道端に。右鍋島屋敷辻番所。左土岐鞠負屋鋪。右水野屋鋪。葵坂。</p>
---	--	---	---	---	---	---	---	---	---

・昼休自身番所：武家地の辻番所に対し、町方が負担する町人地の自警のための番所。『赤坂町方書上』によると、表伝馬町一丁目の自身番屋（番所）は町内東の方の明地際にあり、間口五間、奥行二間半、十二坪半の広さである。間口四間、奥行九尺の髪結床番屋が隣接していた。近隣の自身番所は一〇九坪程度で、表伝馬町一丁目が最も広い。測量隊が昼食を取った自身番所であろう。



・表伝馬町と田町：南伝馬町の高野新右衛門らは伝馬役として幕府公用の人足・伝馬の継ぎ立てや先触れを負担していた。その褒賞として、赤坂門外の明地に一括して土地が与えられ、表伝馬町・裏伝馬町・田町が成立した。

図10 『守貞謄稿』巻3に加筆

- ・溜池：『新修港区史』によると、大名浅野幸長が家康の求めで堰堤を築き人工湖「溜池」を造成した。江戸城外堀の一環であるとともに、玉川上水開通以前には給水ダムでもあった。また鯉・鮒を放し蓮を植えて風光明媚となり、浮世絵などに描かれる名所になった。堰堤完成の印に榎を植えたことから、榎坂という坂名が生まれた。明治時代に堰堤を僅か除却しただけで陸化したという。
- ・芝御掃除屋鋪、芝永井町代地、芝清冷寺門前代地：『赤坂町方書上』によると、芝にあった御掃除屋鋪（増上寺の將軍家御靈屋の御掃除頭に与えられた拝領町家）、永井町、清冷寺（青龍寺の誤記）門前町の三ヶ町は、文化八年の大火をきっかけに、増上寺の防火のための火除地とされ、代地として溜池端の地が与えられた。それまでは図11のように桐を植えた畑地で、里俗で桐畑と呼ばれていた。
- ・黒田中屋鋪：筑前福岡藩黒田（松平）備前守齊清の中屋敷。
- ・松平日向守屋鋪：越後糸魚川藩松平日向守直益の上屋敷。三千五百二十二坪。大坂加番。
- ・土岐鞠負屋鋪：三千俵の旗本。寄合衆。



図11 広重 名所江戸百景 赤坂桐畑



図12 伊能忠敬 江戸実測図(南)に加筆

- ・山口屋鋪：常陸牛久藩山口周防守弘致の上屋敷。四千八百九十一坪。大御番頭。
- ・鍋島屋鋪：肥前佐賀藩鍋島（松平）肥前守齊直の中屋敷。六千九百七十五坪。
- ・水野屋鋪：肥前唐津藩水野和泉守忠邦の下屋敷。千五百九十九坪。
- ・葵坂：『御府内備考』によると、坂上の辻番所に立葵が多く植えられていたことによる。坂の上を葵が岡ともいう。図13の中央が溜池の堰堤、左側の堀に沿った坂が葵坂、下には金毘羅大権現の幟が描かれている。



図13 広重 江戸名勝図會 虎の門

【図版の出典】

- ・『日記』の図版は香取市立伊能忠敬記念館に架蔵されている写真帳による。
- ・図1、2、4、5、9、10、11、13は国会図書館デジタルコレクションによる。
- ・『江戸実測図(南)』は国土地理院ウェブサイト上の古地図コレクションによる。

【追加参考文献】

- ・『寛政重修諸家譜』（寛政十一年〜文化九年）
- ・『諸向地面取調書』（安政三年）
- ・『御府内往還其外沿革図書』『御府内場末往還其外沿革図書』（文化四年〜安政五年）
- ・『守貞謄稿』（天保八年）

【追加参考文献】

- ・『新修港区史』（一九七九）
- ・『港区史』（一九六〇）
- ・『赤坂区史』（一九四二）
- ・『芝区誌』（一九三八）

天草の御用測量と痢病騒ぎ

平田 稔

本誌第九十一号巻頭の「伊能忠敬の未公開書簡(二)」で前田幸子氏が、享和三年(一八〇三)年五月、「測量隊は麻疹(はしか)の流行で難儀した」旨を寄稿されていて、興味深く読んだ。それより七年後の文化七(一八一〇)年、天領天草(現熊本県)を測量中に、痢病(注1)騒ぎの村が測量コースに含まれることから、地元(注2)の庄屋が「危険だから立ち寄らないでください」と注進に及んだ文書がある。新型コロナウイルスによる感染症が世界を震撼させてきた今年、伊能測量隊を巻き込んだ「痢病騒動」のいきさつと結末を紹介する。

一、庄屋から大庄屋宛に「注進」

(前略)

一 未刻頃ニ阿村方飛船到来 樋島方附添上田源作大谷小十郎方伊能様御手合御測量方懸合之書状持参 左之通

一(略)

一(略)

一 浦村痢病流行 頃日小松氏子息死去 外二西三人子共煩ひ付 彦右衛門殿ニも同病之様子ニ御座候 村方二而廿八人 此頃間も無く病死有之趣相聞候間 横切被遊候ハ、御立寄無之様御積被成 直ニ御乗船御所浦江御渡海ニ相成候様有之度 御代官ニも被仰 浦江ハ御宿手当ニ不及中段被仰遣候

然所内野河内方姫浦江横切被遊候御様子申来 道造り致候趣被申出候付 右村方御所浦江御渡海ニ相成候御積ニ御座候哉 何れ無間違様御取斗置可被下候 先ハ右之段為可得御意 如此御座候 以上
十月廿七日夜

大谷小十郎
上田源作吉田長平様
酒井平太兵衛様
橋口嘉左衛門様
右之通申参候

右は「文化七年 上田宜珍日記」の「付録」の一部である(注3)。(傍点は筆者)

この書簡は御用測量に樋島(現上天草市龍ヶ岳町)から付き添った上田源作(高浜村庄屋)と大谷小十郎(町山口村庄屋)の連名で、天草の吉田長平(大矢野組)ら三人の大庄屋宛に、「痢病が流行している浦村には決して立ち寄らないように、測量方の御一行に掛け合っていたきたい」と差し出した内容である。意味は左の通り。

天草(当時は天領。今は熊本県上天草市・天草市)の浦村(現上天草市倉岳町浦)で痢病が流行しております。先日は小松氏の子が亡くなりましたし、ほかに三人の子供が病にかかっています。どうやら浦村庄屋の彦右衛門殿も痢病のようです。島内では二十八人が、この頃あつという間に死んだとか漏れ聞いています。(楠浦村から浦村まで)横切測量される際には、浦

村にお立ち寄りにならないお積りで、直ちに乗船して御所浦島(離島。上天草市御所浦町)へ渡られますように、お代官にも申し上げて下さい。浦村では御宿の手配は必要ないとお伝えください。

そのような中、内野河内(上天草市松島町)から姫浦(同市姫戸町)へ横切測量をなさるようなので道造りをしたいとの申し出がありました。右村(姫浦)から御所浦島へ渡海されるおつもりでしょうか。どちらにしてもお間違いないようにお取り計らいくださいますように。まずは右の段、お耳に入れたく(書を差し上げます)。

十月二十七日夜

大谷小十郎・上田源作

吉田長平・酒井平太兵衛・橋口嘉左衛門様

二、直前の天草測量

本題に入る前に、直前の天草御用測量の流れを紹介する。以下に転用するのは、本誌連載「伊能忠敬測量隊の足跡をたどる」の第十六回(二〇一七年 第八十一号)で、この疫病騒動時の天草測量(文化七年十月十一月)を、日別と本隊・支隊別に一覧表形式で紹介している。関係部分を抜き出す。(二部、『測量日記』より補足。傍点は筆者)

【本隊】

十月二十二日 宮田村字落人鼻より浦村字中浦を歴て棚底村字亀石鼻迄測る(棚底村泊)
十月二十三日 同所逗留測。棚底村字亀石鼻より初、字鳴川(疱瘡人、此海辺に居るに付、

海・際・の・山・上・を・測・、字セブ浦に至り、**瀬**印を残。(同泊)

十月二十四日 棚底村字袋口より松ヶ崎片側測る。大道村字千石浦より字赤崎を歴て字桂崎迄測る。横島一周測る(大道村字葛崎泊)

十月二十五日 同所逗留測。楠盛島、瓢箪島、荻島一周測る(同泊)

十月二十六日 大道村字葛崎より高戸本村を歴て字亀石崎迄測る。樋島に渡る(樋島村泊)

十月二十七日 同所逗留測。樋島村止宿前より右山に添、字平岩迄測る(同泊)

十月二十八日 同所逗留測。樋島村止宿前より左山に添、字平岩迄測る。竹島一周測る。恒星測定(同泊)

十月二十九日 捫門一周測る。高戸村字亀石崎より字古神代迄測る(二間戸村泊)

十月三十日 高戸村字古神代より姫浦村字本釜迄測る(姫浦村泊)

十一月一日 同所逗留測。姫浦村字本釜より姫浦村阿村界迄測る(姫浦村泊)

(以下、中略)

十一月六日 合津村字観音平より字樋蔵引迄測る。楠浦村高札前より字登屋迄測る(楠浦村泊)

これを見ると、天草下島の測量を終えて上島測量を開始した伊能忠敬本隊は、上島の南岸を測量し、十月二十二日、浦村字中浦まで測っている。上田源作らから注意書きが大庄屋に届いたのは十月二十八日かと思われるので、この時点では浦村で痢病が発生していたのかどうか定かではない。

樋島測量後は、海岸沿いに北上を続け、高戸、二間戸、姫浦を経由し、上島の北岸に出て、阿村、合津村(同松島町)を経て楠浦村に至った。

他方、支隊(坂部貞兵衛組)はさらに北の大矢野島(同大矢野町)から測量を始め、近くの樋合島を測ったあと南下して、十一月四日、合津村で伊能隊に合流した。『伊能忠敬測量日記』に「十一月四日 七つ半後合津村へ着。止宿向陽軒。両手一同に成る(両方の組が合流した)」と明記されている。

このあと五日、六日は再度二手に分かれた。伊能本隊は、楠浦村、教良木村を測りながら山間部を横切測量し、南側の海岸に出て、そこから次の御所浦島に船で向かった。この途中で、痢病騒動の浦村を通過している。それを記すのが十一月七日の日記である。

三、『伊能忠敬測量日記』の記述

上田源作らの「ご注進」は受け入れられたのだろうか。ここでは、『測量日記』の原文を活字化した「伊能忠敬測量日記 解説」(DVD InoPedia)から引用する。(傍点は筆者)

十一月七日 朝晴曇。後手我等、上田、箱田、長蔵、六ツ頃楠浦村出立。昨日測留、同村字登尾より初(略)、字峯、それより教良木村字野ノ川、字小路、先手初**小**印迄測(距離略)。それより字大平、字黒ニタ、草積峠(村界、外に同名あり)、浦村字中原、字ナキリ、字松尾(頭百姓源太方にて中食)、字原、十月二十二日残印に繋(距離略)、仕越共楠浦

村より浦村迄二里二十九町一間四尺(則、横切測三里四十間四尺)。それより乗船五ヶ所浦(*御所浦の誤記)へハツ半頃に着。

先手の坂部隊は教良木、内野河内を経て姫浦村の海岸まで測量し、十月三十日に姫浦村に残した印に繋いで横切測量を終えた。そこから乗船して、八ツ頃御所浦村に着いたことが『測量日記』に記してある。上田源作らが造らせた道が役に立ったのである。

問題の浦村(現倉岳町浦)を通過したのは後手である伊能隊の一行で、村内の頭百姓方で中食をとっている。これを読む限り「痢病蔓延中の村に立ち寄らないでください」という上田源作らのご注進よりは、横切測量の重要性が勝っていたようだ。しかし、浦村字松尾での中食には、双方ともに十分な注意を払ったであろう。ともかくも、十月二十二日に浦村の海岸に残した印に繋いで、横切測量を終えた。坂部隊、伊能隊ともに、この日は上島を横切測量して、地図の精度を高める数値を得たのだった。

ところで、前日(十一月六日)の『測量日記』に、伊能一行が昼の測量を終えて楠浦村に止宿したとき、宿に「旧庄屋高木七左衛門、大矢野吉田長平兼帯」が挨拶に来たという記述がある。吉田長平は上田源作が「測量隊によくお伝えください」と頼んだ三人の大庄屋の一人である。だから源作の注進文が事前に吉田から伊能隊に伝わったのは間違いない。この記事はさらに、「村庄屋彦右衛門は痢病にかかったよう」なので、代わりに「旧庄屋高木某」が挨拶に宿に来た、と読み取れるのではないだろうか。

四、痢病が測量隊にも広がった

では、この痢病ははたして測量隊一行には影響（病気や災い）を与えなかったのだろうか。間違いないと与えたのである。それを引き続き「御測量方御巡廻日記」のうち「坂部組附廻日記」から紹介する。

「十一ノ二日」に次のようにある。坂部貞兵衛の問い合わせに答えるための上田源作からの返書で、吉田長平（大矢野組大庄屋）宛。（傍点は筆者）

（前略）

一 下河辺様 先月廿九日二間戸御泊江御出かけ方御痛被遊御風邪之御様子ニ御座候処晦日姫浦江御泊方痢病之御様子ニ而今以御全快ニ相成不申御薬用御座候趣 尤医師高戸元陸と申仁付添居（以下略）

一 藤田氏も下シ腹ニ而今日当村方引取ニ御座候 大谷氏無拠用向ニ而樋島方引取 只今ニ而ハ私一人御附添罷在申候 尤宮田を大谷替リニ仕居候へ共 砥岐組同役病人多有之 御附廻之勤方出来不申 殊ニ下河辺様御宿ニも庄屋壺人宛ハ詰切ニ仕 弥以私底ニ御座候 御察可被下候

一 御所浦庄屋大病之由…（以下略） 已上
十一月二日夜 上田源作阿村方

吉田長平様

現代語訳は次の通り。（ ）は筆者補記。

一 下河辺（政五郎）様は先月（十月）二十九日、二間戸（ふたまど。地名）に泊ま

りに出かけられた時から体調不良で、どうも風邪のご様子だったと、晦日（十月三十日）に姫浦に宿泊されてから痢病のご様子で、いまだに回復されておらず、薬を用いられているようです。ただ、高戸元陸という医者が付き添っておりますので…

一 藤田氏（左中太。砥岐組大庄屋）も下し腹（下痢）で今日から当村を引き揚げられました。大谷氏（町山口村庄屋）もよん所ない用向きで樋島から引きあげましたので、只今は私（高浜村庄屋上田源作）一人が伊能測量隊に付き添っている状況です。大谷の代わりに宮田（所属不明）が当てられていますが、砥岐組の同役（庄屋）には病人が多く、付け廻りの勤めができず、とくに下河辺様の宿には庄屋一人が付き廻りになってしまっていて、いよいよもって付け廻り人が底をついています。どうかお察しくださいますよう。

一 御所浦庄屋も大病とのことでした…

こうしてみると、浦村一帯を測量したり近づいたりした一行と、付け廻り役の大庄屋、庄屋のなかには、「痢病」した者が多かったことが分かる。下河辺に関しては、「坂部組附廻日記」の「十一ノ五日」にも次のようにある。（傍点は筆者）

下河辺様、九月廿九日方痢病ニ而御休被遊候由、付添中方咄 今ニ御全快無御座

（測量隊の大御所の一人である）下河辺様は

「痢病」して仕事を休んでおられる、と付添たちから聞く。今以て（十一月五日時点）全快していない、というのである。ただ「九月廿九日方」は「十月廿九日方」の間違い。二つの「附廻日記」には、十月二十六日までほぼ連日「下河辺様 御宿…」と記されていて、測量にあたっている。「十ノ晦日」の日記に「下河辺様御痛みニ付御引籠被成候」と出ている。

そして「十一ノ十二日」に「下河辺政五郎様永井要助様御同船ニ而」とあって、この日、伊能忠敬と一緒に船で肥後佐敷へ渡海、丑刻頃佐敷へ着船している。下河辺もなんとか氣力を保ったのである。

忠敬自身は持病持ちの高齢者であり、若い隊員たちも日々の過酷な測量作業に疲弊している。そんな中での「痢病騒動」にはかなり氣を遣っただろうが、残念ながら全員が無事だったわけではなかった。いつもは測量行程が淡々と記録されている『伊能忠敬測量日記』だが、さすがにこのときは次のように明記している。（傍点は筆者）

十月二十九日 朝曇晴。六ツ後樋島村出立。
（中略）ハツ後に二間戸村着。本陣 庄屋 田中久右衛門。下河辺（二十八日より病氣）宿 儀右衛門。此夜曇天、不測。

『測量日記』を追っていくと、忠敬が現代の感染症にも通じるある対策を取っていたことが分かる。それは、感染者の隔離である。「痢病のご様子」だった下河辺は、約二週間、測量隊と同じ村内の別宿にひとり宿泊させられた。

そのお陰か、二百十年前の天草測量では御用測量隊一行に死者が出なかった。今はただ、そのことに、ひそかに胸をなでおろすだけである。

月 日	忠敬の宿所	下河辺の宿所
十月二十九日	庄屋田中久右衛門	儀右衛門
十月三十、十一月一日	庄屋浦本十左衛門	十右衛門
十一月二日、三日	年寄治左衛門	武平治
十一月四日、五日	岡部弥十郎	伝吉
十一月六日	庄屋植村嘉左衛門	(記載なし)
十一月七日、十一日	庄屋福島丹治	庄屋後見勝太夫

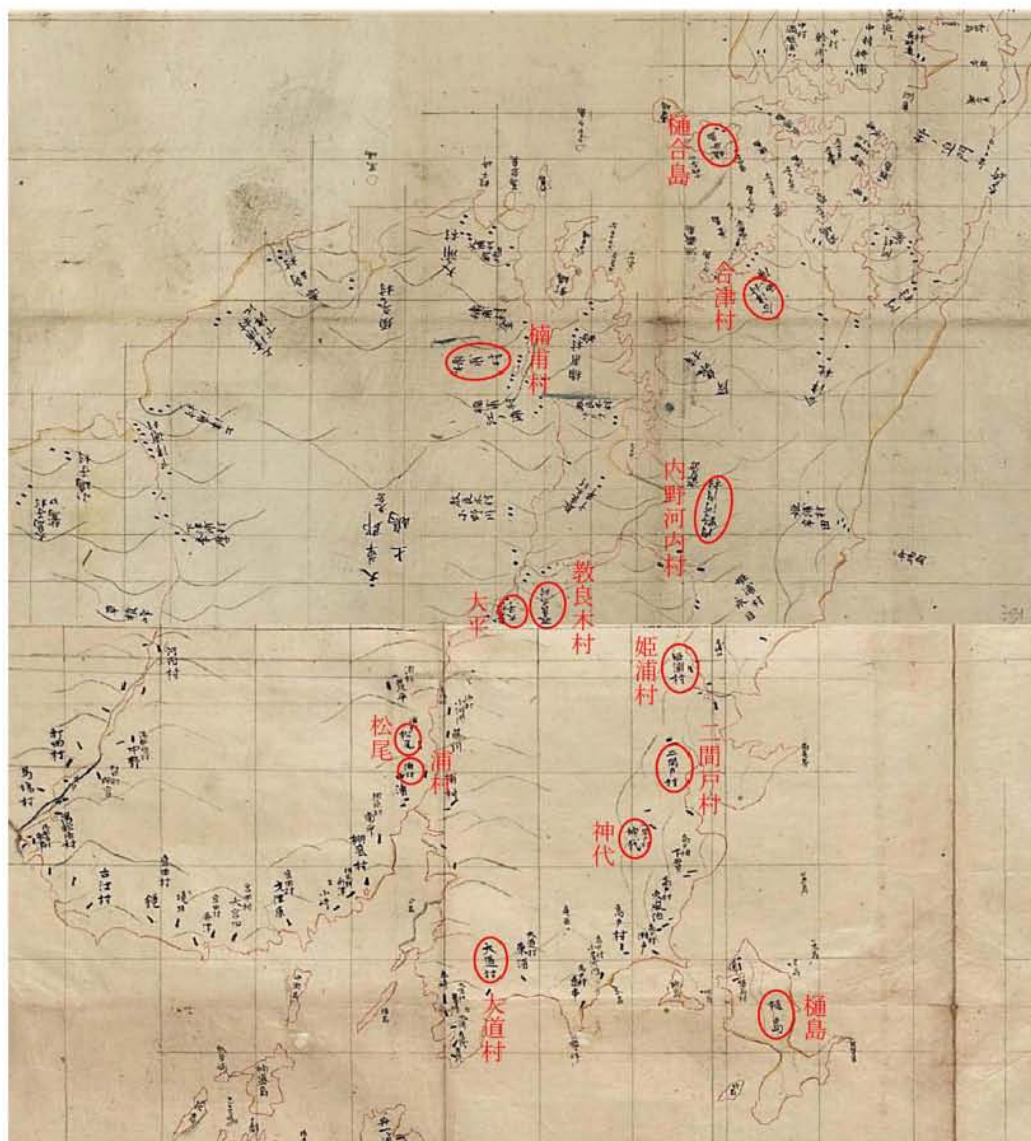
(注1)「痢病」とは、激しい腹痛と下痢を伴う伝染病で、赤痢、疫痢の古称。赤痢菌は明治三十(一八九七)年、志賀潔によって発見された。疫痢は三歳から六歳ぐらいの小児にみられる細菌性赤痢の一病型である。二十八人が亡くなった浦村の「痢病」とは、いわゆる「赤痢」だったのだろう。

(注2)翻刻(釈文)は天草の歴史研究家平田正範氏による。天草高浜の上田家に残る上田宜珍の膨大な日記を十年余をかけて読み解き、これを天草町教育委員会が全二十冊の活字本にした。「文化七年 上田宜珍日記」は、御用測量に宜珍自身が従事した別冊記録「天草郡中 御測量方御巡廻日記 午九月より十一月迄」を「付録」としている。この付録の文化七年(一八一〇)十月の釈文が冒頭の文である。

正範氏は釈文作業中に病魔に襲われ、上田資料を病室に持ち込んで完成させ、平成九年に七十八歳で亡くなった。

【参考文献】

平田正範編著『天草郡高濱村庄屋 上田宜珍日記 文化七年』(一九九〇年 天草町教育委員会)
平田稔編著『御用測量・熊本県資料集』(二〇一八年 たまきな出版舎)



天草上島 (米国議会図書館蔵 伊能大図「島原」、「人吉」)

監修 渡辺一郎

編著 井上辰男

【第八次測量】 平戸、壱岐、対馬 自 文化10年2月18日 至 文化10年3月28日 (九州第二次)

宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
--------	------	-----	--------	-----	---------	------

文化10年2月(1813)

19			18 *	
(21)	昼休	小休	【支隊】	(20)
御厨浦	星鹿浦字浜崎	星鹿浦字北浦	釜田浦	御厨浦
同 松浦市	同 松浦市	同 松浦市	同 平戸市	長崎県 松浦市
本陣谷川七左衛門 勝山佐助 高島吉太郎	平兵衛	浦役山口字三郎	酒屋篠崎尚右衛門	本陣谷川七左衛門 高島吉太郎
<p>【本隊】逗留測。御厨浦山印より沿海逆測、星鹿村、枝下田、河原辺田浦、星鹿浦、字北浦を歴て山越横切向海辺字力ヲチケ浦迄測る。又字北浦より城山を回り、字小網代幟に繋、城山鼻を歴て字力ヲチケ浦に繋、字浜崎、字地崎、枝下田、枝牟田字女瀬崎を歴て字殿本にて順逆合測繋終る。</p> <p>【支隊】田平本村里村字成川より西田川小流村界、御厨村枝大崎内、字上大崎迄。此より小島へ渡り一周。字上大崎より、横ウス鼻幟に繋、字下大崎、立尾川尻、字西宮、字池田。此より八幡崎の間を横切、又字池田より八幡山を回て横切に繋、星賀村字殿本にて沿海終る。又字西ノ宮より御厨浦へ横切、本村里村字前田、御厨浦本道へ出、此街道を重測して御厨浦海辺制札前に繋。恒星測定</p>			<p>上亀村追分より御厨道測、枝下亀、枝小崎、御厨村枝西木場、枝大崎、枝下大崎、字前田を歴て字中野、志佐村御厨浦追分迄測る。それより御厨浦道を測、字池田、御厨浦海辺へ出、此より沿海逆測。止宿測所を歴て沿海打止山印を残、山測に打上。恒星測定</p> <p>日野浦人家入口より釜田浦へ横切、測所、枝弥勒寺谷、田平村釜田浦、平川尻に至て海辺へ出、此より字初崎に繋逆測終る。それより横島へ渡、一周測。又地方平川尻より沿海順測、田平本村里村竹崎鼻幟に繋、字福崎、長戸鼻、字成川浜、打止終る。</p>	
一八九	一八九	一八九	二〇四	一八九

宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
25 *	(27)	同 阿翁浦	同 松浦市	本陣近藤市兵衛 沢部福左衛門 高崎吉五郎	逗留測。【坂部他四名】御厨浦制札前より順測、本村里村字神原、悪太郎川尻を歴て志佐村本村字白浜、逆網鼻迄。此より松崎島へ渡一周測。外に長子島、ホゲ島、柄子島、長島瀬、干切島遠測。又逆網鼻より干切鼻、瀬崎、エビス島、志佐新田塩浜石垣にて打止。外に長崎島、恵美須島一周測。【永井他三名】島々測。星鹿村持、青島、松島、イツ島、ヲゴ島一周測。それより乗船帰宿。恒星測定	一八九
24 *	(26)	鷹島 殿浦	同 松浦市	吉三郎 長十郎 彦治郎	逗留測。阿翁浦字橋積浦より右山に測、阿翁浦測所、字要ヶ浦、字堂代浦、字白波石(婆)崎(又曰阿翁崎)、ウゲヤ崎鼻を歴て字浜ノ浦に繋。それより字高良崎を歴て字日々崎幟に繋、日々浦にて沿海打止。それより乗船帰宿。	一八九
23 *	(25)	同	同	同	逗留測。阿翁浦字橋積浦より左山に測、字里、字三代浦、枝原村字坪水鼻、字大鞍石を歴て殿ノ浦字船人津にて沿海打止。それより乗船帰宿。	一八九
22 *	(24)	同	同	同	逗留測。阿翁浦字橋積浦より右山に測、阿翁浦測所、字要ヶ浦、字堂代浦、字白波石(婆)崎(又曰阿翁崎)、ウゲヤ崎鼻を歴て字浜ノ浦に繋。それより字高良崎を歴て字日々崎幟に繋、日々浦にて沿海打止。	一八九
21 *	(23)	鷹島 阿翁浦	同 松浦市	本陣近藤市兵衛 沢部福左衛門 高崎吉五郎	鷹島属黒島を測。字ヒン崎幟より、字一ツ瀬、字赤瀬、初の幟に繋終る。それより鷹島属小島を測。大小島、浜小島、松島、所島、仏島、竹ノ子島一周測。又鷹島阿翁浦字橋積浦より山越横切向海辺、字浜ノ浦迄測る。恒星測定	一八九
20	(22)	同	同	同	逗留測。【坂部他四名】御厨浦制札前より順測、本村里村字神原、悪太郎川尻を歴て志佐村本村字白浜、逆網鼻迄。此より松崎島へ渡一周測。外に長子島、ホゲ島、柄子島、長島瀬、干切島遠測。又逆網鼻より干切鼻、瀬崎、エビス島、志佐新田塩浜石垣にて打止。外に長崎島、恵美須島一周測。【永井他三名】島々測。星鹿村持、青島、松島、イツ島、ヲゴ島一周測。それより乗船帰宿。恒星測定	一八九

- 53 -

宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
2 8	(30) 坂部	福島 鷹島 鍋串浦 阿翁浦	同 松浦市	庄屋吉本字八郎 忠右衛門	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九
2 7	(29)	同	同	同	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九
2 6	(28)	同	同	同	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九
2 5	(27)	福島 塩浜浦	同 松浦市	一向宗恵日山尊光寺	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九
2 4	(26)	福島 鍋ノ串浦	同 松浦市	庄屋吉本字八 瓦田吉左衛門	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九
2 3	(25)	同	同	同	福島内立崎嶺より昨日横切に繋、横島鼻、字喜内瀬を歴て牧山下迄沿海測る。此より満切の坊ヶ崎へ渡、中ノ坊、東ノ坊、西ノ坊一周測。地方牧山下より女印迄沿海、此より島々へ渡、ゴゼ石島、牛島、野島、ヘゴ島一周測。地方女印よりイ印迄沿海。此より又満切白岳崎を回る。地方イ印より字白岳下にて沿海終る。	一八九

【本隊】						文化10年3月(1813)	
宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号	
29	(31)	鷹島 阿翁浦	同 松浦市	忠右衛門 安兵衛 高崎吉五郎	福島字白岳下より田印迄沿海、此より裏海字イシウゴ浦へ横切、又田印より字ブツテイ鼻にて両手合測。外に白岳島、十郎島一周測。それより乗船。	一八九	
1	(41)	鷹島 阿翁浦	長崎県松浦市	本陣近藤市兵衛 忠右衛門 安兵衛 沢部福左衛門 高崎吉五郎	乗船、杓州へ向。北風強漕渡不相成、阿翁浦へ帰宿。	一八九	
2	(2)	同	同	同	北風出船ならず逗留。平戸より午後に御用状届。	一八九	
3	(3)	大島 神ノ浦	同 平戸市	本陣浄土宗無量山西福寺 谷川屋惣右衛門 神田屋治右衛門	杓州渡海ならず、同領大島へ向。	二〇四	
4	(4)	同	同	同	逗留測。【今泉他三名】大島神ノ浦止宿測所より同門前へ印を残、神ノ浦字本町、同小浜町、字札場に繋ぎ、此より沿海左山測、字ツツノ下鼻此より横切向海辺へ出る。又字ツツノ下鼻より字馬籠崎を回、横切に繋、後ノ浦入江奥、字鰐口浦沿海打止。山越横切、大島村枝西字戸、字板ノ窪、止宿前に繋終る。 【永井他三名】神ノ浦本町字札場より右山に測、西町、小倉町、水ノ浦鼻、平瀬鼻、此より満切大子島へ渡り一周測。又平瀬鼻より大浦入江、トウジ浦入江、カヒツキ浦城ノ下鼻、エビス鼻、的山浦、板ノ浦鼻、曲崎迄測る。又曲崎嶺に片測繋ぐ。恒星測定	二〇四	

宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
5	(5)	同	同	同	逗留測。【今泉他三名】後ノ浦字鰐口より左山沿海測、枝西宇戸、枝大根坂を歴て、土手山越横切、向海辺へ出。又枝大根坂より長崎鼻を回り横切に繋ぎ、又イ印迄沿海を測る。此より横切、向海辺へ横印を残。イ印より小鼻を回り横印に繋、内瀬鼻片打、(笠ヶ岳の頂に登、対州の山を測。海岸絶壁に付山上を測る)、字笠ノ内にて順逆両手合測。【坂部他四名】大島枝的山内曲崎より戸田浜、黒崎、(馬ノ頭鼻片測幟に繋)、堀切鼻を歴て字笠ノ内にて順逆両手合測、大島一周終る。	二〇四
6	(6)	大島 神ノ浦	同 平戸市	本陣浄土宗無量山西福寺 谷川屋惣右衛門 神田屋治右衛門	逗留測。【坂部他四名】大島属度島測。荒崎鼻幟より左山沿海測、字中小石浦迄沿海測る。此より裏海、字伊牟田浦へ横切、又字中小石浦より初、観音崎字小松崎、波石(簪)崎、曲崎、度島浦人家前、字小河にて両手合測。又度島属横島を測。北鼻幟より左山に南鼻幟迄測る。【今泉他三名】乗船。度島荒崎鼻幟より左山沿海測、字京崎、崎瀬鼻満切渡口を歴て崎瀬へ渡り崎瀬鼻一周測。又崎瀬鼻渡口より沿海測、字崎瀬、字飯盛、丸島渡口を歴て丸島へ渡り一周測。又丸島渡口より字神島崎、字伊牟田、別手中小石浦より横切に繋。それより度島浦人家前、字小河にて両手合測。それより横島を測。北鼻幟より手分右山に測、南鼻幟繋ぎ両手合測。	二〇四
7	(7)	同	同	同	厓州渡海ならず同所逗留。	二〇四
8	(8)	同	同	同	厓州渡海ならず同所逗留。	二〇四
9	(9)	同	同	同	厓州渡海ならず同所逗留。	二〇四

【本隊】
文化10年3月（1813）

14				宿泊日・旧暦
(西暦)	現・市町村名	宿泊地	(跡手) 昼休	14
14	武生水村郷ノ浦	湯岡本村里	物部村枝田中触	武生水村郷ノ浦
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同

16 ＊			15					宿泊日・旧暦
(16)	【永井他三名】昼休共	【永井他三名】小休	(15)	【今泉他三名】昼休	(15)	【坂部他四名】昼休	【坂部他四名】小休	(西暦)
武生水村郷ノ浦	渡良浦	渡良村字船越	武生水村郷ノ浦	津甫村字坪浦	武生水村郷ノ浦	志原村岳ノ辻	志原村字平日	宿泊地
同	同	同	同	同	同	同	同	現・市町村名
本陣豊永市右衛門 浦目付種田虎吉	曹洞宗寿量山西福寺	野田新五兵衛	本陣豊永市右衛門 禅宗江釣院 浦目付種田虎吉	虎平	本陣豊永市右衛門 禅宗江釣院 浦目付種田虎吉	岳ノ辻遠見番所	大国玉神社拝殿	宿泊宅
【伊能】残居、午中を測。 【尾形他一名】小半分にて島々を測。春 島、ツクエ島、平島一周測。	測。此より瀬続満切、嫦娥島一周測。		【今泉他三名】郷ノ浦字本町より左山沿海測、トトブチ川、武生水村字菜切、鎌崎、神崎、坪村（又津甫村）、細崎迄測る。此より細崎を回り一周測。細崎より干場鼻、字小形、小形鼻、坪タキ鼻、字坪浦、字梅津、初山村、字ノコ崎、ノコ鼻、字モグサリ、モグサリ鼻幟に打止。			【坂部他四名】郷ノ辻右の天水に繋ぐ。又遠見所より岳ノ辻右の天水に繋ぐ。		特記・天体観測
一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	大図番号

宿泊日・旧暦				(西暦)		宿泊地		現・市町村名		宿泊宅		特記・天体観測		大図番号	
1 8 ＊				(1 7)		同		同		同		風雨終日。永井他三名、此夜木星測に付同所へ帰宿。		一九一	
(1 8)				【永井他三名】 小休		渡良村字幸瀬浦		同		山内字平太		逗留測。【永井他三名】乗船、渡良村嫦娥島渡口より沿海測、字若ノ鼻嶺に繋、字神ノ崎、左に大瀬、小島、高瀬各周一町計宛。字マカセノ浦、字カミツラ鼻、字小島、字小浜浦、字塩垂浦、字女瀬鼻、字柏浦、字牧谷、字馬籠谷(牧場なり)、字奈良崎、字牧崎、字萩ノ崎、左に折柱瀬・カモテメ瀬あり、字幸瀬浦、字板屋浦、字小久保浦、字呼子崎、字唐船鼻、字シナギ浦、字桜郷、字塩津浦、字野島鼻、枝麦屋触字東浦に繋。字神ノ木、字神木新田、字中ノ浦、武生水村字葛ノ浦にて打止。		一九一	
武生水村郷ノ浦				渡良村字小島		同		老岐市		長岡角右衛門		【尾形他一名】小手分にて長島を測。字真浜嶺より字仏崎、字錦江ノ本を歴て長島一周測。同島属黒瀬、大島属前小島一周測。渡良村属大島字坪井崎嶺より字大泊、字小崎、字黒鑑子、字宮ノ浦、字平簪、字珊瑚鼻、字前田浦、字蟹ノ甲、字小田尻、字鯨倉鼻を歴て大島一周測。外に大島より後小島へ渡り一周測。		一九一	
同				同		同		老岐市		同					

19 ＊				宿泊日・旧暦
(19)	【尾形他一名】 小休	(19)		(西暦)
湯本浦	半城村字牛方	黒崎村		宿泊地
同 老岐市	同 老岐市	同 老岐市		現・市町村名
本陣長谷川喜作	庄屋米村茂助	吉沢茂兵衛 山川清兵衛		宿泊宅
<p>【伊能】武生水村より乗船湯ノ本浦泊。 【尾形他一名】武生水村字太平、勝本・黒崎街道追分より黒崎街道を測、字草木坂、字大屋、物部村字大屋、半城村字牛方を歴て海辺大浦新田へ向て横切、字大谷、字頼母、字長坂、字塩津を歴て字大浦新田に至り終る。又字牛方より字犬塚、字上坂、長峯村触山口、字二重ノ辻、本村触、字久保、字広畑、長峯本村、字丸尾辻、黒崎村、字横内、字小牧、字立長、字小坂を歴て字牧屋敷に至り黒崎街道打止、即本手横切に繋ぐ。それより乗船。</p>				特記・天体観測
一九一	一九一	一九一		大図番号

宿泊日・旧暦		(西暦)		宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
21 *		20 *						
(21)		【永井他三名】昼休		黒崎村字徳目	同 老岐市	浦川政五郎	<p>【永井他三名】黒崎村字西ノ浜より沿海測、字浦谷、阿母崎岬、黒崎鼻横片測、唐船鼻片打、字竹ノ浦、赤島渡口、字カラウト新田、字カノウト崎、字ヨシガ元、字小下、字石方浦、字カブノウ瀬鼻、字雨ヶ坂、字徳目に繋ぐ。それより老岐郡長嶺村字苅田院新田、刈田院浦、綿打川尻堤底に樋有、立石村字振矢崎、字松崎、字石呂崎、字シワキツノ浜、字井崎鼻、湯本浦迄測り、測所打上。右に温泉湯壺あり。又湯本浦より湯ノ浦、新田堤へ出沿海打止。此より郷ノ浦街道へ打上、字山ノ神、布気村、枝百合畑、立石村字亀石街道に出る。【尾形他一名】湯ノ浦属黒ヶ島、黒崎村属赤島、地ノアゼ島、沖ノアゼ島各一周測。</p>	
勝本浦		湯本浦			同 老岐市	本陣長谷川喜作 長谷川勇吉		
同 老岐市		同 老岐市				聖母大明神拝殿 神主吉野采女		
本陣土肥屋仁左衛門 土肥屋甚吉								
<p>湯ノ浦新田堤より沿海測、布気村、字磯田、湯ノ浦、本宮村、字若宮谷、字桶田、枝中触字裏海を歴て山越横切向海へ出る。又字裏海より鼻回、字ベボ崎、字鞍馬ヶ崎、横切に繋、字塩屋、字筒湯、字鋤崎、左に雪島、蛇島、牛島、白瀬、柱瀬各遠測、手長姫神社前を歴て手長姫神社へ打上、社前迄測る。又神社前より字棚鼻、字産屋崎(産湯崎)、勝本浦界を歴て、古跡柄杓崎と云瀬続出鼻片打(此所応神天皇御誕生の一説あり)、曲り崎迄測る。又勝本浦界より八幡社前を歴て本宮八幡宮へ打上げ社前迄測る。又八幡社前より字御手洗江、可須村(旧名香椎村)、汐入渡、曲り崎に繋、字タンス、字戸屋崎、字御棚鼻、可須村勝本浦、字馬場崎、弁天島波戸打出、右に勝本浦の鎮守聖母大明神あり、聖母町、郷ノ浦街道追分、鹿下町、黒瀬町、田中町、瀬戸道追分埋杭を残、本浦町測所にて沿海打止。右に土肥市兵衛普請隠居家あり、家作大にして宜し。今平戸侯茶屋となれり。【尾形他一名】湯ノ浦属棚ヶ島、可須村属辰島各一周測。</p>							一九一	一九一

22 *			宿泊日・旧暦
(22)	【永井他三名】昼休	【永井他三名】小休	(西暦)
勝本浦	布気村字立島	国分村西触字西原	宿泊地
同 老岐市	同 老岐市	同 老岐市	現・市町村名
本陣土肥屋仁左衛門 土肥屋甚吉	式内水神社拝殿 神主吉野数馬	式内国片主神社拝殿 神主榑原主殿	宿泊宅
逗留測。布気村字亀石より国分道を測。国分村西触字西原、鬼ヶ岩屋へ打上。字西原、式内国片主神社社前迄打上。それより当田道追分を歴て中ノ郷村、臨済宗護国山国分寺門前打止。又国分村追分より当田道を字中園、式内月読神社へ打上、社前迄測る。又石田郡・老岐郡界、住吉村字柿坂より勝本街道を測。字柿谷、左の方に禅宗竜養寺、字栗坂を歴て式内大住吉神社へ打上、社前迄測る。又字栗坂より街道を測、字ハテツ、立石村愛見神社入口を歴て式内愛見神社へ打上、社前迄測る。又神社入口より布気村字亀石、国分道追分に繋、布気村枝百合畑、字一木田、字木場ノ辻を歴て式内水ノ神社へ打上、字弥治林、字大針、字立島、社前打止。又字木場ノ辻より字掛木（右鬼ノ岩屋と云あり）、字小水、字戸板原、字白石、本宮村、新城村、可須村、枝西戸触、字ヲ口振、字大内堂、枝大久保、字勝利（左に土肥八右衛門屋敷、並家あり。高石垣にて門塀並家作宜見ゆ）、字西戸、字島神、字山坂、左に武末古城跡、勝本浦聖母町に繋終る。【尾形他一名】太陽午正測に付、午後より出立。可須村持若宮島を測。字二本松嶺より字荒崎、字油目、舟着を歴て遠見番へ打上。又字油目、舟着より字トウチロウ崎初嶺に繋終る。			特記・天体観測
一九一	一九一	一九一	大図番号

		宿泊日・旧暦	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
2 4		2 3 *					
(2 4)	小休	(2 3)					
勝本浦	新城村字城ノ辻	同					
同 老岐市	同 老岐市	同					
本陣土肥屋仁左衛門 土肥屋甚吉	庄屋山川儀平治	同					
逗留測。勝本浦田中町より瀬戸浦道を測。字十王堂坂、字岩津、字赤道、字サイゴウ、左に太神宮社、字大石、字セイトウ、字大石原、字高麗橋、字平原、左に名所引野、平川、新城村北触内字前原、字古屋敷、字井場原、国分道追分を歴て若宮大明神社前迄測る。又国分道追分より瀬戸浦道を測、字城ノ辻、街道打止。字城ノ辻より中津神社入口を歴て式内中津神社へ打上、社前迄測る。又中津神社入口より佐肆布都神社へ打上、字岩瀬、字打越、宇津田郷川、字宇津田郷、式内佐肆布都神社石祠迄測る。神躰大巖石周十二囲程、高三間計。		逗留測。勝本浦測所より沿海測、字築出、字田ノ浦（日本一と云鯨納屋有）を歴て横切向海へ出る。又字田ノ浦より字串山（鯨組船細工納屋）、字船引場（鯨舟造作の所）、字クズロキ鼻、左に年島、字細口、字当代鼻、字猿浦、見ル目ノ浦、此より横切、向海へ出る。又見ル目ノ浦、字小串山、字土器浜、字土器崎、見ル目浦横切に繋ぎ、又此れより田ノ浦より横切に繋ぐ。名所天ヶ原、字赤石、字田尻、字四間滝、新城村・箱崎村海界、瀬戸浦、字赤崎にて両手合測。【尾形他一名】太陽午正測に付午前測。可須村属名鳥島字長瀬鼻幟より字雌鳩瀬、字博多、瀬戸鼻、字名鳥鼻、字前ノ浜、字長瀬鼻幟に繋ぎ名鳥島一周終る。					一九一
一九一	一九一	一九一					

【支隊】			宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号		
3月16日	(4. 16)	昼休共	印通寺浦本町	長崎県老岐市	百崎仁兵衛 山岡清四郎	志原村字九郎島より印通寺街道測、字大原、坂本川、池田村字上池田、本村清水、字辻堂、字アゼクリを歴て字大屋、豊浦・筒城街道追分迄測る。此より豊浦道へ一支測出す。また追分より印通寺浦本町、街道・海辺追分迄測る。それより向町中を右山沿海逆測。池田村鹿山崎打止。又本町より町中を左山に沿海順測。石田村、印通寺枝浦君ヶ浦字西久保、小浦を歴て此より裏海志自岐浦へ横切、字西久保、小浦より銭亀鼻を回志自岐浦に繋ぐ。外に石田村属妻島一周測。	逗留測。石田村志自岐浜より左山沿海順測、鴨瀬鼻、錦浜、百崎、ユリ瀬鼻、筒城村字江ノ浦を歴て乙島嶺へ繋、乙島、沖小乙島測る。又両島とも砂浜続。字江ノ浦より字唐船浜、字筒城浜を歴て矢台崎と云離鼻を一周測。又字筒城浜より筒城村字宮ノ浜にて打止終る。	逗留測。初山村字藻腐鼻嶺より笠木鼻、字白牛、字塩屋、字蔵谷、鱈(うるか)崎、嶺に繋、字初瀬ノ浦入江奥を歴て、裏海へ横切。字初瀬ノ浦より小山鼻手前を歴て又裏海へ横切、小山崎を回て横切に繋。それより鏡山鼻を回り横切に繋、字黒浜、奈良江浜、トコロ瀬、志原村、析柱岩(立岩磯続)、大崎鼻、印通寺浦枝久喜浦、池田村鹿山崎に繋終る。	一九一	一九一	一九一

宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号
2 1	(21 坂部	芦辺浦 勝本浦	同	町年寄篠塚泰五郎 町年寄中村市郎右衛門 土肥屋惣左衛門	逗留測。諸吉村字瀬越よりシヤキヨウ 崎、屏風岩、長者原、八幡浦、字長浜昨 日横切に繋。箱島(遠測)、字入道、字 今里、字須下を歴て元ノ小島へ渡り一周 測。字須下より諸吉村・川北村界を歴て 此より豊浦街道の椎木川端に繋ぐ。又諸 吉村・川北村界より字下浦、深江村ツバ エ川を歴て壱岐郡・石田郡界に繋終る。	一九一
2 0	(20 中食共	芦辺浦	同 壱岐市	町年寄篠塚泰五郎 町年寄中村市郎右衛門	池田村字大屋、街道追分より豊浦街道へ 一支測出しより字踊川、壱岐郡深江村字 平山、深江村本村里、老松山安国寺、川 北村字矢坂、湯岳村字東触、字筒川四ツ 辻追分に繋。又此れより川北村本村里を 歴て、式内兵主神社へ打上。又本村里よ り諸吉村字二俣、椎木川、高御祖神社前 を歴て本村里字横田、芦辺浦迄測る。止 宿にて中食。それより仕越、此より右山 に沿海逆測、若宮鼻、瀬越浜を歴て裏海 横切字長浜迄測る。	一九一
1 9	(19	同	同	同	逗留測。筒城村字宮ノ浜より沿海順測、 筒城崎手前にて裏海へ横切。崎手前より 筒城崎を回て横切に繋、字筒城山、曲 崎、八幡浦枝、山崎浦、乙宮鼻、字タ部 を歴て、式内海神社へ打上、社前迄測 る。字タ部より石田郡筒城村、壱岐郡深 江村界にて打止。外に諸吉村(持)青 島、赤島一周測。外に伊佐島、竹子島周 遠測。沖三里計に名ナ島云あり、風波に 付遠測。白瀬、沖島、元ノ島、前島、総 名名島(差出帳面を記)。	一九一

【本隊】				宿泊日・旧暦	(西暦)	宿泊地	現・市町村名	宿泊宅	特記・天体観測	大図番号				
28	27	26	3月25日	(28)	(27)	(26)	(25)	府中城下横町 ○対馬	同	同	同	本陣土肥屋仁左衛門 土肥屋惣左衛門 土肥屋甚吉	昨夜より雨、終日。此夕、鯨魚二を漁す。	一九一
28	27	26	同	同	同	同	同	塩津庄右衛門 八木喜右衛門 竜井与八郎	同	同	同	曇天、東南風。順風に付六ツ半後、勝本浦出船。八ツ後、対馬国府中宗対馬守城下着。領主より国産を贈。恒星測定	一九一	一九二
24	23	22	勝本浦	同	同	同	同	土肥屋惣左衛門 土肥屋甚吉	逗留測。箱崎村字畑下より沿海順測、ミサゴ鼻、字浪無浦、長瀬鼻、引島大岩、字前諸津、字後諸津、魚釣崎、赤瀬鼻、鯨瀬鼻、赤瀬にて両手合測。	箱崎村瀬戸浦より勝本街道測。大左石蟹田を歴て式内佐肆布都神社へ打上。蟹田より字蛸瀬、字日隠、針尾庄屋下に繋。新城村東舩、西方谷、打田川、字打田、字城ノ辻に繋終る。	一九一	一九一	一九一	
24	23	22	同	同	同	同	同	土肥屋惣左衛門 土肥屋甚吉	逗留測。箱崎村字畑下より沿海順測、ミサゴ鼻、字浪無浦、長瀬鼻、引島大岩、字前諸津、字後諸津、魚釣崎、赤瀬鼻、鯨瀬鼻、赤瀬にて両手合測。	箱崎村瀬戸浦より勝本街道測。大左石蟹田を歴て式内佐肆布都神社へ打上。蟹田より字蛸瀬、字日隠、針尾庄屋下に繋。新城村東舩、西方谷、打田川、字打田、字城ノ辻に繋終る。	一九一	一九一	一九一	
24	23	22	瀬戸浦	同	同	同	同	木屋是助 木屋藤太	諸吉村芦辺浦、海辺・街道追分より沿海順測、黒崎、松崎、中ノ郷村、国分村字当田、箱崎村谷合川尻を歴て川端、勝本街道迄打上、字谷合、谷合川を渡、瀬戸浦より勝本浦街道に出、字針ノ尾坂迄測る。又箱崎村谷合川尻より谷合川を渡、字鉾崎、字大久保、字阿弥陀崎波戸迄沿海を測る。此波戸より瀬戸浦人家へ瀬戸巾を測る。又字阿弥陀崎波戸より字向瀬戸、字大左石、瀬戸浦入口、勝本浦道追分を歴て、此より裏海、字塩津浜へ横切、又勝本浦道追分より瀬戸浦(西町、中町、南町)波戸より渡に繋、それより立神鼻、鷺巢島(大岩)、竜神崎、犬ヶ瀬(磯)、それより横切の字塩津浜に繋、字前目、字畑下にて打止。	箱崎村瀬戸浦より勝本街道測。大左石蟹田を歴て式内佐肆布都神社へ打上。蟹田より字蛸瀬、字日隠、針尾庄屋下に繋。新城村東舩、西方谷、打田川、字打田、字城ノ辻に繋終る。	一九一	一九一	一九一	

地図のまち・佐原のまちづくり

石嶋 博行

はじめに

私は平成元年度から、千葉県立佐原女子（現・佐原白楊）高等学校で、社会科（現在は地理歴史科と公民科で構成）教諭として九年間勤務しました。

平成四年十一月に、千葉県内の高校地理教員が参加する地理部会秋季研究大会の当番校となり、一泊二日で開催。「歴史と地図のまち・佐原」をテーマに講演や巡検を、香取地区五校の地理の先生方と企画運営することになり、この大会準備を契機に佐原を「歩く・観る・考える」ようになりました。

地元からの講師は、佐原青年会議所理事長大川裕志様に依頼し、「地図のまち・佐原のまちづくり」を演題に講演していただきました。大川様は、登録商標「忠敬漬」の商品名で、瓜の鉄砲漬を製造販売する漬け物屋の二代目店主でした。会場は階段状の視聴覚教室で、ほぼ満席で九三名が参加しました。

ここでは、地図のまち・佐原のまちづくりの歩みと見聞したことを紹介したいと思います。

一 地図のまちのはじまり

青年会議所の二〇〇四〇歳までの若い人たちが、一九八〇年代から、「住んでいる市民が自信をもてるまち」をつくっていきこうと、佐原の歴史を調べたり、かつて利根川舟運で繁栄した街を歩き、活動を重ねていくなかで、小野川べりの町並みがよいことに気づいていく。それから、小野川と佐原

の町並みを考える会や佐原町並み保存会が発足した。川越や栃木の蔵の町を視察する中で、歴史的町並みを保存し、首都圏で「江戸がみられる佐原」というまちづくりの方向性がみえてきたという。

その頃、伊能忠敬の生き方、特にセカンドライフが注目され、ふるさと創生事業や井上ひさし著『四千万歩の男』が話題になっていた（表1）。

佐原の風土と歴史と人物が、地域活性化のテーマとなり、まちづくりの可能性になると話された。

新しい伊能忠敬記念館建設構想、測量の日制定に因んで、地図展開催や経緯度ミニメント作成、「地図のまち」らしさを可視化していくために、忠敬の歩幅ミニメント（一歩二尺三寸＝70cm）作成と、歩ける街にするために、一方通行の多い街中に案内標識作成と、まちづくりの始まりと十年間の青年会議所の活動を熱心に話された。

また、西川治先生が提唱された「国立地図学博物館」建設構想が、大山や神戸にあることも紹介され、佐原には残念ながら土地がないことも話された。

二 町並みを歩く

扇島にあった与田浦荘の宿舎からバスで観福寺（忠敬菩提寺）へ移動。ここから二班に分かれて徒歩で与倉屋（明治中期の土蔵）へ、小野川沿いの伊能忠敬旧宅、忠敬橋から香取街道に出て、中村屋乾物店、佐原三菱館（大正期のレンガ造り元銀行）へ、小野川沿いに戻り、正上いかだ焼き本舗（商家と土蔵）、正文堂書店、小堀屋本店（天明二年創業の蕎麦屋）、福新呉服店と見学し、そして東薫酒造の工場見学。秋晴れの温故知新の巡検でした。



図2 テレホンカード NTT 佐原支店 1991



図1 オレンジカード JR 東日本佐原駅 1991

三 おもしろ地図展

青年会議所主催の地図展が昭和六三年から開催第2回地図展は、平成元年開催。6月3日「測量の日」制定元年創設に因んで、佐原では、地図のまち佐原シンポジウムが、地図展と同じ中央公民館で開催。国土地理院長をはじめ、伊能家当主伊能敬氏、佐原市長、佐原青年会議所理事長など六名のパネラーの方々が、それぞれの立場から考えられるまちづくりのアイデアを発表されました。おもしろ地図展は、次のテーマで展示でした。

展示1 地図であなただは鳥になる

「鳥瞰図」と「土地利用図」

展示2 飛行機に乗って

「航空地図」と各国の「世界地図」

展示3 タイムマシンにお願い

「古地図」

展示4 地図をにらんでマップつぷ

都道府県ジグソーパズル

展示5 日本全国おもしろマップ

全国一四〇ものまちの青年会議所が

この地図展の趣旨に賛同して、送って

くれた特色あふれる地図

展示6 未来の地図はあなたが描く

香取郡市の小学生に書いていただいた

絵画と作文、夢をひろげる理想のま

ち

この地図展で、全国のまちの地図、創造あふれる地元の子供たちの絵を楽しむことができた。このおもしろ地図展の案内にある理事長の「地図のまち・佐原」のまちづくりへの思いを紹介します。

昨年につづき、第2回の地図展を企画しました。

このまちを訪れる人、このまちに住む人、ひとりひとりの心の中に、未来への夢と世界へのあこがれをいっばいに詰めこんだ地図が一枚ひろがってゆく、そんなまちをつくりたいという願いから出発した「地図のまち・佐原」構想。

よりよいまちに暮らしたいというのは、すべての人に共通した想いです。しかし「まちづくり」は一朝一夕に成るものではありません。伊能忠敬先生がつくりあげた日本地図がたくさんの人々の協力と地道な努力との結晶によって完成したように、わたしたちの「まちづくり」も時間をかけ、地域を愛するすべての人が心を合わせていかなければ成り立ちません。

今回の地図展にも昨年同様、子どもたちの描いた絵画・作文を展示させていただきました。このまちの未来を担い、未来の世界を創造してゆく若い世代たちのすこやかな夢を摘み取ることにないように、わたしたちすべての責任は重大です。

今年は「測量の日」制定元年。常に変化し続ける世界の中で、自分の位置を確かめながら、未来地図の測量へ、新しい一歩を踏み出す時です。「未来」はいつでも「今」から始まり「世界」はいつも「ここ」から始まります。

1989年6月2日

社団法人 佐原青年会議所
理事長 本 宮 達 男

この年は、佐原市（自治振興課）と青年会議所の共催で、「地図のまち佐原フェスティバル」として、様々な催しが企画された。地図展やシンポジウムのほかに、目と足で距離を測る測量体験、クイズとオリエンテーリングのまちなか忠敬ウォーク、国土地理院見学のバスツアーと、測量の日をはさんで三日間開催と大きな事業になっていた。

四 環境標語コンテスト

平成七年から地図のまち・佐原 環境標語コンテストが青年会議所主催で開催されるようになり、佐原駅にも募集用紙が置いてあり、私も応募しました。当時私は、成田線で千葉から佐原まで一時間通勤していたので、考える時間は楽しかったです。

当時の佐原駅は、木造切り妻瓦屋根のローカル線にあるごく普通の駅舎でした。「北総の小江戸へようこそ」の横看板が改札出口にあり、薄暗い待合室の壁上には、伊能忠敬の肖像画が掲げられていました。

私は二年連続佳作で、作品は次のとおりです。

第二回 忠敬さんも好きです環境美化と地図のまち

第三回 アヤメ咲く水郷佐原は地図のまち
次に最優秀賞の作品を紹介します。

第一回 伊能忠敬ゴミをまたがず四千万歩

第二回 江戸情緒未来につなげる地図のまち

第三回 忠敬も微笑む佐原美化の街

表彰式は香取神宮で行われ、墨書で全作品が掲示された。副賞は佐原共通商品券でした。出品者の佐原や忠敬さん、環境美化について、そして地図のまちへの人それぞれの思いを感じました。

五 伊能忠敬研究会へ入会

一九一〇年創立の女子高には、伊能忠敬命日に観福寺墓参という伝統があり、放課後、町並みを歩いて生徒会役員と顧問とで行っていました。

また、郷土部（のちに地域研究部）があり、平成九年度文化祭（ポブラ祭）では、「地図のまち」をテーマに、忠敬と地図に関連する商品紹介と部員が名付けた「忠敬お好み焼き」の模擬店で発表。女子高校生にも佐原の人たちも好評でした。

「地図のまち」の定着、「忠敬さん」への愛着、「忠敬先生」への敬意、市民のまちづくりへの積極的な参加を感じる商品は、当時次のようなものでした。

忠敬漬（昆布入り鉄砲漬 一九八五から）
忠敬手ぬぐい（忠敬翁と日本地図 一九八六から）
ただたか翁（和風クッキー 一九九〇から）
やぶ北茶忠敬好み（緑茶 一九九一から）
忠敬翁（PB 日本酒 一九九二から）
地図サブレ（チーズ味とバナナ味 一九九三から）
地図のまち・佐原に九年間勤務したことを記念に、私は、伊能忠敬研究会に平成一〇年入会しました。

この年、新伊能忠敬記念館開館を機会にして、佐原で第一回総会が九月に中央公民館で開催。地図のまち・佐原 忠敬出立記念式典が文化会館で開催。その記念レセプションが与倉屋土蔵であり、「平成の伊能忠敬・ニッポンを歩こう！」の出立旗授与で名誉隊長となった俳優の加藤剛さんも参加され、多くの女性陣に囲まれていました。渡辺一郎代表が「若い会員が入ると嬉しい」と、ライトアップされ、大土蔵の屋根を支える丸太の梁の下で、私に声をかけてくれたことをよく覚えてい

ます（表1）。

六 まちのづくりの授業

地域の調査と研究という単元で、「地形図」… 25000 佐原の読図と作業」を主題に2時間演習をしました。

作業・水系着色 ・標高点〇つけ ・等高線着色
・土地利用図作成（田・畑・果樹園・樹林）
読図・地形断面図作成（利根川低地から下総台地）
・佐原駅から香取神宮までの近道を見つけてその道のりと徒歩所要時間を見いだす
・河港のある交通・商業都市に因む地名探し
創作・現在の佐原はどんなまちと言えるか

〔例〕佐倉 水と緑と歴史のまち（1982）
佐原 地図のまち（1988）（図1・2）
銚子 魚と醤油と灯台のまち（1991）
佐原の歴史と産業にもふれ、これから市民として、どう生きてゆくかも考えさせたかった授業でした。

あとがき

平成一〇年度異動により、銚子市内の高校に勤務することになり、地図のまち佐原とは、だんだん疎遠になってしまいました。利根川水運で栄えた河港都市佐原から下流四〇Kmに、利根川河口港町銚子があり、現在私はここで暮らしています。香取市も銚子市も千葉県北東部に位置し、県内でも少子高齢化により人口減少が進んでいる地域です。

香取市（二〇〇六年誕生）は、観光拠点である佐原の歴史的町並みや小野川が東日本大震災で大きな被害を受け、復興へと歩んできました（表1）。

日本初の実測で日本全図を完成させた伊能忠敬という人物を育んだ佐原、そして町の歴史的文化的価値を活かしたまちづくりは素晴らしいと思います。

地図のまち・佐原を表現した絵地図（イラストマップ）で、小江戸巡りを楽しんで下さい（図3）。

参考文献・資料

小島一仁 伊能忠敬（一九七八）207p 三省堂
日本ナショナルトラスト編（一九八四）佐原の町並み 232p 佐原市・日本ナショナルトラスト

伊能忠敬 その業績と周辺の人たち（一九八五）

322p 千葉県立大利根博物館友の会
地図のまち佐原シンポジウム（一九八九）B4版
おもしろ地図展（一九八九）B4版 佐原青年会議所

井上ひさし 四千万歩の男（一）〜（五）（一九九〇）全五巻 1893p 講談社

日本国際地図学会監修 大日本沿海実測図
伊能中図（一九九三）全九編 武揚堂

渡辺一郎 伊能忠敬が歩いた日本（一九九九）

222p 筑摩書房

宮内敏 富士山方位に拘った銚子測量の検証（二〇一一）伊能忠敬研究 第六三号 28〜

342p 伊能忠敬研究会

北総の小江戸水郷さわら観光MAP（二〇一八）B3版 伊能忠敬没後200年 水郷佐原観光協会



忠敬 SUN 2003 から
NHK 大河ドラマ化
推進委員会キャラクター

表1 「地図のまち 佐原」のあゆみ

西暦年	元号年	日本国のおもな出来事	国の政策と法令	地方の動き	「地図のまち」関連	人口・人
1960	昭和35	日米新安保条約調印	国民所得倍増計画		1959 水郷（現・水郷筑波）国定公園指定	49,564
1961	昭和36		農業基本法		伊能忠敬記念館開館	
1962	昭和37		全国総合開発法	新産業都市・工業整備特別地域		
1963	昭和38		中小企業基本法			
1964	昭和39	東京オリンピック	OECD加盟	東海道新幹線開業		
1965	昭和40		日韓基本条約		国道356号制定	47,561
1966	昭和41		戦後初の赤字国債発行			
1967	昭和42		公害対策基本法		1969 国鉄成田線SL運転終了（C57-143）	
1968	昭和43	GNP資本主義国第2位		住友金属鹿島製鉄所操業	1970 国鉄鹿島線（佐原～鹿島神宮）開通	
1969	昭和44			鹿島港開港と進む工業地域開発	水生植物園 開園	
1970	昭和45	大阪万国博覧会	国鉄「ディスカバージャパン」	「地方の時代」への動き	（現・水郷佐原あやめパーク）	46,761
1971	昭和46	沖縄返還協定調印 72返還	環境庁設置	上越新幹線（大宮発）開業	1970 佐原河港廃止埋立	
1972	昭和47	札幌オリンピック	日本列島改造論	山陽新幹線開業		
1973	昭和48	円変動相場制に移行				
1974	昭和49			池田町「十勝ワインとワイン城」	『伊能忠敬の科学的業績』保柳睦美	
1975	昭和50	第1回先進国首脳会議開催	文化財保護法改正	ブドウ・ワイン研究所とまちづくり	エル特急「あやめ」運行	48,670
1976	昭和51					
1977	昭和52					
1978	昭和53	新東京国際空港開港	日中平和友好条約		『伊能忠敬』小島一仁	
1979	昭和54	東京サミット開催				
1980	昭和55			大分県「一村一品運動」		49,200
1981	昭和56					49,276
1982	昭和57			東北新幹線（大宮発）開業	古い町並み保存調査・観光資源保存財団	49,314
1983	昭和58			東京ディズニーランド開園	1982 特急「すいごう」運行	49,310
1984	昭和59					49,375
1985	昭和60	電電公社・専売公社民営化	男女雇用機会均等法		『伊能忠敬—その業績と周辺の人たち—』	49,784
1986	昭和61	バブル景気（86～91）		東関東自動車道佐原香取IC開通	千葉県立大根博物館	49,633
1987	昭和62	国鉄分割民営化	総合保養地域整備法	リゾート開発	1988 水郷佐原山車会館オープン	49,507
1988	昭和63				忠敬と地図のまち佐原フォーラム	49,459
1989	平成元	消費税3%導入	ふるさと創生事業	地域振興交付金1億円の活用	「地図のまち・佐原'89」	
1990	平成2		首都機能移転論浮上	1989「測量の日」制定	佐原市制40周年	49,546
1991	平成3	ペルシャ湾岸戦争	日米牛肉・オレンジ自由化		1990『四千万歩の男』井上ひさし	
1992	平成4	PKO協力法成立			「地図のまち・佐原'92」	
1993	平成5	冷夏 平成の米騒動	連立政権「地方分権」	外国人技能実習制度導入	千葉県立大根博物館 佐原巡検	
1994	平成6	関西国際空港開港	「地方分権大綱」閣議決定	佐原市歴史的景観条例施行	1995「伊能忠敬研究会」結成	
1995	平成7	阪神淡路大震災	育児・介護休業法	世界遺産登録・白川郷	地図のまち佐原フェスティバル	49,945
1996	平成8		小選挙区制衆議院選挙	世界遺産登録・原爆ドーム	地図のまち・佐原'96 環境標語コンテスト	
1997	平成9	消費税5%導入	介護保険法	諫早湾干拓事業で水門閉鎖	重要伝統的建造物群保存地区選定	
1998	平成10	長野オリンピック	中央省庁改革関連法	長野新幹線開業・NPO法	江戸東京博物館「伊能忠敬展」	
1999	平成11		地方分権一括法	地域振興券発行	伊能忠敬記念館OPEN 没後180年	
2000	平成12	九州・沖縄サミット	行政改革	市町村合併	1999『伊能忠敬の歩いた日本』渡辺一郎	48,739
2001	平成13				映画「伊能忠敬-子午線の夢-」	
2002	平成14		三位一体の改革 = 補助金削減・税源移譲・地方交付税見直し			
2003	平成15		構造改革特区法と地域経済の活性化		『四千万歩の男 忠敬の生き方』	
2004	平成16	新潟中越地震		世界遺産登録・紀伊山地霊場参詣道	佐原の大祭国指定重要無形民俗文化財指定	
2005	平成17	中部国際空港開港	郵政民営化法	平成の大合併	2004 「すいごう」名称を「あやめ」に統合	47,240
2006	平成18		道州制導入提言	夕張市が財政破綻	香取市（佐原市+小見川・山田・栗源の町）誕生	88,268
2007	平成19			B-1グランプリ まちおこし		87,206
2008	平成20	洞爺湖サミット	後期高齢者医療制度	ふるさと納税制度		86,203
2009	平成21	民主党に政権交代	「地域主権」	「年越し派遣村」	第1回香取小江戸マラソン大会開催	85,453
2010	平成22		合併特例法期限	ゆるキャラグランプリ	道の駅・川の駅 水の郷さわら開業	84,731
2011	平成23	東日本大震災・原発事故	復興基本法	九州新幹線開業	伊能忠敬関係資料（2345点）国宝指定	83,710
2012	平成24		社会保障・税一体改革関連法	世界遺産登録・小笠原諸島と平泉	2011 市内各地で建物被害（6190棟）	83,380
2013	平成25	TPP交渉参加	アベノミクス	世界遺産登録・富士山	と液状化被害（約3500ha）	82,117
2014	平成26	消費税8%導入	地方創生政策	リニア中央新幹線着工	全国地理教育研究会佐原巡検	80,113
2015	平成27	持続可能な開発目標採択		北陸新幹線開業	特急「あやめ」定期運転廃止	79,051
2016	平成28	熊本地震		北海道新幹線開業	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じ	77,962
2017	平成29		技能実習適正化法		る北総の町並み」日本遺産認定	77,962
2018	平成30	豪雨災害頻発	外国人労働者の受入拡大	世界遺産登録・長崎天草潜伏キリシタン遺産	佐原の山車行事ユネスコ無形文化遺産登録	77,029
2019	令和元	G20大阪・消費税10%導入	プレミアム商品券発行	すすむ少子高齢化と地域格差		75,633
2020	令和2	新型コロナウイルス禍	新型コロナウイルス感染症対策	新型コロナウイルス感染症対策	佐原の大祭等行事の中止	74,822

資料1. 毎日新聞 2018年11月7日（水）紙12版 特集「平成 地方の姿容」

資料2. 最新現代社会資料集 新版 2014年発行 「第二次世界大戦後の歴代内閣・政党政治のあゆみ」

資料3. 統計から見た千葉県のすがた'96

資料4. 佐原市勢要覧1989年・2012年

資料5. 佐原駅前案内板「佐原駅を中心とした歴史」

資料6. WEBサイト検索

などから作成

伊能図完成二百年・地方展

金沢海みらい図書館で開催決まる

石川県支部 河崎倫代

2021年1月に、金沢海みらい図書館（2011年5月開館）で「伊能図完成二百年・地方展」を開催することになった。今後、日本各地で開催されることを期待し、その経緯・内容を簡単に紹介したい。

海みらい図書館では普及活動の一環として【地域を学ぶ事業】が企画・実施されてきた。石川県支部では、図書館が伊能隊の測量ルートである「宮腰往還」沿いに立地することから、「伊能図完成二百年記念」イベントに相応し



【金沢海みらい図書館】約6,000個の丸窓を配置し、外壁など、斬新なデザインの建物となっているが話題。

い施設と判断し、独自の企画案を持ち込んでみた。

話し合いは順調に進み、以下の要項での開催がほぼ決定した。各地の図書館・公民館等でも、地域に関連したちよつとした企画が求められていると思われる。「伊能図完成二百年」の年に、日本列島の各地で小さなイベントが生まれれば楽しい！

「伊能忠敬測量隊、宮腰往還に行く」

— 伊能図完成二百年 —

開催内容

①伊能図完成二百年展示

・期間 2021年1月7日(木)

・展示内容 1月12日(火)

・展示内容

東博伊能中図(複製8枚)

伊能大図(復元図)

御用旗・肖像画(複製)

伊能忠敬関連書籍等

②講演会

・日時 2021年1月9日(土)

・講師 石川県支部会員

③ミニ歩測大会

・日時 2021年1月10日(日)

・対象 小学5〜中学3年生

※各地でのイベント開催で講師派遣・展示内容等の支援が必要な場合は事務局にご相談ください。

伊能忠敬銅像建立20周年記念式典

10月17日(土)に東京江東区の富岡八幡宮に建立されている伊能忠敬の銅像建立から20周年の記念式典が、伊能図完成200年記念事業推進協議会の主催で開催されました。式典の参加者は、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、銅像建立に協力のあった測量・地図に関する団体の代表者25名ほどでした。

銅像建立は2001年10月17日でしたので、実際は19年ですが、銅像建立を主導した渡辺一郎さんからこの式典にはどうしても参加したいという要望があったため、1年前倒しすることを決めて準備をしてきましたが、渡辺さんは6月28日に他界されました。参加は叶いませんでした。当日は生憎雨でしたので、銅像前で実施する予定だった式典は、八幡宮の婚儀殿で行われました。式典は午後2時から始まり、はじめに、八幡宮本殿でお祓いを受け、式典会場の婚儀殿に移動して、主催者代表、来賓等の祝辞が述べ

られ、参加者で記念撮影をしてセレモニーは終了しました。

来賓として出席された、伊能洋氏からは、見学者が「見上げる台上の像ではなく、銅像と一緒に並んで写真が撮れるような忠敬さんでありたい」という、この銅像が地上レベルに設置されたことへの思いが述べられ、制作者の酒井道久氏からは、これまで無事であったことに安堵の思いが述べられました。

式典会場には、銅像建立時に埋設したタイムカプセルが事前に掘り出され、収められていた品に、参加者は20年の歳月を確認するかのように入っていました。

セレモニー終了後は、雨の中でしたが全員で銅像を見学し、渡辺一郎さんが寄贈した伊能図や関係資料を

展示している資料館を見学して式典を終りました。



二〇二〇（令和二）年度

総会報告（紙上で実施）

令和二年度の総会は例年通り富岡八幡宮にて開催することで周知していましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、会員に総会資料を送付する紙上総会という形で開催しました。これに伴い、講演と懇親会は中止となりました。

議案については、回答期限（六月一〇日必着）までに以下の通り議決票による回答があり、すべて承認されました。なお、議決票にご記入いただいた近況やご意見・ご感想を次頁以下に掲載しました。今後の会運営の参考とさせていただきます。

紙上総会結果

※回答率六〇％（無効票を含む）

議決票数（計一〇五枚／一般会員数一七五人）

有効票 一〇三（期日までに到達したもの）

無効票 二（締切経過後に到着したもの）

議案の賛否

・第一号議案 賛…一〇三 否…〇
・第二号議案 賛…一〇三 否…〇

・第三号議案 賛…一〇三 否…〇

・第四号議案 賛…一〇三 否…〇
・第五号議案 賛…一〇三 否…〇

（第六号議案）は誤記載でしたので削除します。ご指摘有難うございました。

会則十六号の規定により、第一号議案から第五号議案までの全ての議案が承認されました。

※会則十六条 総会の議決は、出席会員の過半数を以て行う。

（ただし紙上総会は、会則の「出席会員」を「議決票」と読み替え、期日までに事務局に到着した議決票の過半数を以て行う。）

議案の概要

（第一号議案）

二〇一九年度（平成三十一・令和元年度）事業報告

1. 会員動向（19年6月1日～20年3月31日）

・入会者（一般会員）…3名
狼勢津子、河合保生、菅井ゆたか

・退会者（一般会員）…10名
菅井慎一（逝去）、西川治（逝去）、

勝又洋、小坪隆、関根秀次、平岡佳子、廣嶋憲一郎、本郷靖枝、松本和典、矢能彰

2. 事業等

・総会

19年6月2日 富岡八幡宮
婚儀殿（東京都江東区）懇親会

・理事会

第1回 19年11月4日
第2回 20年2月9日
第3回 20年4月20日～22日

※メール会議

・会報発行

88号（64頁19年6月28日発行）
89号（56頁19年10月31日発行）
90号（80頁20年2月29日発行）

3. 後援・協賛事業（講演は研究会として対応したもの。会員個人として行ったものを除く）

・後援「地図展2019近代京都150年を俯瞰する」地図展推進協議会（19年9月13日～23日）

・後援「伊能忠敬富士山測量記念碑建立事業」志摩市教育委員会

・講演「伊能忠敬の志摩測量」星埜由尚特別顧問

（19年12月15日）志摩市磯部生涯学習センター

・講演「伊能忠敬の人間像―人生を二度生きる―」

鈴木純子特別顧問

（20年1月31日）千葉県佐倉市中央公民館

4. 報道・番組への対応

「所ジョージの笑ってコレえて」

日本テレビ（19年8月7日）ほか

（第二号議案）二〇一九年度決算報告（次ページ）

（第三号議案）二〇一九年度監査報告（次ページ）

（第四号議案）

二〇二〇年度 事業計画案

1. 総会（紙上）

2. 理事会（4回予定）※メール理事会を含む

3. 会報発行
第91号（6月発行）、第92号（10月発行）、第93号（2月発行）

4. 後援・協賛事業等
地図展協議会 地図展への協力等、要請があった事業について検討のうえ対応する。

5. 「伊能図完成200年」記念事業（1）「伊能図完成200年」記念事業の実施準備

2021年が伊能忠敬『大日本沿海輿地全図』の完成・上呈から200年の節目の年に当たることを記念して実施する記念事業の準備をする。

〔事業内容（案）〕

第2号議案

2019（平成31・令和元）年度 伊能忠敬研究会決算報告

会計期間：2019（平成31・令和元）年4月1日～2020（令和2）年3月31日

収入 単位：円

項 目	予算a	決算b	増減b-a	備 考
会費(当年度分)	950,000	875,000	-75,000	一般会員182 購読会員3 特別会員1 未納者14
会費(前年度まで未納分)	80,000	75,000	-5,000	一般会員15
会費(翌年度以降前納分)	0	450,000	450,000	2020年度一般会員88、2021年度一般会員2
会誌売上	30,000	66,000	36,000	会報76冊、記念誌1冊
雑収入		1	1	銀行利子
(前年度繰越金)	714,917	714,917	0	
合 計	1,774,917	2,180,918	406,001	

支出 単位：円

項 目	予算a	決算b	増減b-a	備 考
会報作成費	360,000	391,975	31,975	印刷費371,975、編集費20,000
会報誌発送費	180,000	171,794	-8,206	ヤマト便165,860 その他の送料代5,934
総会費	120,000	119,922	-78	資料印刷、会場使用料、懇親会補助
事務所賃料	268,800	273,600	4,800	22,800×12ヶ月 消費税値上げにより改定
通信費	60,000	40,811	-19,189	電話代38,629、銀行振込手数料2,182
事務費	150,000	61,335	-88,665	交通費20,000、事務用品41,335
予備費	636,117	107,380	-528,737	貸会議室19,560、後援事業旅費等 87,820
合 計	1,774,917	1,166,817	-608,100	

(収入) 2,180,918 - (支出) 1,166,817 = (差額) 1,014,101

【預金残高】ゆうちょ銀行 994,362 円

(次年度繰越金) 1,014,101

みずほ銀行 19,739 円

※2020年度以降会費 450,000円を含む

合 計 1,014,101 円

上記のとおり報告します。

令和2年5月10日

事務局長

前田幸子

第3号議案

2019（平成31・令和元）年度 伊能忠敬研究会監査報告

2019年度決算報告は、入出金記録簿と証書書類を照合し確認した結果、適正と認めます。

令和2年5月15日

監 事

清水靖夫

第5号議案

2020（令和2）年度 伊能忠敬研究会予算（案）

会計期間：2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日

収入 単位：円

項 目	前年度予算a	当年度予算b	増減b-a	備考
会 費	1,030,000	965,000	-65,000	一般会員175 購読会員3 特別会員1 合:前納未納分
会誌売上	30,000	30,000	0	会報誌
前年度繰越金	714,917	564,101	-150,816	
合 計	1,774,917	1,559,101	-215,816	

支出 単位：円

項 目	前年度予算a	当年度予算b	増減b-a	備考
会報作成費	360,000	395,000	35,000	印刷費125,000×3、編集費20,000
会報誌発送費	180,000	180,000	0	ヤマト便、その他の送料
総会費	120,000	50,000	-70,000	資料印刷費、送料等
事務所賃料	268,800	273,600	4,800	22,800×12ヶ月 消費税値上げにより改定
通信費	60,000	60,000	0	電話代、銀行振込手数料
事務費	150,000	80,000	-70,000	交通費20,000、封筒等印刷、事務用品他
予備費	636,117	520,501	-115,616	貸会議室、事業派遣費、記念事業準備等
合 計	1,774,917	1,559,101	-215,816	

・記念講演会・式典、祝賀会
 ※総会と合せ実施
 ・会報誌の記念号発行
 ※第95号を記念号とする。
 (2) 関係団体への協力
 ①「伊能図完成200年」記念事業への協力

現在、計画進行中の記念事業
 推進協議会の活動に参画し
 協力する。
 ②その他 各地域において実施
 する記念事業の相談等に対応
 する。

(第二号議案) 二〇一九年度 決算報告

(第三号議案) 二〇一九年度 監査報告

(第五号議案) 二〇二〇年度 予算案

◆議決票に議案が存在しない第
 6号議案の誤記があったこと
 をお詫びします。「伊能図完成
 二〇〇年記念事業」については、
 第四号議案に含まれます。

会員の近況報告・意見等

※五十音順に掲載

議決票の「近況報告・伊能図完成二〇〇年に思うこと等」欄、および「ご意見等」欄へご記入いただき、日頃の思いをたくさんお寄せいただきました。「近況報告等」と「ご意見等」とをそれぞれ分けまして、以下にご紹介いたします。お寄せいただいたご提案・ご要望・ご意見等につきましては引き続き理事会等で検討させていただきます。貴重なご発言ありがとうございます。

◆【近況報告・伊能図完成二〇〇年に思うこと・やりたいこと・やってほしいこと・忠敬さんへ等】

(岡山県) 赤堀浩一
①全国記念碑・案内板等めぐりスタンプラリー

②伊能忠敬で地域活性化取組事例発表会

③伊能忠敬宿泊、観測地の連携強化

④全都道府県に支部を設置

(神奈川県) 秋澤達雄
伊能図以前に各々地方に於い

て何かしらの地図があったと思う(精度の低い)。

また地図のないところもあったかも。

全国各地の歴史的掘り起こし集大成望まれる時が来ると思うどうか。

(福岡県) 石川清一

新型コロナウイルス発生以来、地域での会合や勤務先OBの集まりなど、定期的に月4〜5回あった出事が全て中止の状態です。唯一自宅近くの公園まで1日2回に分け7,000歩ほど歩く以外は、新聞、TV、本(軽いもの)など読むくらいで(他にたまの家飲み少し)一日があつという間に過ぎて行く単調な自粛生活です。今年度の九州支部総会(6月末予定)も、他県への移動自粛が求められている中で開催が難しく、丁度今支部会員への中止のお知らせの心配を終えたところです。皆さんコロナに注意しましょう。くれぐれもご自愛ください。

(千葉県) 石嶋博行
一般会員として、調査・研究、啓発・顕彰の取り組みができてい

ません。

「銚子ジオパーク」のガイドでは、必ず伊能忠敬富士山方位測量と犬岩岬が紹介されます。詳しくは「伊能忠敬研究」2011年第63号『富士山の方位に拘った銚子測量』宮内敏P.28〜P.34です。すばらしい先輩です。

(神奈川県) 石橋明

新型コロナウイルス禍の影響で安全マネジメント研究所の対外活動が全く停止してしまっておりです。伊能図完成200年記念を盛大にお祝いして当時の日本文化の素晴らしさを現代の若者に伝えていただきたいと存じます。

この大事業を忠敬翁の第二の人生で成し遂げられたことにも大きな意味があります。人生100年時代を迎えて大学・就職・隠居の3ステージでは、社会が成り立ちません！マルチステージの人生が理想です！そのお手本でもあります！

(東京都) 伊能洋
忠敬学に於ては、まだまだ不明、不備の点が沢山あります。会員の

皆様のお力で、より完全なものにして行ければと願っています。そして生身の人間としての忠敬が、より広く知られますように。

(京都府) 岩村哲

NHK大河ドラマに取り上げてもらいたいものです！

(兵庫県) 大西道一

上行結腸憩室出血で入院。現在は小康状態で、自宅療養中です。よろしくお願い申し上げます。

(石川県) 大星正嗣

第5号議案は前年度の予算と当年度の予算を比較しています。が、これは前年度の決算と比較し、前年度の実績をもって今年度の予算を検討すべきです。

(神奈川県) 大八木照行
やりたい事IIコロナ禍が終了した後の六月頃か雪が無くなつてから北海道の一部分を歩き、間宮林蔵氏グループが歩いた道を歩いてみたいと思います。折線トラバース測量と海岸線の書き入れ方法です。又沿岸の高い土地も見て、方向線を引いて数百米行

き方向線を引き交点を打つという点があるのか。歩いてみたいのです。私の行った測量方法との違いを知りたいのです。

(兵庫県) 加賀尾宏一会報第90号の各地のニュース欄で取りあげていただきました市内小学生向け教材 丹波篠山ふるさとガイドブック「伊能忠敬の歩いてつくった笹山領の地図」について、地元社会科の高校教諭から、わかりやすく、大人や高校生にもぴったりの本として評価されております。しかし、教育委員会から小学生向け以外は非売品扱とのことで、広く配布することができず、残念しています。

(千葉県) 柏木隆雄 忠敬の三女・琴の長男、松田丈一郎は明治期「今芭蕉」と言われるほどの俳諧の宗匠でした。亭々堂聴松

(神奈川県) 金子和蔵 私に住んでいる相模原市にはJAXA宇宙科学研究所相模原キャンパスがあります。宇宙研究のひとつの目的に「Who am I?」

があると聞いたことがあります。人間はどこからきたのかという疑問、つまり、「はやぶさ2」は、惑星の起源、水の起源、生命の原材料の探求をミッションとして飛びたち、もしかしたら、その疑問を解く材料を持ち帰るかもしれません。ひるがえって、忠敬さんの仕事は、地球の大きさ、日本の姿・形を知ることでした。日本人が住む国はこんな形だというアイデンティティーを与えてくれました。宇宙に目を向けた忠敬さんの仕事と「はやぶさ2」は、今つながろうとしています。

(石川県) 河崎倫代 2021年1月に、金沢市立海みらい図書館「伊能図完成200年記念・講演会と地図展」(仮称)の開催が決まりました。伊能測量隊が量程車を曳いて歩測した宮腰往還沿いにあります。

2021年度、各地の会員によって地域の公民館・図書館等でのちよつとした企画が進展することを願っています。先駆けとして実践し、参考となるような情報を発信できればと思っています。

(福岡県) 河島悦子 ある女性が、母の実家は忠敬師が二度泊まったと話していました。旧姓は木村で田川郡香春町で米屋源右衛門といい、町年寄でした。筑豊には大坂城夏の陣で没した木村重成の子孫がいると聞いているので、もしやと聞けば、そうですと双方びっくり。江戸期はひた隠し、現代は忘れられてしまいい、でも血は連綿と続いている。二百年たってつい先頃の話なんですね。

(兵庫県) 神戸利行 忠敬について学んだことをまとめたと思います。また集めた資料(本など)を大学へ寄贈を考えています。関西でも会をもつてほしいです。

(千葉県) 木内信次 忠敬(三治郎)の生誕 上総國山辺郡小関村で生まれる。(名主小関五郎左衛門家)

三治郎少年6才く10才(母の死) 九十九里の番小屋(家は網元)で海と空(その先の向うは?)夜は星空(宇宙は?) (子供の時の夢、大きくなつら・・・地球の大きさ

を知りたい) 人生50年という時代・・・50才から天文学を学ぶ5年間 56才から、13年・・・地球一周の距離を歩いて、日本地図を作った。少子高齢化の今日、

(1) 学校教育、子供の時、大きくなつたら・・・何を・・・夢を持つてほしい。

(2) 第二の人生(定年後) 何をやろう・・・そう考えてほしい。以上の2点を私達は忠敬翁に学んでほしいと思います。平成22年1月より、大河ドラマに忠敬翁を始める。(渡辺一郎氏の協力も得る)永眠後200年を目標に、成らなかった。

(福岡県) 古賀方子 現在、NPO法人全国街道交流会議(専務理事)として活動しておりますが、地域部会の箱根八里(東海道)や因幡街道、鯖街道等々と200年記念事業との連携ができないか、会員自治体と検討してみたいと思います。

(福岡県) 白石文紀 伊能さんのころは振り時計でしようから日本全国を同時に

天空の観測ができなかったでしょうが、現在の自分達には日本同時の時計を持っています。伊能さんは欲しかったでしょうね、これがあれば経度が出せます。日本全国で月食の時間を会員で出し合っ
て各地の経度を出す、またできれば北極星を測り緯度を出すなどして各地の緯度・経度を伊能さん時代のレベルで求めてみたい。やりたいです！

(東京都) 鈴木純子

諸行事のキャンセルで浮いた時間、再読資料からあらためて先賢の研究の広がりや深さに打たれたりしております。来年には今の混乱も鎮まり、記念行事が順調に開催できますようお願いしております。

(北海道) 高木崇世

研究会の編集スタッフの皆様へ日々のご苦勞に深く感謝します。

(千葉県) 成家淑子

「伊能忠敬研究会」ますますの発展を！

日本全国一周ウォーク、映画

「伊能忠敬子午線の夢」の撮影、研修旅行の旅・・・たくさんの充実した活動、思い出が残されました。よい人間関係に恵まれました。忠敬の地・佐原に住んでよかった。「推歩先生 ありがとう」

(佐賀県) 馬場良平

「伊能図」を見て感動を覚えるような全国規模(ブロック別)のイベントの企画が出来ればと思います。

(長崎県) 平川定美

平成26年5月、200年を記念して、碑を建立しましたが、碑の管理をどうするかについて問題がおきました。幸い、市の働きかけで地域の自治に管理して頂く事にし、設立委員会も解散、すべて自治会にゆだねる事にしました。現在、県立大前の市の庁舎の公園の一角に移転し、市民に親しまれています。参考までに。(発起人)

(兵庫県) 三木敏明

○会報の総目次を作って欲しい。
○忠敬さんが測量前に地元へ提出させた下絵は今、国宝になっている。記念館と共同で刊行すれば、

地方で喜ばれると思う。手伝いにも行きたい。

(福岡県) 渡辺城司

伊能図完成200年にやってほしいこと↓マンガやアニメの製作にて普及させて欲しいと思います。

(匿名希望)

いつもお世話になります。新型コロナウイルスが終息し、記念事業が実施されますことを願っております。会員の皆様がお元気でありますように・・・

(匿名希望)

新会員の上、出不精、不勉強のため当会に仲々没頭できません。会員章(胸バッジ)などあれば、不斷着けていて意識を高めるとか、別の会合で同会員の方と一緒にした時、親交が深められると思うのですが如何でしょうか。(すでにあれば頒布いただきました)

(匿名希望)

・伊能でGOに参加できない方の為に(体調不良の方とか、子供の為に)・クイズでGO・調べ

てGO・地図上でGO のようなゲームで伊能忠敬に興味を沸き、知る楽しみが出てくれば良いなあ！と思っております。
まだアイデアが少なく・・・
ココア
☆ボードゲーム案

◆【ご意見等】

※第6号議案の誤記をお詫びします。

(岡山県) 赤堀浩一

「伊能図完成200年」は月日(記念日)が特定されていますか？

(神奈川県) 秋澤達雄

十余年前、貴記念館に入ったところ、入口正面に石黒信由の肖像画があり、私の郷里の石黒を知っていることを嬉しく思った。

全国的に知って欲しい。亦その価値あり。研究会でも石黒のPRを積極的にして欲しい。

古くは富山県下小学校卒業式に「石黒高樹賞」があり、その復活にも期待できると思う。

東大、数学の織田孝幸教授もその受賞者の一人である。

(福岡県) 石川清一
コロナで大変な年ですが、頑張
って下さい。来年度総会(含記念
事業)の予定は秋頃でしょうか？

(神奈川県) 石橋明
お疲れです！よろしくお願
致します！特に伊能図完成200年
記念事業の盛会を期待申し上げ
ます！

(埼玉県) 井上健
理事の皆様、お役目ご苦労様で
す。本年も宜敷くお願い致します。

(神奈川県) 大沼晃
2021年記念事業を楽しみに頑
張っておりますので、よろしくお
願致します。役員のみなさまもコ
ロナに負けぬようご注意の上、当
日を迎えたく存じます。

(神奈川県) 大八木照行
今年始めに新型コロナのウイ
ルスにより「三密」となり、集合
する事を危険とされて、大変な年
が始まり半年がすぐに成ります。
日本の決算期にも重なって会議
も出来ず、集合する事も出来なく
なりました中、良く作って頂きま

した。上層部の方々に感謝を申し
上げます。ありがとうございます。
た。

(石川県) 大星正嗣
第1号議案から第3号議案は
報告事項ですので意思を求める
事はOKですが、賛否は不要です。
第6号議案は第4号議案の5に
記載されているので、第6号議案
の賛否は不要では？

(兵庫県) 加賀尾宏一
来年度の総会を祈願します。

(山梨県) 河西浩
昨年は、甲府市の社会科研究会
の講師として来県頂きありがと
うございました。山城地区の国土
地理院の地図利用など好評でし
た。甲府では先週より学校が再開
されたばかりで、研究会に至って
は9月まで一回もありません。昨
年の研修会のコンパスや地図利
用を使って授業に使ってみる年
としたいと考えています。

(神奈川県) 金子和蔵
6号議案の項はありませんで
したが、4号議案の中に含まれて
おりましたので、了いたします。

幕府の測量方としての忠敬さん
は、記録に虚偽はなく、誠実その
ものでした。今、時代がかわって、
国の記録がおろそかにされ、誠実
な役人の姿はどこにもみあたり
ません。国の姿を誠実に、愚直な
までに記録した忠敬さんの偉大
さを今、ひしひしと感じておりま
す。

(北海道) 齊藤サダ
お疲れ様です。紙上総会への移
行の事務処理等、本当に大変だつ
たと思います。どうぞ御自愛・御
健祥とて諸事おすごし下さいま
せ。

(兵庫県) 坂本義親
(第6号議案) ↓ 第4号議案の
5、「伊能図完成200年」記念事業
のことですか？

(神奈川県) 新沢義博
来年の総会・懇親会を楽しみに
しております。

(東京都) 鈴木純子
理事の皆様、ご苦労さまです。
ひきつづきどうぞよろしくお願
いいたします。

(千葉県) 高宮ヨリ子
いつもありがとうございます
皆様にお会い出来る日を楽しみ
にしております

(兵庫県) 津田博利
(第6号議案) ↓ 第4号議案によ
り

(千葉県) 戸村茂昭
会報作成費のうち編集費が
20,000となっていますが、編集に
係る諸々(試しプリント・インク
代・紙代・コピー代等)がバ
カにならないと思います。全てボ
ランティアは酷だと思えます。編
集作業の費用、ケイ費を計上した
らいかがでしょうか！

(佐賀県) 馬場良平
紙上総会になったこと残念で
した。会員の高齢化が進んでいる
様子、若い世代の会員増加が急務
と思われます。

(福岡県) 原口光和
世界の地図団体との交流を図
ってはいかがでしょうか？他国
を理解交流する事で、更に伊能忠
敬がよりグローバル化すると思
われます。

(熊本県) 平田 稔
200年記念事業の成功を念じます。

(茨城県) 堀野正勝
「伊能図完成200年」記念事業推進協議会への協力方よろしく
お願いいたします。(現在、計画
進行中)

(石川県) 室山 孝
第6号議案というのは第4号議
案の5でしょうか。

(千葉県) 山村増代
役員の皆様方にはいつも伊能
忠敬研究会をスムーズに運営し
て頂き心から御礼申し上げます。

(東京都) 吉田安津子
平素は会誌等をお送りいた
きまして有難うございます。今日
の「コロナ禍」において、ご苦
勞の多いことと思いますが、く
れも健康にご配慮なさり、会
の維持、発展にお尽くし下さ
いますよう、お祈り申し上げ
ております。

※意見や近況に該当しない短いコ
メントは省略させていただきます。

伊能図完成200年記念の集い

『大日本沿海輿地全図』は、江戸時代後期の測量家伊能忠敬が中心となって寛政12年(1800年)から足掛け17年にわたる測量により作製された日本全土の地図です。
一般には「伊能図」と称され、大図(3万6千分の1)214枚、中図(21万6千分の1)8枚、小図(43万2千分の1)3枚で構成され、文政4年(1821年)に完成し、幕府に上呈されました。
伊能図は江戸時代に作製された地図ですが、明治維新後もヨーロッパから伝わった近代測量による地図が整備されるまで使用され続けました。
令和3年(2021年)は、伊能図の完成から200年目にあたることから、伊能忠敬の業績を顕彰するとともに、これから先も日本の近代化を支えた各地に残る伊能図を末永く守り伝えるため、伊能忠敬が測量の起点にした江東区において、「伊能図完成200年の集い」を開催します。

期 日 2021年4月16日(金)～4月18日(日)

会 場 江東区文化センター

伊能図完成200年記念式典

期 日 2021年4月17日(土) 14:00～15:00
参加費 4,500円(落語会参加費を含む)※関係団体により実施

記念落語会(一般参加:定員350人)

期 日 2021年4月17日(土) 17:00～19:00
「大河への道・伊能測量物語」玄川志の輔
参加費 4,000円 チケット発売日:2021年2月10日以降

記念講演会(一般参加)

期 日 4月18日(日) 13:30～15:00
講 演 「伊能忠敬測量の日本地図を読むー200年前の日本の姿ー」
星望由尚(伊能忠敬研究会特別顧問、元国土地理院長)

※ 入場無料(定員250人)

伊能図フェスティバル(一般参加)

期 日 2021年4月16日(金)～4月18日(日) 10:00～17:00
伊能図と伊能忠敬の測機器の展示、歩測による伊能忠敬の測量体験
※ 入場無料

主 催:伊能図完成200年記念事業推進協議会

構成団体:日本土地家屋調査士会連合会 公益財団法人日本測量調査技術協会 一般財団法人日本地図センター 公益社団法人
日本測量協会 一般社団法人全国測量設計業協会連合会 一般社団法人地図調製技術協会 一般社団法人日本ウオーキング
協会 伊能忠敬研究会

共 催:富岡八幡宮 公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 令和の伊能大図をつくる会

後 援:国土地理院

伊能図完成200年記念の集い

今年度の事業として協力が承認された「伊能図完成200年」記念事業の概要が決まりました。
記念事業の名称は、「伊能図完

成200年の集い」で、2021年4月16日(金)から4月18日(日)の3日間、東京都江東区の「江東区文化センター」で開催されます。
主催者は、伊能図完成200年記念事業推進協議会で、伊能忠敬研

究会は主催者の構成団体として
参画しています。
本行事への参加方法等については、ホームページと次号の会
誌でお知らせする予定です。

『伊能忠敬研究』投稿要領

①原稿の長さ

論文、報告、紹介、などは、本文・写真・図などを含めて一件につき刷り上がり八頁まで、各地のニュース・お知らせなどは刷り上がり一頁以内を原則とします。

*刷り上がり一頁に入る文字数は約2000字（704字×三段または480字×四段）です。長い原稿の場合は連載として分割していただくこともあります。

②原稿のかたち

・本文（テキスト） 原則として、マイクロソフト社のワードなど一般的なワープロソフトで作成された電子ファイルとします。

・写真 一般的なJPEG形式またはTIFFまたはフォトショップのPSD形式でフォーマットされた電子ファイルとし、印刷サイズで350dpi程度の解像度のよい鮮明なものを用意してください。

*印刷サイズが100mm×75mmで350dpiのカラー写真の場合、1MB前後のファイルになります。通常のデジタルカメラやスマートフォンによって5Mモード以上で撮影された画像ファイルで問題ありません。

デジタルカメラのデータ仕様がわからない場合は、L判（127mm×89mm）程度にプリントアウトした鮮明な写真でも結構です。

・図 写真に準じます。原図をコピーする場合は、なるべくスキャナで撮った電子ファイル（JPEG形式またはTIFF形式）にしてください。

③原稿の送り方

左記まで電子メール添付か、CDなどのメディアにコピーしたものを郵送してください。その際、挿入する写真・図がある場合はその位置、およそのサイズを本文中に編集者がわかる形で記入しておくか、概略を記入した割付用紙を添付してください。また、題名、著者連絡先、原稿区分、刷り見込みページ数などを記入したメモ、または原稿整理カードも同時に送付してください。（詳しくはホームページ <http://www.inoh-ken.org/> を参照）

送り先

・電子メール添付の場合 kelino@inoh-ken.org
・郵送の場合 〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6 日本地図センター2階

伊能忠敬研究会「伊能忠敬研究」編集部

④注意事項

- ・編集途中での大幅な追加修正はお受けできません。完成原稿として投稿してください。
- ・図や写真の引用について、必要な場合は投稿する前に執筆者が責任を持って許可を取っておいてください。
- ・引用した文献等については本文末尾にリストや注記等で出典を明らかにしてください。
- ・原稿内容を編集委員会で検討し、不明な点や内容的に不備な点があった場合には執筆者に連絡し、修正または掲載を見送る場合があります。
- ・受理した原稿は原則として執筆者にお返しいたしませんので、必ずコピーをとっておいてください。

次号（第93号）は2021年2月発行

原稿〆切は12月31日の予定です。

皆様からの投稿をお待ちしています！

伊能忠敬研究会入会の御案内

一、本会は伊能忠敬に関心をお持ちの方はどなたでも入会できます。

二、つぎのような活動を行っています。

①会報の発行 研究成果・会員活動情報など 原則として年三回発行

②例会・見学会の開催

③忠敬関連イベントの主催または共催

④その他付帯する事業

三、入会方法等

入会を希望される方は郵便振替で住所、氏名、電話番号、通信欄に専門、趣味、入会の動機、御意見などを書き添えて、年会費五千円を左記にお送り下さい。

会計年度は、四月から翌年三月ですが、年度途中より御入会の場合は、当該年度の会報のバックナンバーをお送りします。

四、伊能忠敬研究会事務局所在地

〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6 日本地図センター2F

電話・FAX 03-3466-9752

（留守の場合は録音テープに吹込んでください。）

事務局メール rta@inoh-ken.org

郵便振替口座 〇〇一五〇六〇七二八六一〇

ホームページ <http://www.inoh-ken.org/>

編集後記 ◇本号は、今年6月28日に他界した伊能忠敬研究会の生みの親といえる渡辺一郎さんの追悼号とし、多くの会員から故人との関わりや思いを掲載させていただいた。◇研究会設立後の会誌1号となる第7号で、渡辺さんは伊能忠敬研究の4つの柱を上げている。

◇一、伊能家に残存する未公開文書の公刊と活字化、二、測量の協力者（受け入れ側）から見た伊能隊の姿の明確化、三、現存する伊能図の探索と評価を与えた台帳化・明治以降の活用、四、忠敬に関心のある人との交流の場として「研究会」を設立し、会誌の発行と見学会等の人的交流の機会を設ける。◇一から三は伊能忠敬研究の方向性を示したものが、四は、研究の成果を共有するための手段である。◇渡辺さんが始めた「伊能図探究」の発刊から92号を数えるが、この機に初心を思い出して本誌の軌道を見直してみたいと思う。（H）